

<<アイルランド>>

リメリック大学

<<アメリカ>>

アーカンソー工科大学

アイオワ大学

ウェスタンカロライナ大学

ウェスタンワシントン大学

オハイオ州立大学ヤングスタウン校

オレゴン大学

カリフォルニア大学アーバイン校

カリフォルニア大学リバーサイド校

カリフォルニア州立大学サンマルコス校

カリフォルニア州立大学スタニスロース校

カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校

カリフォルニア州立工科大学ボモナ校

カンザス州立大学

クレムソン大学

サザンオレゴン大学

ジョージアサザン大学

チャタム大学

ノースアラバマ大学

ノースカロライナ大学シャーロット校

ハンボルト州立大学

ペンシルバニア州立インディアナ大学

<<イギリス>>

オックスフォードブルックス大学

キール大学

ノーサンブリア大学

ブルネル大学

ポーツマス大学

<<イタリア>>

トリノ大学

<<オーストラリア>>

ウーロンゴン大学

サザンクロス大学

サンシャインコースト大学

セントラルクイーンズランド大学

タスマニア大学

ニューカッスル大学

西オーストラリア大学

西オーストラリア大学附属英語学校

<<カナダ>>

キャピラノ大学

セネカカレッジ

ノースアイランドカレッジ

バンクーバーアイランド大学

ビクトリア大学

フレーザーバレー大学

ブロック大学

メディスンハット大学

モントリオール大学

ランガラカレッジ

レスブリッジ大学

<<ドイツ>>

ニルティンゲンーガイスリンゲン大学

マールブルク大学

<<ニュージーランド>>

マッセイ大学

<<フランス>>

アンジェ西部カトリック大学

エクスマルセイユ大学

グルノーブルアルプ大学

ジャンムランリヨン第3大学

ストラスブール大学

トゥールーズカトリック大学

トゥールーズジャンジョレス大学

パリ第4大学(ソルボンヌ)フランス文明コース

パリ第7大学

ボルドーモンテーニュ大学

モンペリエ第3大学

リヨンカトリック大学

<<ベルギー>>

ブリュッセル自由大学

リエージュ大学

<<ロシア>>

ロシア国立高等経済大学

<<中国>>

上海外国語大学

北京外国語大学

天津外国語大学

<<台湾>>

国立台湾大学

文藻外語大学

銘伝大学

<<韓国>>

又松大学校

国民大学校

釜山外国語大学校

留学種別	認定
留学先大学	リメリック大学
留学先国・地域名	アイルランド
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 **General English Intensive**

授業科目 英語

履修登録方法 無し 先生に相談すれば午後授業は変更可能

時間割 月-金 9:00-10:45,11:15-12:50 火、木 14:00-16:05

授業形式 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニングスキルとスピーキングスキルは向上した。また発言を以前ほど躊躇わなくなった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	アーカンソー工科大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

一学期目は語学学校に通い英語を主に学んだ。それに加えてスペイン語も取っていた。履修はアドバイザーのところへ相談しに行き執り行った。語学学校では主に中国人と日本人が多くいたがサウジアラビアの人も少数いた。授業は毎日朝から始まり昼頃には終わる時間割構成だった。授業形式は教師が説明、質疑応答をし、問題を解かせるという方式だった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

語学コースからの変更の際にテスト、語学学校の成績は必要だが私の場合はもともと学部から入る予定でありテストは既に受けていたので変更の際はアドバイザーに相談するだけで変更できた。学部の授業ではほとんどの学生がアメリカ人であった。大人数の授業が多く教授が質問する授業は少なかった。

III. 留学で得た学習成果

英語の成長はもちろん、少し専門的な知識がついた。様々なことに関してのアメリカ人の観点を知ることができ物の考え方を变えることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	アイオワ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

IIEP 語学コース intermediate

Communication skill, Listening, grammar, writing

クラス構成

1 クラス 8 人程度、ほとんどが中国人

communication 月～金 9 : 30～10 : 20

Listening 月～金 10 : 30～11 : 20

Grammar 月、水 12 : 30～13 : 20 火、木 12 : 30～13 : 45

Writing 月、水 13 : 30～14 : 20 火、木 14 : 00～15 : 15

授業方式、講義、ゼミ方式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

語学コースにより、自身の英語のスキル、特にスピーキングのスキルが身に着いたと感じます。留学以前は英語を話すときは、少し考えたり止まったりしてしまうことが多かったのですが、今ではスラスラ出てくるようになりました。授業内、授業外でも英語を使う機会がたくさんあるので、日本にはない環境で学ぶことができました。また、日本の授業とは違い、自分から積極的に参加しないと授業についていけないので、自分から参加するように意識していたので、積極性が身についたと感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	アイオワ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

IIEP の授業を履修

reading, listening, communication skills, grammar, writing

自動的に組まれます。

1 クラス 6 人から 10 人 中国からの留学生がほとんど
 月曜、水曜 9 時 30 分～3 時 20 分（途中休憩 2 時間あり）、火曜、木曜 9 時 30 分～3 時 15 分（途中休憩 1 時間あり）、金曜 9 時 30 分～11 時 20 分（途中休憩なし）
 講義形授業

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

英語能力の向上

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンカロライナ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

一学期に取ったのは、学部で、授業科目は、(1) Grammar, Language & Discourse, (2) Language & Culture, (3) ESL Methods for Content Teacher, (4) Beginning Japanese I, (5) Academic English for non-native speakers を取りました。履修登録は Web 上で行われました。どのクラスも 20 人ほどのクラスで、(5)のクラスに関しては、基本的には学部授業を取っているヨーロッパやアジアなど留学生のみで構成されていました。履修登録の段階で、(2)(3)のみゼミ形式と書かれていました。(1)はハイブリッドクラスで水曜日のみに 50 分授業、(2)(3)は、火曜日と木曜日に 75 分授業、(4)は、月曜日、水曜日、金曜日に 50 分授業、(5)は、木曜日に 170 分でした。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 学期のコースは学部でした。履修登録方法は、1 学期と同じく Web でした。とった授業は(1) Language arts method for Grades K-6, (2) Culturally & Linguistically Diversity for Middle grades students, (3) Grammar for teachers, (4) Policies & Politics of ESL, (5) Intro to linguistics です。どのクラスも、20 人ほどのクラスで、国籍は、アメリカ人でした。履修登録の時点で(4)の授業のみゼミ形式と表示されていました。(1)(4)火曜日と木曜日に 75 分授業、(2)は月曜日と水曜日の 75 分授業でした。(3)は履修登録時点で対面授業でしたが、授業登録をした後に、シラバス上でオンラインに変わりました。(5)はもともとからオンライン授業でした。

III. 留学で得た学習成果

留学で私は、英語力の向上だけでなく、アメリカにおける、外国語としての英語の教育についても理解を深めることができました。学習面以外で成長した点としては、アメリカ人同士では、言わなくても物事の半分を伝えれば理解してもらえることが、文化と第一言語の違いからそれ以上を自分から伝えなければならないことがあると知ったことです。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンワシントン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

スペイン語

East Asian Civilization

ライティング

Web のマイページで履修

30～40 人程度、アメリカ人がほとんど

80 分授業が週 3 回、言語クラスは会話重視、その他は講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

Canadian Studies

Humanities of Japan

Web で履修

100 人程度、80 分授業が週 3 回

講義形式

III. 留学で得た学習成果

自分の知らない事について、日本語を介さず一切を英語で学ぶことは始めたの経験で、その上で理解ができた時の達成感が得られた。また生活する上で、英語で人と知り合い関わり合うことでいままでにない関係性を築けた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ウェスタンワシントン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ introduction to American history to 1865
- ・ 歴史
- ・ オンライン
- ・ 60-70 人ほど
- ・ 月・水・金 8:30-9:50
- ・ 講義
- ・ introduction to logic
- ・ 哲学
- ・ オンライン
- ・ 40 人ほど (×2 クラス)
- ・ 月・水・金 11:00-11:50
- ・ 講義
- ・ moral issues
- ・ 哲学
- ・ オンライン
- ・ 30 人程度
- ・ 月・水・金 15:00-15:50
- ・ 講義とディスカッション

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

主に歴史の授業においてですが、とにかく先生の話すスピードが速く、聞き取るのにいっぱいだったのですが、そのあと先生に直接私の状況を話して、録音の許可をもらったり、授業内容の確認をさせてもらい、自分から今の困難な状況から脱出するための手がかりを求めにいかないといけないことがわかり、先生にとにかくわからないことは聞くという質問する力を身につけました。また、授業サイクルがなかなか早い中で、課題をこなすことはとても大変でしたが、優先順位をつけて取り組むことで、効率よく回すことができました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オハイオ州立大学ヤングスタウン校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ELI は **module1** と **module2** に分けられていた。オリエンテーションでレベル分けテストを行い、**module1** は **level4** で **Grammar, Reading, Writing, Listening, Speaking** を受講した。各科目 60 分で、月曜日から木曜日まで毎日受講した。クラスメイトはサウジアラビア出身の女性 1 人のみであったが、彼女の家庭の都合上、**Speaking** のみ先生との 1 対 1 の授業だった。

module2 は **level5** に進み、**Reading, Writing, Listening, Speaking** を受講した。各科目 75 分で、**module1** 同様、月曜日から木曜日に受講した。クラスメイトはブラジル出身の男性 1 人のみだった。

授業は教科書に沿って先生が説明をした後に練習問題に取り組んでいたが、**Speaking** は教科書を使わずに発音の練習をしたり、最近自身に起きた出来事を話したりするなど、より実践的な会話練習をした。どの授業でも積極的な発言が求められた。

少人数で受講したためディスカッションで出た発言は少なかったが、その分 1 人 1 人の意見や疑問を深く掘り下げることができた。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

ELI 入学当初は英語を聞き取れない、話せないなどの理由から授業中は静かにしていることが多かったが、1 か月を過ぎた頃から少しずつ相手の英語が聞き取れるようになり自分から問題の答えを言ったり、質問したりするようになった。特に文化、習慣に関する授業では、自分にとっての当たり前がほかの国の人からは不思議がられたりなど、生の反応をもらった。また、クラスメイトからは教科書には載っていない習慣などを聞くことができ、単なる英語の勉強でなく、日本、アメリカ以外の国についても知ることができた。さらに、最初は文章を読んでいてわからない単語があるとすぐに意味を調べていたが、徐々に辞書で調べなくても前後の内容から意味を推測できるようになり、毎回意味を調べていた時よりも短時間で内容を理解できるようになっていった。

IV. その他気づいたこと

ELI には各国から学生が来ていたのでそれぞれの母語独特の発音が英語の発音に出ていることがよくあり、日本人が話す英語と、標準語のアメリカ英語にしか馴染みがなかったので相手の言っていることを理解するのに苦労した。

また、クラスに同国出身者がいると授業外では母語で話している学生が多かったので ELI に英語を学びに来ているのにもったいないなと思った。（自分は ELI で唯一の日本人だったことと、YSU にいたほかの日本人とは日常会話も英語でするようにしていたので、基本的に英語しか話さなかった）

留学種別	TESS II
留学先大学	オレゴン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 学期目は語学学校での授業でした。科目は文法、リーディング&ライティング、リスニング &スピーキングの 3 科目でした。月曜～木曜の週 4 日で毎日 3 科目各 80 分の授業でした。一番最初の学期は **student success** というアメリカの文化を勉強するような授業を必須で受ける必要があります。この授業は週 2 回 50 分です。また **conversation partner** という、語学学校で働いているチューターと会話の練習ができるアクティビティも必須でした。これは授業外です。クラスはオリエンテーションで行うプレイスメントテストでレベルによってクラス分けされ、履修登録もオリエンテーションの間に登録します。クラスは 20 人ほどです。国籍は半分以上日本で、次に中国、サウジアラビアが多いです。授業は講義形式ですが、グループワークが多く授業の中で喋ったり作業したりする機会が多かったです。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 期目は学部コースに切り替わりました。条件は語学学校の一番上のクラスをクリアする又は IELTS(点数は不明), TOEFL(500 点)を取ることです。私は TOEFL を現地で受けて合格しました。IELTS か TOEFL の点数を満たしていれば学部に行けるので最初から学部コースへ行ける可能性もあると思いました。冬タームは **European History, Global Ethics, Korean** の 3 科目を履修しました。すべての科目が講義とディスカッションをセットで受けるものでした。**History** と **Ethics** の講義は 100-150 人程でディスカッションは 10-20 人程でした。**Korean** は言語の授業なので人数は少なめで講義は 40 人程でディスカッションは 15-20 人程でした。**History** は講義とディスカッション合わせて週 4 回、**Ethics** は週 3 回、**Korean** は週 5 回でした。月～金まで学校に行っていました。講義は話を聞くこと中心ですが、ディスカッションは内容を生徒同士で意見を交換して話し合って理解を深めていくものでした。国籍は白人とヒスパニック系が多いような気がしました。アジアの中ではベトナム、中国が多かったです。履修登録については、履修開始日と時間は生徒によって違いますが前学期の後半からパソコン上で登録できるようになります。春ターム(現在)はオンライン授業を履修しています。冬タームと同様に 3 科目、**Philosophy, Culture Anthropology, Korean** を取っています。

III. 留学で得た学習成果

語学面で成長した点は読むスピードが上がったことです。学部コースでは課題や予習で資料を読むことがすごく多かったので必然的は早く読めるようになりました。語彙力も上がったと思います。学習面では 100% 内容が理解できないことから予習と復習をするようになり、学習時間が格段に増えました。勉強をサボらなくなったのは成長だと思います。また、考える力が身についたように感じます。ただ出来事や事実を知るだけでなく、その根本となる考えや前後の繋がりを意識して授業を受けるようになりました。特にディスカッションでは事件と原因を考えることが重要で、自分なりの考えを他の生徒と共有しなければならなかったののでしっかり準備する必要がありました。より深く内容を理解できたので考える力は重要だと感じました。

IV. その他気づいたこと

上のディスカッションに続く内容なのですが、私は考えていることがあってもそれを伝えるのに十分な語彙力と話す力がなく、ほかの生徒と話すことがすごく怖かったです。ただの日常会話ではなく、授業なので難しい言葉を使うことが多いこともあって言っていることが理解できなかったり話すことが少なかったです。今思うと相手の話を理解できてなくてもこういうこと？

という風に聞き返して確認したり、自分が話すときには簡単な言葉でもゆっくり伝えていけたらよかったと思います。**3-4**人で話すときなんかは会話のテンポが速く、怖気づいてしまって入

留学種別	認定
留学先大学	カリフォルニア大学アーバイン校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ ESL 10week, 4week business English
- ・ Reading, Listening, Writing
- ・ 履修登録は特になし
- ・ 1 クラス約 15 名 中国、日本、中東がほぼ
- ・ 月から金まで 9:00-12:50 のモーニングクラス又は 13:00-16:50 のアフタヌーンクラスのどちらか。
- ・ セミナータイプ

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

クラスには今まで自分が関わったことのない国の人だったので、色々な文化を知ることができた。

IV. その他気づいたこと

学生の期間に留学という経験ができたことを幸せに思います。

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

午前は英語の 4 技能を鍛えるクラス 14 人 国籍:韓国 中国 サウジアラビア クェート
9:00～12:00 TED Talk に沿って作られた教科書を使用。クラスメイトとディスカッションをしながら進める。

エレクトィブ 13:00～15:00 火曜と木曜、水曜と金曜で週に 2 日 2 科目受講

1 IELTS 国籍: 中国 台湾 サウジアラビア クェート スペイン

2 Business English 国籍: 中国 サウジアラビア クェート

ビジネスシーン毎の単語を学ぶ。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

WDW インターンシップ

III. 留学で得た学習成果

ゲストの期待を超えるには何が出来るのか。常に考えながら働いた。また、母国語でない言葉を使って働くということは、かなりストレスになることがある。これを乗り越える忍耐力を身につけられたと思う。

IV. その他気づいたこと

この度 COVID-19 という不測の事態が起こった中で、カンパニーとしてのディズニーがどのように対応をするのか、常日頃から大人数の組織をどのように運営しているのかという企業の側面を働きながら見ることは貴重な経験でした。

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

語学コース

Integrated English, Intercultural Communications, Business English

学内でチューターの方に教えて貰いながらした

15 人前後(モジュールにより変化する)、日本人が半分とクエート、中国、韓国、サウジアラビア
火曜から金曜まで朝 9 時から午後の 3 時まで 午前は英語、午後は選択したクラス
会話中心のクラス

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

プレゼンや、自発性が求められる授業のおかげで、日本では少ない英語で話す機会が多く、スピーキングがとても向上した。日本語が通じないという環境に置かれた時も多くあったので、以前よりも英語が出やすくなった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

授業は午前中に **Integrated Skill**（英語力向上のための授業）、午後は選択である **Business English** と **Intercultural Communication** が 1 日おきにあるという授業形式でした。午前中は **Ted Talk** を題材に問題を解いたりディスカッションをし、2 週間ごとに筆記のテスト+プレゼンまたはエッセイというものでした。また、**Idiom** を 1 日 5 個習ったのですが、個人的に実生活で使えたので良かったです。人数は少数でおよそ 15 人ほどでした。教科書は **Keynote** を使用していました。授業形式としては講義+ディスカッションといったものでした。

Business English は教科書を基に、ビジネス業界について学ぶというものでした。人数は 20 人ほどで主に講義形式でしたが、意見が飛び交っていました。教科書は **MARKET LEADER** を使用していました。

Intercultural Communication では生徒がグローバルであることから主にディスカッション形式で異文化交流の問題点などを話し合いました。教科書ではなく配られたプリントを基に授業が進められました。人数は 12 人ほどだったと思います。

生徒の国籍は、日本、中国、サウジアラビア、韓国、クウェートが主でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

Walt Disney World での実習が週に 5 日ある中で、週に 1 日対面式の授業がありました。授業は **Corporate Communication** の授業を履修していました。生徒は日本人とスペイン人で合わせて 20 名ほどでした。

また、それとは別に **UCR** のオンライン授業も受けました。先生とお会いする機会はなく、質問等は全てメールでのやり取りです。私は **Marketing strategy** の授業を履修していました。これは、カリフォルニア時間に合わせての提出なので時差に注意する必要がありました。

III. 留学で得た学習成果

前半とは違い、後半は専門分野の学習が多く、ケーススタディを基にしたディスカッションや自分で企業を選んでマーケティングについて調査しました。専門分野についての知識を少し身に着けることが出来ただけではなく、1 つのものを様々な角度から調査することによって多角的に物事をみる力が身に付いたように感じます。

WDW でマーチャンダイズとして働いたのですが、初めは仕事を効率よくすることに集中していましたが、コミュニケーションを大切にすることでお客さんとの距離を縮めることが出来たように思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

クラスごとに人数に差あり。私のクラスは10人くらいで、日本人は3人でした。プレゼンとレポートが2週間ごとに交互にありました。

TED が基になっている教材でした。

3人くらいでの話し合いが多かったです。

ディズニーでの職場はほとんどの方がネイティブで、留学生は3人だけでした。困ったことがあればすぐに助けてもらえました。週6働くときもあります。

II. 2 学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニングのスキルがとても伸びたと思います。

英語を話すときに身構えなくなりました。

IV. その他気づいたこと

フロリダでの英語は、カリフォルニアの時に比べとても速かったです。

でもフロリダでの一か月は、カリフォルニアの2か月分くらい英語が伸びた気がしました。

留学種別	UCR 特別
留学先大学	カリフォルニア大学リバーサイド校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1 2 weeks 語学コース

選択科目の履修登録は日本にいるときに、送られてきたメールにしたがって行う

必修科目の履修登録は必要ない

クラスのメンバーは二週間置きに入れ替わったが、必修のクラスは 8 割が中国人で、選択のクラスはほとんどが日本人だった。

授業は週に 4 回だった。

全て講義形式だった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

ディズニーワールドで実習開始

オンラインのクラスは私の選んだクラスは課題は軽めで毎回先生からのディスカッションクエストに答えるというものだった

インパーソンのクラスは毎週小テストはあったが課題はなかった

III. 留学で得た学習成果

このプログラムを通じてもちろん英語の上達も感じたが、それ以上に時間や機会など限られたものの有効的な使い方を学んだ。前半は、授業がそれほど忙しくなかったなので、リバーサイドで出会った人と積極的に時間を過ごすことで異文化で育った人と遊びに行ったり勉強したりすることで刺激を受けることができた。

後半は、前半と違い様々なバックグラウンドを持つ人と他国で働くことで、学生としてという視点よりも社会的な責任がある 1 人として様々な異文化体験ができた。カスタマーサービスの捉え方の違い、仕事に対する考え方などの価値観の違いを実際に感じる事ができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学サンマルコス校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ALCI Intensive English Pathway (語学コース)
- ・Writing, Grammar, Speaking, Listening, American Culture, Reading, Vocabulary、IELTS 対策
- ・自動で登録
- ・13 人前後 (日本人以外の人が 1、2 人。フランス人、中国人)
- ・月水 Writing, Grammar, Speaking, IELTS 対策
- 火木 Listening, American Culture, Reading, Vocabulary
- 金 Writing, Grammar,
- 1 教科約 60 分
- ・すべて対面の講義。プレゼンをしたり、軽いディベートをしたりした。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・語学コースから学部への切り替えのため、IELTS のスコアを取得した。
- ・Study @CSUSM (学部)
- ・①World Regional Geography (火木 9 : 00～10 : 30)
- ②Principles of Macroeconomics (火木 10 : 30～11 : 45)
- ③Introduction to Global Studies (月水金 12 : 30～13 : 20)
- ④American Indian Culture and Language (火木 14 : 30～15 : 45)
- ・インターネットで登録、変更
- ・①約 100 人、対面講義、留学生は数人で主に現地学生
- ②約 40 人、対面講義、留学生は 2 人
- ③約 40 人、対面講義、半分ぐらい留学生 (日本、フランス、エジプトなど)
- ④約 40 人、対面講義、留学生かはわからないが、ヨーロッパ、日本、南米などの出身者が多い

III. 留学で得た学習成果

- ・IELTS は初めて受験したが、リーディングとリスニングが高得点だった。長文読解や要約を通して、早く正確に読む力がついたと思う。また、授業や日常生活でネイティブの発音やスピードになれることができたからだと思う。
- ・英語でのプレゼンは外大ではしたことがなかったが、従業を通して 5 分間原稿に頼らず話せるようになった。
- ・わからないことを英語で質問して、その答えを理解するのが難しかったが、正確に伝え、要点を聞き取る力がついた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学サンマルコス校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ALCI(語学)

Writing, Grammar, Enrichment, Speaking, Mentor, Listening, Academic Bridge, Reading, Vocabulary

初日にテストを受けて、レベル別にクラス分けがされる

10~20 人、日本人、フランス人、サウジアラビア人、中国人

週 5 日の 1 日 4 限

ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

私は、上記の授業を受けて自分の英語力をあげることができました。また、正しい **essay** の書き方を学ぶことができました。

Academic Bridge では多くの人と話さなければならなかったため、積極性を向上させることができました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立大学スタニスローズ校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Women's Development Lifestyle Choices

Elementary Spanish 1

Introduction to Psychology

Introduction to Mass Media

国籍多様

Elementary Spanish のみ週 3 回あとは週 2 回

講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

Introduction to Ethnic Studies 週 2 回

Psychology of Adjustment 週 2 回

Elementary Spanish 2 週 2 回

Introduction to Sociology 週 3 回

国籍多様

すべて講義形式

ディスカッションが多い

III. 留学で得た学習成果

現地の学生の中でも自分らしく緊張せず発言する能力を得た。2 学期目になると特に授業や課題のペースについていくことが容易になり、授業を楽しむこともできた

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	カリフォルニア州立大学ドミンゲスヒルズ校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ALCP(語学)

授業科目

(Writing,reading,conversation,grammar.elective)

履修登録なし

クラス構成

(5-20 人くらいで、レベル分けされている。)

(国籍は、アジア圏が多い)

授業形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

単語に関しては力がついたと感じる。

授業中に自ら発言すること、英語でのディスカッションに関して成果を得れたと思う。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立工科大学ポモナ校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・授業科目名：Writing, Advanced grammar, Film, （語学学校）
- ・履修登録方法：現地教員が行った
- ・クラス構成（人数、国籍）：各授業 15 人程度、国籍は中国、キュート、韓国、香港、日本
- ・一週間の授業時間割：Writing は月～金、Advanced grammar は週 2 回、Film は週 3 回
- ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）：講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・2 期は語学学校と学部同時進行だった。
学部への登録は、語学学校でレベル 5 までを履修していることが必要とされた。手続きは履修登録のみ。
- ・授業科目名 語学：Academic writing 学部：Professional Selling, Principles of global business, Introduction to Gender and Sexuality studies
- ・履修登録方法：専用用紙に記入
- ・クラス構成（人数、国籍）：語学：15 人程度、国籍は中国、キュート、香港
学部：各 30 人程度、国籍はほぼアメリカ、たまに中国
- ・一週間の授業時間割 語学：週に 6 時間 学部：Professional Selling, Principles of global business はそれぞれ 1 回 1 時間 15 分を週 2 回、Introduction to Gender and Sexuality studies は 1 回 3 時間を週に 1 回
- ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）すべて講義形式、Principles of global business は授業外のグループワークあり

III. 留学で得た学習成果

語学学校では、基礎的な文法からリーディング、アカデミック形式を含める数多くのレポート作成など、多様な面から英語を学ぶことができた。さらに、授業でレポートやエッセイを書く機会が非常に沢山あり、学んだことを実践的に活かすことができる。どの授業も概ね満足のいく成績を収めることができた。

学部授業の Professional Selling では、顧客に対して満足のいく接客、営業を行うために必要不可欠なことやまたその方法を学んだ。また、期末では実際に自分が営業マンで先生が顧客となる 1 対 1 のロールプレイテストが行われ、どのように相手を納得させ、情報を伝えるかなど深く構成やアプローチを考えることができた。

Principles of global business では、授業内やスライド、教科書で世界のビジネス的動向を学んだ。一方で授業外のグループワークで実際に、どの国からどの国へどんなビジネスモデルをどのように普及させるかといった模擬起業のようなことを行った。具体的かつ論理的に漏れのないビジネスモデルの提案が求められ、チームで協力・分業し、納得のいく案をプレゼンすることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カリフォルニア州立工科大学ポモナ校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称：

語学コース（きちんとした名称はわかりません、すみません。）

授業科目：

Listening/Speaking: FILM

Reading/Writing: Advanced Academic Writing 1

Academic Vocabulary

Advanced Grammar

Writing Lab

履修登録方法：

ガイダンスの日に受けるテストでレベル分けがされて、学校側が履修してくれる。

レベルを上げ・下げしたい場合はテストの結果を見て、先生と相談。

クラス構成：

クラスごとで人数が異なる。

私が履修していたクラスは大体 10 人前後だった。

国籍は、私が履修していたクラスは中国人（台湾人含む）が大半でクウェート人が数人だった。

1 週間の授業時間割：

月・水・金 Listening/Speaking: FILM 8:00-9:50

Reading/Writing: Advanced Academic Writing 1 10:00-11:50

火・木 Advanced Grammar -8:30-9:50

Writing Lab 10:00-11:20

Academic Vocabulary 11:30-13:00

授業形式：

全てのクラスで、講義形式・ゼミ形式を混ぜたようなものだった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 期になり語学コースから学部へ切り替わった際の手続き：

1~6(7)まであるレベルの中の、レベル 5 を終了させたら、学部コースへ転換できる。

コース名称：

学部コース（きちんとした名称はわかりません、すみません。）

授業科目名：

Introduction to Gender and Sexuality Study

Women in Global Perspective

Introduction to the Hospitality Industry

Principles of Global Business

Integrating Knowledge Learning and Engagement for Success

履修登録方法：

自分が履修したい授業を Bronco Direct（ポータルサイトのようなもの）で探して、アドバイザーに報告・相談して、アドバイザーが講師に連絡をしてくれて、そこで許可がおりれば、授業初日にクラスに行き、講師にフォーム（アドバイザーが記入方法を教えてくれる）を提出して、履修完了。

※ 極力、講師に直接受け入れをお願いしている形である為、履修変更はしないほうがいいとアドバイザーに言われた。

※ Face-to-face の授業の中から選択することを進められた。

クラス編成：

Introduction to Gender and Sexuality Study

15 人程度、国籍はバラバラ

Women in Global Perspective

20 人前後、国籍はバラバラ

Introduction to the Hospitality Industry

30～40 人程度、国籍はバラバラ（中国系のアジア人が多めの印象）

Principles of Global Business

35 人程度、国籍はバラバラ（中国人・韓国人・パキスタン人・日本人の留学生も数人履修）

Integrating Knowledge Learning and Engagement for Success

15 人程度、国籍はバラバラ（中国人・パキスタン人の留学生も履修）

1 週間の授業時間割；

月 Women in Global Perspective 10:00-10:50

Integrating Knowledge Learning and Engagement for Success 13:00-14:15

火 Principles of Global Business 10:00-11:15

Introduction to the Hospitality Industry 13:00-14:15

Introduction to Gender and Sexuality Study 19:00-21:45

水 Women in Global Perspective 10:00-10:50

Integrating Knowledge Learning and Engagement for Success 13:00-14:15

木 Principles of Global Business 10:00-11:15

Introduction to the Hospitality Industry 13:00-14:15

金 Women in Global Perspective（オンラインでペアとミーティングをし課題提出）

授業形式：

ゼミ形式

Introduction to Gender and Sexuality Study

Women in Global Perspective

講義形式

Introduction to the Hospitality Industry

Principles of Global Business

Integrating Knowledge Learning and Engagement for Success

Ⅲ. 留学で得た学習成果

全てにおいて、自分から行動することを心がけた。

予習・復習をなるべく全ての教科に対して行えるように、放課後に時間を取っていた。

以前に学んだことのあるものに対しても、日本で学んだものと留学先で学ぶものとは、文化の違いなどでニュアンスが異なったり視点が異なったりするので、全てのことが自分の成長に繋がったと感じている。

Ⅳ. その他気づいたこと

クラスに 1 人は友達を作り、課題について意見を聞いたり、わからなかったところを聞いたりした。

（友達がいると安心できるし、支えてもらうことができる。）

留学種別	TESS II
留学先大学	カンザス州立大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ELP の授業

reading, writing, listening speaking

アドバイザーが登録してくれていた。

16 人くらいのクラスで中国人、韓国人、サウジアラビア人

reading, writing は週 5 日で月水金は 50 分、火木が 80 分

listening speaking は週 3 日で月水金は 45 分

講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

数学のテストをうけた。

学部授業

Intro to GWSS, Intro to Sociology, The Physical World, The Physics World Lab, Studio Math

アドバイザーさんと相談して履修登録

20-40 人、国籍はアメリカ人、中国人、韓国人など

Intro to GWSS, Intro to Sociology, The Physical World は週 3 日の月水金 50 分授業

Studio Math は週 3 日月曜日が recitation, 水曜日が lecture, 木曜日が lab。月水は 50 分、木は 80 分

The Physics World Lab は火曜日に 80 分

The Physics World Lab 以外は講義形式で The Physics World Lab のみグループでの実験

III. 留学で得た学習成果

英語のリスニング能力はすごく伸び、ライティングも essay 書くことが苦ではなくなった。

授業で友達ができ自分の知らない文化や価値観を知ることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	カンザス州立大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1. Advanced English Listening

- ・クラス人数、国籍：12 人、中国人、韓国人、サウジアラビア人、パラグアイ人
- ・時間割：月水金の 9：30～10：20
- ・授業形式：Recitation

2. Advanced English Writing

- ・クラス人数、国籍：14 人、中国人、サウジアラビア人、パラグアイ人
- ・時間割：月水金の 11:30～12:20、火木の 11:30～12:45
- ・授業形式：Recitation

3. Advanced English Speaking

- ・クラス人数、国籍：18 人、中国人、サウジアラビア人
- ・時間割：月水金の 14:30～15:20
- ・授業形式：Recitation

4. Advanced English Reading

- ・クラス人数、国籍：13 人、中国人、サウジアラビア人、パラグアイ人
- ・時間割：月水金の 15:30～16:20、火木の 14:30～15:45
- ・授業形式：Recitation

コース登録は既に決定されていた。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

・コース変更のテストは特になし（ELP の一番上のクラス(advanced) の全授業の単位取得が条件）、手続き・履修登録は学部のアドバイザーと一緒にオンラインで行った。

1. World Cities

- ・約 40 人、現地学生がほとんど。
- ・月水金、11：30～12：20
- ・講義とディスカッション形式、グループでの活動もあり。

2. Issues In Tourism

- ・約 40 人、現地学生がほとんど。
- ・火木 11：30～12：45
- ・講義とディスカッション形式、グループでの活動もあり。

3. World Geography

- ・約 70 人、現地学生と留学生も少し。
- ・月水金、10：30～11：20
- ・講義形式

4. Geography of Tourism

- ・オンライン形式、毎週 Quiz あり。

III. 留学で得た学習成果

Fall Semester では、英文での Essay の書き方、英語表現などを学び、アメリカやカンザスの文化を英語で学びながら英語力を身に付けた。Spring Semester では、前半が全て講義形式メインの授業だったので、英語面ではリスニングと予習や課題のために教科書を毎日 20～30 ページ読んでいたのでリーディングのスキルを身に付け、読んだ内容をまとめる課題が多かったので、要

約をする力が身についた。また、自分の意見を求められることが多かったので、自分の意見を英語で考え、伝える力も鍛える機会を得ることができたと思う。

IV. その他気づいたこと

Spring Semester の後半はグループディスカッションメインの予定でしたが、途中でオンライン授業への切り替えのために行うことができなかったが、一番やりがいのある授業形式だなと思う。また、発言をすればするほど英語の力は身につくことが分かった。

留学種別	TESS II
留学先大学	クレムソン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

・Riflerly

ライフルの使用方法や戦時中に使われたライフルなどについて学んだ

6 人の小規模クラス

・Contemporary Dance

体を動かしながら、歴史なども学んだ

・Theatre

様々な国や地域の歴史を通して、演劇というものがどう変化したのかを学んだ

25 人程のクラス

・Japanese Business

日本のビジネスや、日本のビジネス特有の年功序列制度や残業についてをディスカッションした

日本人はもちろん私だけで、意見や現実を聞かれることも多く、すごく勉強になり、楽しむこともできた授業

・English

日本でいうアカデミックスキルのような授業

論文の書き方や論理的思考についてを学んだ

・Animal Veterinarian

獣医学の入門を学んだ

100 人規模

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

・Animal Nutrition

動物栄養学について、40 人程度の中規模クラス

・Business Anthropology

人類学をビジネスに活用する授業、ゼミ形式、学部生と院生で構成され 10 人程度

・Linguistics

言語学（特に第二言語習得について）、20 人程度のクラス、ディスカッションベース

・Pan African Studies

クレムソン大学では 2~3 割しか黒人はいないのに対し、この授業では 8 割が黒人生徒

主に、自分の人種にまつわる過去の経験談、差別された経験をクラスでディスカッションしながら、歴史やセオリーも同時に学ぶ授業

25 人程度のクラス

III. 留学で得た学習成果

日本以上にディスカッションを重視した授業が多く、さらにそれを英語でこなさなくてはいけないため、自分を追い込むことができ、それが自分の英語力工場につながったと思う。

自分の意見をストレートに伝えることを学んだ。あなたの意見は間違っていると言うことは、時に怖くもあるかもしれないが、自分にとってもクラスメートにとっても必要であることを気づくことができた。

Ⅳ. その他気づいたこと

日本に関する授業を取ることで、客観的に日本という国を観察・考察することができ、さらに友達も多く作ることができた。にとってよかったと思える授業の一つ。

留学種別	TESS II
留学先大学	サザンオレゴン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ IEP(語学コース) (日本人 5 名、中国人 1 名) (ゼミ形式)

リーディング、ライティング、コミュニケーション、グラマーをアドバイザーのサポートのもと履修

リーディング、ライティング週に 3 回/コミュニケーション、グラマー週に 2 回

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・ 学部コース

ーnonverbal communication

アドバイザーとの相談のもと履修、アメリカ人役 25 名+日本人 3 名、週に 2 回、ゼミ形式

ーcommunication across culture

アドバイザーとの相談のもと履修、アメリカ人役 25 名+日本人 3 名週に 2 回、ゼミ形式

ーenglish101

アドバイザーとの相談のもと履修、ポーランド人 1 名+中国人 1 名+日本人 4 名+アメリカンサモア人 1 名+サウジアラビア人 1 名、週に 2 回、ゼミ形式

ーyoga

アドバイザーとの相談のもと履修、日本人 2 名+アメリカ人約 10 名、週に 2 回

III. 留学で得た学習成果

日本での授業に比べて生徒同士のディスカッションの機会が多くあった。初めは自分の英語が相手に伝わるか、自分の言っている事が間違っていないか気にしすぎていたが、自信を持って発言すれば理解しようとしてくれる生徒がほとんどで、うまく意見交換ができ、なぜ自分が思うのか、またなぜ相手はそう考えるのか分かり合えたときは深い達成感を感じた。

またアメリカ人の生徒は授業に積極的で自ら手をあげて発言している姿に感化され、自分が思った些細なことや疑問点もシェアする習慣がついた。他の国の留学生と受ける授業では文化をシェアする機会が多くあった。自分自身が日本について知らない事がたくさんあることに気づき、文化について考える良い機会となった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	サザンオレゴン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Intensive English Program

Reading, Listening, Speaking, Writing

アドバイザーが登録してくれました

6 人中 5 人日本人、1 人アメリカサモア人

Reading と Writing は 90 分を週 3 回

Listening と Speaking は 90 分を週 2 回

授業は全員参加が求められる形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

コミュニケーション

Nonverbal Communication, Public Speaking, Small Group Communication, American Sign Language

アドバイザーと相談した後アドバイザーが登録をする

各 120 分を週 2 回

全てゼミ形式

III. 留学で得た学習成果

コミュニケーションにおいて大事なことを多く学びました。ただ自己主張をするのではなく、適切な時に自分を主張し、他の人の動作や行動をしっかりと汲み取ることで、その人がどのようなコミュニケーションスタイルを持ちどのように接するのが良いかを学びました。またアメリカ文化だけではなく様々な文化を授業を通して学びました。そして第二言語を学ぶ人が少ないアメリカでは他文化を理解するのに苦労する人が多々いるため、どのように文化を伝えるか、どのように誤解を招かないようにするかも授業内で学びました。

IV. その他気づいたこと

留学はとても意義がありました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ジョージアサザン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

① Introduction to sociology (社会学入門)

Sociology

オンライン登録

30 人程度、ほぼ現地生徒

2 時間 30 分、50 分を 3 回、講義とディスカッション

② Introduction to Anthropology (人類学入門)

Anthropology

オンライン登録

80 人程度、多国籍

2 時間 30 分、75 分を 2 回、講義

③ Composition

English

オンライン登録

30 人程度、多国籍

2 時間 30 分、75 分を 2 回、講義とディスカッション

④ Introduction to Religious Studies (宗教学入門)

Religious Studies

オンライン登録

30 人程度、ほぼ現地生徒

2 時間 30 分、75 分を 2 回、講義とディスカッション

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

① Introduction to Business (ビジネス入門)

Business

オンライン登録

80 人程度、多国籍

2 時間 30 分、75 分を 2 回、講義

② Introduction to Social Service (ソーシャルサービス入門)

Sociology

オンライン登録

30 人程度、ほぼ現地生徒

2 時間 30 分、75 分を 2 回、講義とディスカッション

③ Introduction to International Studies (インターナショナルスタディ入門)

International Study

オンライン登録

100 人程度、多国籍

2 時間 30 分、50 分を 3 回、講義

④ Introduction to Recreation (リクリエーション入門)

Recreation

オンライン登録

40 人程度、ほぼ現地生徒

Ⅲ. 留学で得た学習成果

- ・前期、後期ともに語学プログラムではなく現地の生徒と学科授業を履修したため、英語だけでなく英語を使って新たな知識を得ることができた。また、講義やディスカッションなどによってより生きた英語を学び使うことが出来たと思う。さらに授業で現地生徒や教授の意見や考え方に触れ、国籍による感じ方の違いやとらえ方の差異に気づくことができた。
- ・どの教科も課題が多く大変だったが、その分 **Reading** や **writing** の力がついたと思う。特に長文のエッセイの課題は前期、後期を通して何度も行ってきたので書き方のコツをつかめたように感じる。
- ・授業中に理解出来ない部分も多くあるため、日本にいる時以上に予習、復習に取り組めるようになった。また、わからないまま放置せず授業前や授業後、オフィスアワーに教授に質問をするなど、自ら積極的に行動することが出来るようになった。
- ・授業中に意見を求められることが多々あるので、自分の意見を持ちながら講義を受けられるようになった。現地の生徒は積極的に発言する生徒が多いため、日本との差、自分との差を痛感し生徒参加型の授業を体験することができた。

Ⅳ. その他気づいたこと

- ・留学中は日本人とあまりつるまないほうが良いと考える人も多いだろうが、日本人とのつながりによって生まれる現地学生との交流も多くあるため、固執しない程度の関わりは留学生生活をより豊かなものにしてくれる。本当に辛いとき日本語で相談できる友人を持つことは大切だと思った。

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	ジョージアサザン大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Art in life : オンラインにて履修、40 人程度、アメリカ人、50 分週 3、講義形式。
 フランス語初級 : オンラインにて履修、20 人程度、一人コロンビア人その他アメリカ人、75 分週 2、講義形式。
ESL : オンラインにて履修、20 人程度、すべて留学生、75 分週 2、講義形式。**経済** : 20 人程度、アメリカ人、75 分週 2

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

Survey of Economic : オンラインにて履修、20 人程度、75 分週 2、アメリカ人、講義、教室寒い
Art history : オンラインにて履修、40 人程度、アメリカ人、75 分週 2、講義、パワーポイント
Songs and politic in China: オンラインにて履修、6 人、アメリカ人 75 分週 2、先生は中国人、英語中国語で授業、講義
 中国語上級 : オンラインにて履修、7 人、アメリカ人、75 分週 2、講義

III. 留学で得た学習成果

フランス語成長
 芸術の知識が身についた
 経済に興味があった

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	チャタム大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

English Language Program(ELP)の 2 つあるレベルのうちの下レベルで英語の基礎から学びました。科目は Writing, Reading, Speaking/Listening, US culture の 4 科目を週に 2 日、一コマ 140 分の授業を行いました。クラスは日本人 7 名、サウジアラビア人 5 名、中国人 1 名、タイ人 1 名の全員で 14 人のクラスでした。月水の午前(9:00-11:20)にライティング、午後(12:30-14:50)にリーディング、火木の午前に US カルチャー、午後にスピーキングという時間割でした。授業の途中に 10 分程度の休憩時間をもうけてくれました。金曜日は授業はありませんでした。それぞれの授業はゼミ形式で行われ、少人数クラスなので全員に回答する時間をもうけるなど積極的に授業に参加できるような形式でした。課題は週末にむけて多く出される傾向がありましたが無茶な量ではなかったので取り組みやすかったです。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

初めはネイティブスピーカーではない人が話す英語を聞き取ることに苦手意識があったのですが、4 ヶ月経って話し手が言っていることをしっかり聴き取ることが出来るようになりました。それぞれの国がそれぞれ独特な英語の発音を持っているのでネイティブスピーカーの発音だけに対応してリスニングを勉強するのは間違っている方法だと思いました。わたしは大学の寮で生活していたのでルームメイトがいました。毎日ルームメイトと話すことでリスニング力とスピーキング力がしっかり身に付いたと思います。授業とは違い自分の好きな話題について話すことが出来るので積極的に話す良い機会だったと思います。英語話者の友達をつくって話すことはとても重要だとわかりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ノースアラバマ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

履修登録の方法

日本出発前に UNA の国際交流部の方へメールで履修を送った。
しかし実際は登録されていなく、現地で履修登録を行った。UNA の Portal から行うことができる。ビジネス科目は難しいからという理由で、自身の取りたかった 400 番台は取ることができなかった (300 も)。代わりになりそうな数学を取ったが、1 回目の授業で簡単すぎると判断し、上のレベルへ授業を変更するために、高校や大学の成績表、そして数学教授の承認が必要であった。ESL なしでいきなり academic として入ると、かなり制限されるかもしれない。しかし、もっと自身が取りたい科目を主張すればよかったと後悔している。

Accounting Concepts I (291)

2 時間 45 分 (火曜日 18 時～20 時 45 分)

クラスの人数は 25 人程度である。ほとんどはアメリカ人であり、6 人ほど留学生の中国人もいる。

オンラインの宿題を行うために、CENGAGE (\$ 119.99) を購入しなければならない。

American Sign Language-Part 1

75 分を 2 回 (月曜、水曜、14 時～15 時 15 分)

クラスの人数は 25 人程度である。ほとんどがアメリカ人であるが、NUFS の生徒 2 人も一緒に授業を取っていた。

Pre-Calculus Algebra

75 分を 2 回 (月曜、水曜、18 時～19 時 15 分)

クラスの人数は 20～25 人程度である。ほとんどがアメリカ人で、1 人留学生の中国人がいる。

デジタル書と宿題を行うために、pearson に登録しなければならない。(\$ 126.75)

Introductory Korean-Part 1

75 分を 2 回 (火曜、木曜、16 時～17 時 15 分)

韓国人の学生が教師として韓国語を教えるスタイルであった。ハングルの読み方から行うのではなく、最初の授業から会話の授業であった。最終の期末考査は、他大学の韓国語教師と韓国語で会話をして評価される。

クラスの人数は 10 人程度である。アメリカ人 6 人、日本人が 4 人いる。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

半期留学

III. 留学で得た学習成果

今回の長期留学での目標として「日本語を使わないために、日本人の友達を作らない」ことを掲げていた。そもそも留学理由が、自身のスピーキング能力を向上させたいからであった。半期留学、実質 4 ヶ月の留学でスピーキング力を上げるためには、日本語は使ってはいけない、そしてアメリカで英語話せる貴重な時間を無駄にしたくないという思いからその目標を定めた。実際に友達はロシア、メキシコ、コロンビア、エクアドル、中国、台湾、アメリカなど、多くの留学生と交流を持つことができた。私の性格上、特定の人と仲良くするタイプであるので、日本人と関わりを持たなかったことでこのような外国人と友達になることができたと思う。また初めて 3 週間以上、日本を離れてルームメイトのいる寮で生活をした。名古屋ではバスや

地下鉄があることが日常であったので、何もない田舎での暮らしはかなり厳しい環境であった。しかし、多国籍の友達と土日過ごすことでとても有意義な休日を送れたと感じる。そして、汚く設備の悪い寮で過ごした生活は、自身の生き抜く力を向上させたと思う。アメリカへ行って初めて自炊を始めた。またシャワーが水しか出なかったときや暖房が機能していないときなど、問題をしっかり国際交流部へ報告した。洗濯機が故障をし、青カビの水に自身の服が浸っていたときは心が折れたが、それでも洗濯機が使える寮を転々とした。このように問題が起きたときに、**Facebook** でその状況をシェアし、自身がその問題を即座にどう対応すればよいのかを冷静に考えることができるようになった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TⅢ（2 か国目）
留学先大学	ノースカロライナ大学シャーロット校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Geography - World Regional Geography（40 人） / 50 分（月火水）
 German - Elementary German II（15 人） / 50 分（月火水）
 English - Topics in Literature and Film（100 人） / 75 分（火木）
 History - US History since 1865（25 人） / 50 分（月火水）
 International studies - Intro to International Studies（120 人） / 50 分（月火水）

- ・履修登録ーweb
- ・クラス構成ー現地の学生
- ・講義式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

- ・ドイツ語の基礎
- ・国際社会、世界地理、アメリカの歴史、文学についてより深く学べました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TⅢ（2か国目）
留学先大学	ノースカロライナ大学シャーロット校
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019年度2期 から 半年

学習成果報告書

I. 1学期目の学習状況

□ コース名称

学部授業

□ 授業科目名/授業形式

- Introduction to Sociology（講義）
- Writing and Inquiry in Academic Contexts with Studio（オープンディスカッション）
- Introduction to Lesbian & Gay Studies（ゼミ）
- Feminism and Fitness（ゼミ）

□ 履修登録方法

渡航前に wish list を作成すると、担当者が時間割を提案してくれる。その後は各自 canvas (NUFS というポータル) から変更や放棄が可能。

□ クラス構成（人数・国籍）

社会学は百人ほどだったが、その他三つの授業は二十人から三十人ほどで一クラスに収まる人数だった。見た目では国籍が明確にわからなかったが、ジェンダーのクラスには交換留学生が数人いた。ライティングクラスは英語非母語者向けだと期待してとったが、現地の一年生向けの授業だったため留学生は私だけだった。

□ 一週間の授業時間割

月曜日

社会学 10:10-11:00

日本語クラスボランティア 12:20-13:10

ジェンダー 17:30-20:15

火曜日

ライティング 10:00-11:15

日本語クラスボランティア 11:30-12:20

フェミニズム 17:30-20:15

水曜日

社会学 10:10-11:00

日本語クラスボランティア 12:20-13:10

木曜日

ライティング 10:00-11:15

金曜日

社会学 10:10-11:00

II. 2学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

私は、二か国留学の二か国目としてノースカロライナ大学シャーロット校に一学期間留学した。ここで得られた学習成果は大きく分けて四つある。

一つ目は、推測する力だ。わからない英単語がある時に毎回辞書をひいて調べるのではなく、前後の文脈から考える力がついたと思う。これは英語を読んでいる際にも聞いている際にも当てはまり、より速く文章を読んだりよりスムーズな会話を続けたりするのに役に立っている。

次に、一つ目とも関連するが、スキミングの力が伸びたと考えている。授業の予習のために大量の英文を読んだが、すべてを精読していたわけではなく、大切な部分を探して読むようにしていた。これによって時間を短縮し、より多くの文章に短時間で触れることができた。

三つ目は、書く力だ。ライティングのクラスでは、毎週火曜日と木曜日に行間無しで五ページ書かなければいけない宿題が出た。加えて、**Online Studio** というメインの授業を助ける課題も毎週こなさなければならず、学期のはじめは何日もかけて作業をしていた。その後数週間つらい時期を過ごすうちに、少しずつ書くことに慣れ始め、最終的には数時間で一つの課題を集中して終わらせることができるようになった。これはほかの課題でたくさんの英文を読み様々な表現を吸収したおかげでもあり、自分の意見をまとめるのがうまくなった証拠でもあると思う。

最後に、日々の会話の中で説明力がついた。何か知らない単語があったり、ふと言いたかった単語を忘れてしまったりした時でも、知っている単語で描写することができるようになった。もちろんより多くの英単語を勉強し続けて、ぴったりくる言葉を即座に言えるようになるのは価値のあることだ。しかし、実際の生活の中で毎回完璧に話すことは本当に難しい。そこで、物事を自分の言葉で描写する力は非常に大切になってくると思う。

IV. その他気づいたこと

私が学習面に関してつらかったのは、社会学の出欠のとり方についてだ。他の授業では、毎回課題に名前を書いて出したり実際に生徒の名前を読んだりと直接確認していたが、この授業ではアプリを使っていた。**Poll everywhere** というアプリで、四択のクイズを受け、正解なら 2 点、不正解 1 点、無回答 0 点というものだ。クイズはその日の授業の最後に全員同時に受けるが、回答時間は 15 秒しかない。授業の教室がほぼ地下にあったこともあり、データは使えず、Wi-Fi の接続も悪く、何人かは毎回ログインする前にクイズが締め切られて

留学種別	TESS II
留学先大学	ハンボルト州立大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

授業科目名：

- ・ Contemporary Topics in Econ
- ・ Jazz-An American Art Form
- ・ Intro to Nat American Studies
- ・ World Religions

履修登録方法：

ポータルにて登録

時間割：

月・水・金 9:00~09:50 Intro to Nat American Studies
 11:00-11:50 Contemporary Topics in Econ
 14:00-14:50 World Religions

火・木 13:00~14:20 Jazz-An American Art Form

クラス構成：

経済とネイティブアメリカンの授業が 15 人くらい、残りのジャズ・宗教の授業が 30 人くらいで少人数だった。先生が一人一人の名前を覚えられくらいであった。アメリカ人が圧倒的に多く、留学生はほぼいない。自分だけが外国人ということも珍しくなかった。授業は講義形式で、経済の授業では先生対生徒のディスカッションが頻繁にあった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

経済：株の見方が分かるようになり、ニュースの理解度が増した。また、経済の仕組みに対して興味も抱くようになった。

ジャズ：ジャズの聴き方が分かった。またジャズが現在ある様々なジャンルの音楽のベースになっていることは知らなかった。

ネイティブアメリカン：ネイティブアメリカンが受けてきた差別、またそれに改善しようと努力する彼らの姿を映像や教科書で知り、この学問についてもっと学びたいと思った。

宗教：アメリカ人が教える仏教は日本人が教える仏教と全然違うと感じ、宗教はそれを信仰している国の言葉で知るのが一番だと考えた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ペンシルバニア州立インディアナ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私は **Composition I** と **Accounting Principles I**、**Financial Wellness**、**Hospitality Cost Management** という学部コースの授業を 4 つ受講していて、全て講義形式の授業でした。月水金は各 50 分ずつ、火木が 75 分ずつの授業で一週間に各授業 150 分あり、私は月水金に 2 つ、火木に 2 つ受講していました。

Composition I はインターナショナルの学生だけのライティングの授業で 20 人ほどの少人数の授業です。**Accounting Principles I** と **Financial Wellness** の授業はビジネス学部の 50 人ほどの大人数での授業で、**Hospitality Cost Management** の授業は 30 人ほどのホスピタリ学部の授業で、3 つとも現地の学生と一緒に授業を受けていました。

履修登録はまず事前に日本で受講したい授業を 10 個選び、現地到着後に自分が選択した授業の中で 4 つ受講することができます。私の場合、自分が選択した授業がすでに定員オーバーになっているものが多く、3 つの授業しか取ることができていなかったため、自分のアドバイザーに相談して 4 つの授業を決めました。また、どうしても学びたかった授業が定員オーバーで最初は無かったのですが、自分でそのオフィスまで行き、許可をいただき受講できるようになりました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

現地の学生と一緒に受ける授業は最初は特に授業中にわからないところが多かったので、授業後や、先生達には **office hour** という、その時間内であればいつでも直接先生のオフィスに聞きに行くことができる時間があって、**office hour** に聞きに行き、わからないところをすぐ解決・理解できるように意識していました。何回も聞きに行くことが多かったのですが、先生方は毎回親身になって優しく、私が理解するまで教えてくださりました。

また、特にビジネス科目である **Accounting Principles I** と **Financial Wellness** の授業は教科書が 1 チャプターに 40 ページほどありましたが、一週間で 1 チャプターが終わってしまうくらい進度が早かったため、教科書の予習をすることがとても大変でした。教科書の内容理解に時間はとてもかかりましたが、自分が一生懸命勉強したときはテストの点数も比例し良い点数を取ることができたので諦めずに頑張っていました。

英語で自分の専門科目や興味を持った科目を勉強することはとても難しく、大変でしたが、日本で少し知識がある科目でもまた別の視点から捉えていることもあったので別の角度から勉強できたことはよかったと思います。

わからないところを聞きに行くことや自分で授業の受講許可をもらいに行くことなど、自分から積極的に行動することが増えたところが留学前と比べ一番成長したところだと思います。これからも積極的に学ぶ姿勢を忘れず勉学に励みたいと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ペンシルバニア州立インディアナ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称： 学部コース
- ・授業科目名： 作文Ⅰ、映画論、女性・ジェンダーの基礎、宗教の基礎
- ・履修登録方法： 留学出発前に一度、希望書を提出。出発後、変更したい授業科目があれば、指定期間内に大学のポータルサイトのようなものを利用し、変更する
- ・クラス構成（人数、国籍）：履修する授業によって異なる。多くて、50～80 人、少なくても、20 人程度の人数。国籍に関しても様々。
- 月曜日：女性・ジェンダーの基礎 10:10～11:00 / 宗教の基礎 11:15～12:05
- 火曜日：作文 12:30～1:45
- 水曜日：女性・ジェンダーの基礎 10:10～11:00 / 宗教の基礎 11:15～12:05
- 木曜日：作文 12:30～1:45 / 映画論 17:00～19:00
- 金曜日：女性・ジェンダーの基礎 10:10～11:00 / 宗教の基礎 11:15～12:05
- ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）：講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・コース名称： 学部コース
- ・授業科目名： 人類学の基礎、劇の基礎、作文Ⅱ、ホスピタリティでの多文化社会の管理
- ・履修登録方法： 秋学期の際に 10 月から履修登録開始。大学のポータルサイトのようなものを利用。
- ・クラス構成（人数、国籍）：クラスの人数はバラバラ。前期と同様。
- ・一週間の授業時間割：
- 月曜日：人類学の基礎 9:05～9:55 / 劇の基礎 10:10～11:00
- 火曜日：ホスピタリティでの多文化社会の管理 9:30～10:45 / 作文Ⅱ 11:00～12:45
- 水曜日：人類学の基礎 9:05～9:55 / 劇の基礎 10:10～11:00
- 木曜日：ホスピタリティでの多文化社会の管理 9:30～10:45 / 作文Ⅱ 11:00～12:45
- 金曜日：人類学の基礎 9:05～9:55 / 劇の基礎 10:10～11:00
- ・授業形式（講義形式、ゼミ形式など）：講義形式

III. 留学で得た学習成果

リスニング力・リーディング力・ライティング力の向上、クラスメイトとのディスカッションの際のスピーキング力の向上、授業によってプレゼンテーションがあるため、プレゼンの力の向上、英語から日本語への翻訳するはやさの変化、専門知識を得ることができ、視野が広がった。又、履修した授業を通して、自分自身の弱点を改めて見直すことができ、その点に力を入れることができた。

IV. その他気づいたこと

授業だけでなく、積極的に大学主催のイベントに参加、サークルに参加することで、異国の友達ができ、会話を通して、様々な発見や知識を得ることができるため、当たり前であるが自分から動くことが大切である。

留学種別	TESS II
留学先大学	ペンシルバニア州立インディアナ大学
留学先国・地域名	アメリカ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ブリッジコース

ACE tutoring

Writing Across the Curriculum

Listening to Academic Lectures

Academic Literacy

woman gender studies

film studies

インターネットでの登録

上記 4 つはクラス 15 人ほど国籍は全てアジア圏（中国、台湾、サウジアラビア）**Woman gender** では 20 人ほどでほとんどの生徒が現地の生徒 **Film studies** では 30 人ほどでほとんどの生徒が現地のアメリカ人

ace tutoring はわからないことを教えてくれる家庭教師のようなものほとんどのクラスはゼミ形式で **gender** のクラスは講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

英語でレポートを書く機会が多かったためレポートの書き方やその場面で使うべき英語などを学ぶことができました。また生徒や先生たちとコミュニケーションをとることも多かったため話す、聞く面でも成長することができた。

IV. その他気づいたこと

課題の数が多かったため忍耐力がつけました。勉強環境がしっかりしているためしっかりと課題に取り組むことができた。

留学種別	TⅢ（2か国目）
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Human Geography, Social Psychology, Social Differences and Divisions, Deep History (Anthropology), Spanish を履修していました。願書を送った際に提示した希望の授業がそのまま登録されていました。自分で、その授業が履修可能な基準を満たしているか確認する必要がありました（レベルが高すぎる授業は履修不可、半年留学の人は通年の授業は履修不可などのルールがあるため）。1 つの授業に大体 40～50 名程度の生徒がいます。言語の授業は 10 名程度でした。学部の授業の場合、周りは現地学生ばかりです。一コマ 2～3 時間と長いですが、1 日多くても 2 教科程度しか受けません。夕方 5 時から始まって夜 7 時に終わる授業などもありました。全授業週一回のペースで開講されます。大体が講義形式ですが、中には講義に加えてセミナーも受講する科目があります。セミナーとは全体講義を受けている生徒が 10 名ずつ程度で分けられたグループで、各担当教員の指導のもと、プレゼンテーションを行ったりしました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

論文などを読んで、エッセイを書くという課題が多くあったのでリーディング力が多少ついたように思います。また、ほぼ全ての授業でグループワークの課題がありました。グループワークでは、発言することを躊躇している自分がまだいることに気づきました。言語の壁を感じ、グループメンバーの会話について行けない部分もありましたが、言いたいことがあるのにためらっている部分もあり、もう少し貢献できたのにと後悔することがありました。グループワークを通して自分の改善点が見つかり、良かったと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ University English course
- ・ Academic writing, Academic listening&reading, Academic reading, Language development
- ・ 事前に登録されているので何もしなくて良い
- ・ 8 人(日本人 3 人、中国人 4 人、タイ人 1 人)
- ・ 月曜～木曜(9:00-13:00)、金曜(10:00-12:00)
- ・ 月曜～木曜→ゼミ形式 金曜→講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

①Education in a world of change

- ・ 履修登録期間に PC で登録
- ・ 約 20 人(イギリス 13 人、イタリア 3 人、ルーマニア 1 人、オーストラリア 1 人、日本 1 人、ブラジル 1 人)
- ・ 火曜 13:00—15:00
- ・ ゼミ形式

②Understanding communication

- ・ 履修登録期間に PC で登録
- ・ 50-80 人
- ・ 火曜 15:00-17:00
- ・ 講義形式

③English Language Core Skills

- ・ 履修登録期間に PC で登録
- ・ 14 人(日本 7 人、イタリア 2 人、ドイツ 1 人、ブラジル 1 人、フランス 2 人、リトアニア 1 人)
- ・ 水曜 13:00-16:00
- ・ ゼミ形式

④Introduction to Japanese society and culture

- ・ 履修登録期間に PC で登録
- ・ 大人数(約 50 人)
- ・ 金曜 10:00-12:00
- ・ 講義形式

III. 留学で得た学習成果

- ・ アカデミックなエッセイの書き方、一プレゼンの仕方、論文の読み方を学んだ。
- ・ ネイティブの英語を聴き続けることでリスニング力があがった。
- ・ 自分が理解できなかったことを先生やクラスメイトに質問できるようになった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私は前期から学部だったので、現地学生と同じ授業を取りました。授業は、**Academic Writing** と **Tandem**、**Chinese** と **Social Differences and Division** を受けました。月曜日が中国語と **Academic Writing**、水曜日は **Social Differences and Division** のレクチャーとその後セミナーがありました。**Tandem** は各グループでのレコーディングがメインで、私のグループは木曜日にレコーディングをしていました。それに加え、木曜日に先生の許可を得て **International Development** を聴講していました。人数は中国語が 20 人程度、**Social Differences** が 200 人ほど、**Academic Writing** は 6 人、**Tandem** は 2 人ペアですが全体で 20 人強いました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部授業として、副言語の中国語や **Global Governance**、**International Relation**、**Development and Social Change** を受講しています。履修登録方法は入学前に申請しましたが、変更は 2 期に入る前に IT センターで行いました。クラス人数はそれぞれ異なりますが、**International Relation** は 100 人単位(セミナーは 20 人ほど)、中国語は 20 人程度、その他 2 つは約 3-40 人でした。月曜日に中国語と **International Relation**、木曜日に **Development and Social Change**、金曜日が **Global Governance** です。中国語以外はレクチャーとセミナーがあります。

III. 留学で得た学習成果

まず、英語力は成長しました。現地の学生と同等に接されプレゼンやエッセイを行うことで向上しました。また、グループワークによって現地の学生と話す機会を多く得、実際に会話する時の英語や言い回し、人間関係の保ち方を知りました。授業とは少し離れますが、自立することも出来ました。自立はこの留学の最も大切な目標であったので、それを達成できたこの留学はとても有意義なものだったと言えます。1 人で時間や予定を管理し料理や洗濯をしたり買い物へ行ったりお金の管理もしたりすることで、自分が毎日どれくらいのお金で生きていけるのか、そしてどのように生活すれば有効活用できるかを考えることができました。

IV. その他気づいたこと

COVID-19 によりオンライン授業履修

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称 : University English

授業科目 : Research 3

Academic Listening and Speaking 3

Academic Reading 3

Academic Writing 3

月 : Research 3 火 : Academic Listening and Speaking 水 : Academic Writing、木 : Academic Reading の週四日、一日一科目ずつ 4 時間 9:00~13:00

授業形式 : ゼミ

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

二期になり、語学コースから学部へ切り替わった場合、学期末のテストで平均評定 50%以上が必要だった。

コース名称 : Undergraduate

授業科目名 : Understanding Communication

Understanding Culture

English Core language Skills 1b: Communication and Culture

French A1

履修登録方法 : 出発前に前もって受ける授業を決めておくと指示されるが、履修登録期限内に相談すれば変更が可能。履修登録は、online ですることを指示される。

クラス構成 : Understanding Communication、Understanding Culture は、50 人で現地学生
その他は 20 人多国籍

火 : Understanding culture 14:00~17:00、水 : 木 : Core language skill 13:00~16:00 金 : French A1

13:00~16:00

III. 留学で得た学習成果

人とのコミュニケーションの取り方からもちろん言語的能力まで、友人や授業を受けている中でのグループワークなどの積極性を認められる場所で学びました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

University English

Writing, Listening&Speaking, Language Development, Reading の授業が月曜から金曜まで 9 時から 13 時までであった。金曜は講義で、10 時から 12 時まで毎週異なる先生から異なるトピックについてのレクチャーがあった。

履修登録は授業開始前のオリエンテーションにて、PC 室に集められ、指示の元、一斉に登録する。

レベルは 1～3 まであり、2 は中国人 4 人、日本人 3 人、タイ人 1 人。

授業のほとんどは講義式。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

特に **Writing** の授業は、これから学部や院のレポートを書く際に必要とされるスキルを基礎から学ぶことができ、毎回課題が出され、とても力になるものだった。期限までに提出すれば、毎回先生から細やかな添削をしてもらうことができ、改善を繰り返すことができた。

毎日午後に授業が終わるため、自由時間が多く、自分の時間管理次第で遊ぶ時間、リラックスする時間、友達との交流の時間をつくることができ、やるべきことを順序立ててこなしていく力が身についたように思う。

寮にはイギリスの一年生が多く住んでいて、語学授業を受けながらも、ネイティブの英語に触れる機会は多くあり、自分の積極性次第で勉強の場を広げられる環境でもあった。

クラブ活動もさかんで、留学生に寛容なところがほとんどなので、そこでも友人の輪を広げることができた。

留学生向けのイベントや週末のバスツアーに参加することで、様々な国籍の人、年齢の人、学部の人、院生の人と知り合うことができ、自分の見解を広げる良い機会となった。積極的に話しかけてくれる人もいるが、自分から行動することで更に楽しめるため、自然に主体性が身につく環境だった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私が留学 1 期に履修したのは、OxfordBrookes 大学の University English のコースでした。授業は、平日月曜日から金曜日の 5 日間あり、午前中朝の 9 時から休憩 15 程度を挟み、昼の 1 時まででした。振り分けられるクラスによって科目ごとの曜日は変わりますが、私が受けたクラスの場合、月曜はリサーチの授業、火曜にはリスニングとスピーキング、水曜はライティング、木曜にはリーディングの授業と金曜にはクラス関係なく UniversityEnglish を履修している全生徒が集まって講義を受ける講義形式の授業が行われました。月曜のリサーチの授業というのは、エッセイやレポートを書く際に参考とした資料の引用元をはっきりと記し、それら信頼性の高い引用文献を元に自分の意見を述べ、自分の出す課題の確実性を高めるための授業です。火曜から木曜までの授業内容はみなさんがきいて想像する通りです。そして金曜の講義では、最初の頃は留學生の心身のケアから始まり、学期の最後のあたりにはスピーキングのコツやイギリスの著名な著者の講義など多岐にわたりました。全体的な授業形式は、講義形式ですが、非常にアクティブかつ実践も多かったです。履修の登録は必要ありません。UniversityEnglish を受ける生徒は、現地に到着次第自分のメールアドレスに授業を始めるにあたっての事前講義の案内が来るので、それに従い学校に登校すれば問題ありません。しかし、教科担任から自分だけにメールが届かないなどのトラブルも多いので、気をつけ、その際にはきちんと自分でトラブルに対処しましょう。また、クラス構成においては、University English のコースで 3 つに分かれています。Level 1 から 3 までに分かれており最後の Level 3 のクラスは人数の関係上 2 つに分かれていました。私は Level 3 のうちのひとつのクラスに属していましたが、国籍は特に日本に偏っていました。約 7 割くらいは日本人で構成されていたと思います。他には中国、台湾、イタリアなどでした。クラスの人数は 20 名ほどでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

私は 1 期語学コースを受けていましたので、2 期になり学部コースへとコース変更がありました。語学コースから学部コースへ移るためには、語学コースの最終スコアでトータル 50 パーセント以上の成績を取ることが必要になります。もしくは、最初に学校に留学の申請をした時点で IELTS 6.0 以上のスコアが必要です。その条件を満たすことが出来たら、学期の変わり目に、学校または自宅から履修登録をします。留学したばかりで語学コースから学部コースに移行する場合のかたは、履修登録自体に不慣れである場合が多いと思うので、自分で無理をせず、学校に行ってスタッフさんに協力してもらいながら履修登録を進めることをお勧めします。尚、学校に出願する際（出発前）にも履修予定の授業を提示するように求められる場合が多いです。そちらの前もって出しておいた履修を基本的に履修することになるのですが、変更も可能なようです。学部コースでは自分の所属する学部、学科の授業系統が似通っているものの履修をお勧めします。留学後の単位変換をスムーズに行えるようにするためです。私が履修した授業は講義形式が多く、そのうちのひとつはセミナー形式（より少数の人数で意見の交換などを行うもの）や、講義を進めながら演習を行う授業もありました。講義形式のものは、30 人程度、おそらく人気の高い授業はもう少し人数が多くなります。先ほども言及したように、セミナー形式を取る授業は少数の人数（10～15 人）で行われます。私が履修していた授業のほとんどは現地の生徒で、留學生もしくは異国籍の生徒はとても少なかったです。選んだ授業にもよりますが、30 人程度のクラスなら 5～7 人程度の異国籍の生徒、もしくはそれ以下の人数でした。1 週間の時間割は日本の大学となんら変わりはありません。自分で好きな時間に必要単位分の授業を入れれば良いです。しかし、少し異なる点は、授業によって授業実施時間が様々であることです。2 時間、

1 時間と分かれている授業もあれば、少し休憩を挟んで通しで 4 時間やる授業もあります。自分の好みと受講スタイルに合った授業を選ぶようお勧めいたします。

Ⅲ. 留学で得た学習成果

まず、1 期に受講した **University English** のコースで得た最も印象深い点は、アクティブ授業での慣れとそれに伴う自信です。日本の授業形式と違い、私の行っていた地域の授業は、主に講師と学生の会話のキャッチボールによる意見交換を大前提に授業が進んでいきます。授業を一方的に教師から生徒への一方通行ではなく、学生側の積極的な学びと意見の提示を求められるのです。学部授業に移行すると、このスタイルに慣れている現地の生徒が積極的に発言をし、私たちは発言するタイミングを掴めずに大人しくなってしまう場合が多いと思われますし、実際にそうでした。この形式に慣れていない特に日本人は、なかなか発言や自分の考えを発信することに抵抗があります。私が受けた 1 期に受けた、**University English** の授業では、こういった形式の授業に慣れるためのチャンスが多かったように思います。クラスも固定で、月曜から木曜まで全く同じメンバーで授業が行われるので発言もし易いですし、何より留学生に慣れている講師の先生ばかりで、私たちの発言した主旨を上手く汲み取り理解し、よく私たちに対して質問を投げかけてくれます。なので、私はこの 1 期でクラス内で自分の考えを発信する自信を身に付け、アクティブ授業に対して慣れることが出来ました。2 期の学部授業では、1 期で身に付けたことを糧に 4 つある授業中に必ず一度は発言をするという目標を立て、それを達成することが出来ました。その他にも、単語の運用能力を上げることも注意して行なっていました。私は、4 つ様々な分野の授業を履修していたので、その授業ごとの専門的な英単語を知る必要がありました。耳馴染みの無い単語は、最初聞くとその部分だけ何を話しているかわからず内容自体が何だかすごく難しいことを述べているような、理解不能状態になってしまっていて混乱してしまいます。しかし、そういった授業内で使われる専門用語は授業内で何度も使われます。そこで、そういった単語たちを耳で覚えたり録音したりして、帰って家で調べていました。そうするとだんだん話の内容が明らかになってきて、講師の意向も汲み取れたりして来ます。そして、その新しく理解した単語を意見交換の際や、友達に使ってみたりしてだんだんと単語の運用能力を上げる事が出来るようになっていきました。

Ⅳ. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	オックスフォードブルックス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名：University English level3
- ・授業科目名：Research 3, Academic Reading 3, Academic writing level 3, Academic listening and speaking level 3, Lecture
- ・履修登録方法：現地に行く前にモジュール上で登録し、現地に行ってから再び大学のパソコン上で正式に登録した。
- ・クラス構成：15 人程度。国籍はほとんど日本人であった。
- ・一週間の時間割：月～木曜日は 9 時 - 13 時まで授業、金曜日のみ 10 時 - 12 時の授業であった。
- ・授業形式：レクチャー形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・1 期の語学コースから学部授業への変更について、テスト等はなかった。
- ・授業科目名：Understanding Culture, Museum and society, Modern British Art, Introduction to Japanese Society and Culture
- ・履修登録方法：留学前、個人のパソコンで授業を登録した。現地では、学期初めに学校で授業の最終チェックをした。
- ・クラス構成：ほとんどはイギリス人であった。
- ・一週間の授業時間割：月曜日 14 時 - 16 時、木曜日 10 時 - 12 時、13 時 30 - 16 時、金曜日 10 時 - 12 時
- ・授業形式：レクチャー

III. 留学で得た学習成果

1 期の語学授業では、レポート作成方法やプレゼンテーションスキルなど、学部授業を受講する上で必要となるスキルについて学んだ。

2 期の学部授業では、受講した授業についての知識はもちろん、ブリティッシュイングリッシュを聞き取るリスニングスキルが向上したように感じる。

IV. その他気づいたこと

1 期の語学コースでは、クラスの約 7 割が日本人であったため、英語を積極的に話す環境に自分を置くのに苦労した。(先生は今年は例外的に日本人が多いと言っていた。)

授業では、マルクス論の視点から文化を考察するものもあり、おもしろかった。

留学種別	TESS II
留学先大学	キール大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

【コース名称】 Foundation Year

【授業科目名】

語学科目

- ☐ Oral Communication Skills for Academic Study
- ☐ Language Development for Academic Study
- ☐ English for Academic Purposes 2

学部科目

- ☐ Europe and The Modern World 1815-1918
- ☐ Entrepreneurship
- ☐ Global Political Sociology

【クラス構成】

語学科目：4－12 人、国籍は日本、中国、香港、スペイン、中東

学部科目：20－30 人、ほとんどイギリス人

【一週間の授業時間割】

月曜 1、火曜 4、水曜 1、木曜 3、金曜 1 科目ずつ

【授業形式】

語学科目：ゼミ形式

学部科目：週に講義 1 時間、ゼミ 1 時間（Entrepreneurship は講義 1 時間）

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

【コース名称】 Foundation Year

【授業科目名】

語学科目

- ☐ Oral Communication Skills for Academic Study
- ☐ Language Development for Academic Study
- ☐ English for Academic Purposes 2

学部科目

- ☐ Europe and The Modern World 1815-1918
- ☐ The US and the Cold War World
- ☐ The Age of The Tudors
- ☐ Sociology of Culture
- ☐ Decisions, Investigations and Problem Solving

【クラス構成】

語学科目：4－12 人、国籍は日本、中国、香港、スペイン、中東

学部科目：20－30 人、ほとんどイギリス人

【一週間の授業時間割】

月曜 1、火曜 4、水曜 1、木曜 3、金曜 1 科目ずつ

【授業形式】

語学科目：ゼミ形式

学部科目：週に講義 1 時間、ゼミ 1 時間（Decisions, Investigations and Problem Solving は講義 2 時間、問題演習 1 時間）

Ⅲ. 留学で得た学習成果

語学科目では英文エッセイの構成、パラフレイズの仕方、プレゼン方法等、必要なアカデミックな技術を学び、それを学部授業の授業や課題に活かした。また、学部科目では歴史の授業を中心に履修し、イギリスやヨーロッパの歴史をイギリスとしての目線で学習したことで、より多角的に物事を捉える力が身についた。さらに、エッセイ課題を通して英文資料に多く接したことで、日本語だけでなく英語での情報収集能力も高めることができた。

Ⅳ. その他気づいたこと

留学中に **Brexit**、イギリス全土におよぶ大学教員によるストライキ、コロナウイルスによる急速な社会の変化を経験できたことは、留學生活に支障をきたしたが、社会のあり方について考えさせられる貴重な体験ができたと感じる。

留学種別	TESS II
留学先大学	キール大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース: Undergraduate Study Abroad (Exchange) for a Semester (Foundation Level) leading to a Undergraduate Credits degree in Open Learning - Exchange - Foundation Level (UGVIS-EX programme)

授業科目:

Anglo-Saxon England

Oral Communication Skills for Academic Study

Language Development for Academic Study

Different Senses, Different Life?

English for Academic Purposes 2

Global Political Sociology

Introduction to Philosophy

履修登録方法:

事前に送った履修希望書をもとに事務員が登録。

クラス構成:

少なくとも 3 人、多くて 20 人程度。国籍は、イギリス、中国、台湾。

時間割:

月曜日 Anglo-Saxon England (Lecture)、Oral Communication Skills

火曜日 Language Development for Academic Study

水曜日 Different Senses, Different Life?

木曜日 English for Academic Purposes 2、Global Political Sociology、Introduction to Philosophy (Tutorial)

金曜日 Anglo-Saxon England (Seminar)、Introduction to Philosophy (Lecture)、Language Development for Academic Study (Seminar)

授業形式: Lecture、Tutorial、Seminar

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

コース: Undergraduate Study Abroad (Exchange) for a Semester (Foundation Level) leading to a Undergraduate Credits degree in Open Learning - Exchange - Foundation Level (UGVIS-EX programme)

授業科目:

Understanding Narrative

Oral Communication Skills for Academic Study

French

Entrepreneurship Level 3

The Sound of Music

English for Academic Purposes 2

Language Development for Academic Study

履修登録方法:

事前に送った履修希望書をもとに事務員が登録。

クラス構成:

少なくとも 3 人、多くて 20 人程度。国籍は、イギリス、中国、台湾。

時間割:

月曜日 Understanding Narrative (Lecture)、Oral Communication Skills for Academic Study
火曜日 なし
水曜日 Entrepreneurship Level 3、The Sound of Music、English for Academic Purposes 2、French
木曜日 Language Development for Academic Study
金曜日 Understanding Narrative (Tutorial)
授業形式: Lecture、Tutorial

Ⅲ. 留学で得た学習成果

英語を読む機会が日本いた時よりも何倍も増えたため、読むスピードと理解力が向上した。英語で授業を受けたり、多い課題をこなすことで、英語をアウトプットする機会が増え、会話力や、書く力を伸ばすことが出来た。わからないことがあればすぐに相談し、解決したことで、積極的に行動することが出来るようになった。

Ⅳ. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ノーサンブリア大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私は **Combined Business Credits** のコースで **Hospitality and Tourism Management** というモジュールセットを取りました。履修登録は大学のポータルを通して自分の取りたい授業を第 10 希望まで選び、大学が決めるという形でした。第 1 希望が通り、取りたかったモジュールセットの中には 3 つ (**Innovation and Creativity in Tourism, Hospitality and Events**、**Tourism, Events and Society** と **Understanding Tourism**) の科目があり、それぞれ週に講義 2 時間とセミナー 1 時間あります。セミナーではクラスメイトとのディスカッションやグループでのプレゼンテーションがあります。また留学生必修科目の **Academic Language Skills for Business** の 2 時間の講義もあります。この授業ではライティングスキル (エッセイやレポートの書き方) やプレゼンテーションスキルについて学習しました。1 週間で合計 11 時間の授業があり、クラスは約 20 人でその中で留学生は私を含め 8 人です。アメリカ、ドイツ、チリ、フランスから来た留学生でした。その他全員は現地の大学生です。授業では主にパワーポイントを使っており、いつでも大学のポータルからダウンロード出来るようになっています。大学の学習環境としてはとても充実しています。パソコンが至る所に置いてあり、自由に使用でき、自習室としてパソコン室や図書館を利用出来ます。また図書館は広く静かで集中して勉強できる環境でした。また 24 時間開いているのでテスト前の学生にはとても最適だと思いました。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

4 ヶ月で短期間でしたが、ビジネスにおける専門的知識をたくさん学ぶことが出来ました。私は英米語専攻で文学を主に学んでいたもので、より高度な専門知識を学びに来た留学生たちの中でついていくのは大変でしたが、先生が授業中に話していた中で分からなかったビジネス用語などをメモって後で調べたり、友達に聞いたりして以前よりも多くのビジネス用語を身に付けることが出来ました。また、グループプレゼンテーションの時に私が最初に発表することになったので時間内に終わらせるようグループの子からたくさんのアドバイスをもらって無事成功したときはとても達成感で一杯でした。最後の課題として各モジュールで 3000 語のレポート・エッセイを書かなければなりませんでした。が、**Academic Language Skills for Business** の授業でより詳しくライティングスキル (エッセイやレポートの書き方) を学習したおかげでライティングを向上することが出来ました。この留学を通して語学力はもちろんですが、多くの留学生と触れ合うことで、他国の文化、価値観、宗教や社会問題などの異文化理解をより高めることが出来たと思います。また **Business School** でビジネスを立ち上げたい留学生に出会い、その人たちのビジネスパートナーとも友達になり、将来を語り合ったことで自分もとても刺激を受けました。ここで経験したことを無駄にせず、是非将来に活かしたいと思いました。

IV. その他気づいたこと

先生や留学生がよく日本の良さを語ってくれたことで、いかに日本は素晴らしい国だということを知り、ヨーロッパでは日本のことをこんなに受け入れてくれていることを知りました。留学に行く前は日本のことをあまり知らない留学生にたくさん出会うだろうと思っていましたが、日本の食文化、言語、価値観など理解してくれている留学生が多いことに驚き、また留学生と親しくなることで、多国籍文化や価値観を学び、宗教や他国の社会問題など現地の留学生だからこそわかる情報など多く教えてもらいました。これによって私は留学生たちと異文化理解を深め

留学種別	TESS II
留学先大学	ブルネル大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ブルネル大学の学部授業は最大で、3つのみ取れるようになっていました。履修登録方法は、4 月ごろ留学に行く前に事前にブルネル大学から授業内容が記載されている資料をもらっており、そのままブルネル大学のポータルサイトから登録しました。

私が受けた授業は、**Global Communication, Contemporary British and Irish Fiction, Film and TV Genres** でした。最初の2つのクラス人数は、大体10人～20人未満で、一週間に1つのクラスでした。授業構成的には、基本的に先生がパワーポイントを使って説明する日本の講義とかなり似ている部分が多かったような気がします。しかし、日本よりも生徒に意見」を聞いたり、突然質問を投げかけてくる場面も多く見られました。

映画の授業では、クラスの人数が30人以上で、友達によると、ブルネル大学には映画専攻があるのでクラスのほとんどが映画専攻の人が多く、留学生でこの授業をとっている人は少なかったです。この授業は一週間に3コマあり、9:00~10:30 は指定された映画を見る時間（事前に自分で見てこの授業に来ない人もいる）その後 11:00~12:00 は先生がパワーポイントや動画を使いその映画について説明する時間、1時間の休憩後 13:00~14:00 からクラスの人とディスカッションするような授業構成でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

語学コースでリスニング、ライティング、リーディングの総合スコアが65以上でないと、語学授業が受けることが出来ないといわれていました。直接先生に聞いた話ではないですが、万が一65未満でも2期で追加の授業（スコアが足りなかったもののみ）をとれば、学部授業は受けることが出来るそうです。

III. 留学で得た学習成果

2期の授業を受けて、自分自身が成長した点は現地やネイティブの人ともっとかかわったり話したりすることで、前よりも自分の意見を言えることになったことだと思います。

また、私が取った **Contemporary British and Irish Fiction** は毎週小説を1冊読んでディスカッションする授業だったので、普段本を読まない私にとっていい経験と読むスピードが以前よりも早くなりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ブルネル大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

中間報告にある通り

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

Sociology for Everyday life

100 以下の中規模教室 国籍様々

1 週間に一コマ（2 時間）

講義形式

Global Communication

20 程度の小教室

1 週間に一コマ（2 時間）

講義形式

Social Media and Networked Culture

20 程度の小教室

1 週間に一コマ（2 時間）

講義形式

III. 留学で得た学習成果

日本では出ないようなアイデアがあり、かなり新鮮だった。まだ語学コースと違ってさまざまな国の人と話すことによって、人それぞれのアクセントになれることができた

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ポーツマス大学
留学先国・地域名	イギリス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

一学期から **Humanity and social sciences** 学部の授業に参加し、“**Gender and sexuality**”, “**Global journalism and human rights**”, “**NGOS and human rights**”を受講しました。“**Gender and sexuality**”では **LGBTQ+**についての理解を深め、フェミニズムや、性による社会の中の固定概念などを学びました。クラスは、約 60 人程度の学生がおり、そのほとんどがイギリス出身の学生でした。留学生では、中国出身の方が数人いる程度でした。“**Global journalism and human rights**”では、ジャーナリズムが直面する人権問題について学びました。このクラスは比較的少人数であり、20 人程度のイギリス出身の学生がいました。留学生はアメリカとカザフスタン出身の学生が一人ずついました。“**NGOs and human rights**”では前半に、非政府組織である **NGO** についての理解を深め、後半にアラブの春や **e-activism** などについて学びました。この授業では、修士号の学生との合同授業でした。クラスには 50 人程度の学生がおり、その中の 8 割前後はイギリス出身の学生、その他は様々な国からの留学生でした。履修登録は日本にいた時に行いましたが、新学期が始まって 2 週間は履修登録変更期間なので、履修を組み替えることは可能です。また、授業は 1 週間に二時間ずつ授業があり、一時間は **lecture**、もう一時間は **seminar** です。**Lecture** では主に教授が授業の解説をし、**seminar** では学生同士ディスカッションをします。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

二学期では、“**British culture**”, “**Bending the truth a little? Researching Politics and international relations**”, “**Intercultural perspectives on communication**”という授業に参加しました。“**British culture**”ではイギリスの歴史、文化について学習しました。クラスのほとんどが留学生で、その中の 6 割程度は中国出身の学生で、それ以外はヨーロッパ出身の学生でした。1 週間に一時間 **lecture** があり、二時間 **IT session** というパソコンを使ったグループワークをしました。“**Researching politics and international relations**”では、社会の中で起きた出来事（ニュースなど）を分析する方法を学びました。クラスは大半がイギリス出身の学生でした。1 週間に一時間ずつ **lecture** と **seminar** がありました。“**Intercultural perspectives on communication**”ではそれぞれの国の文化や価値観の違いなどを学びました。クラスの 3 割程度がイギリス出身の学生で、7 割は様々な国から来た留学生でした。1 週間に一時間ずつ **lecture** と **seminar** があり、さらにもう一時間 **IT session** がありました。

III. 留学で得た学習成果

留学を通して英語を話すことに対して緊張することがなくなりました。特に一学期目は初めての学部授業、さらにほとんどの学生はイギリス出身のネイティブだったため、発言することに対して緊張感がありましたが、授業を受けるにしたがって発言の内容以上に、発言をするというやる気を見せることが大切だと気がつき、感じたことは思うように発言をすることができるようになりました。そのため、たまに的外れな回答で恥をかうこともありましたが、今となっては良い思い出です。一学期目の後半では英語をネイティブの前で話すことに対する緊張感はいぶなくなっていたと思います。後期では、前期に比べて比較的留学生が多く国際的な環境で学習することができました。またグループワークが多くあったので他国の学生との関わり方について学ぶことができました。後期でも積極的に発言をすることを意識し、スピーキング力は比較的上がったと感じます。また、リスニング力も授業で教授や生徒の会話との会話を通して伸びたように感じます。また留学を通して **writing, reading** の力がかなりついたと感じます。多くの課題はエッセイであり、多いもので 2500 字程度でした。初めは、平均的な成績しか取れな

ったですが、徐々にコツをつかみ、あるエッセイでは一番良い点数を取ることができ大変嬉しかったです。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	トリノ大学
留学先国・地域名	イタリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

大学にある英語開講科目(学士修士共)をどれでも選べる履修登録はない。テスト前にテストを受ける登録のみする。クラス構成はまちまちだが、普通の学部授業は半数ほどが現地学生、他が留学生。人数は少ないと 15、多ければ 50 超。ひと授業連続 2、3 時間が週に 2、3 回で 6 週ほどで終わる。授業によってはテストまでに二月間が開くこともある。オンライン受講(出席しないで配布課題のみ行う)可能な物も多い。基本的に講義形式。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

コロナの為受けられなかったが、完全オンラインで行っていた。詳細は上と同じ。

III. 留学で得た学習成果

そもそもの英語での思考力が上達した実感がある。またヨーロッパからみた映画やマーケティングの価値観も学べて楽しかった。他国籍の学生の発言の仕方や授業姿勢、考えもそれぞれで刺激を受けた。

IV. その他気づいたこと

必ずしも日本での授業に活かせるものばかり学んだわけではないが、人生経験としてとても有意義なものであった。ヨーロッパでもイタリアらしい、と言える側面とイタリア内でも真面目な分類の地域柄も大学内で感じれた。教授たちも留学生に親身で嬉しかった。授業選びについては、履修登録がないので最初に興味のあるもの一通り(被ってる場合オンラインのものを見るなどして)確認してから、興味や相性、難易度で絞るのが合理的だった。

留学種別	認定
留学先大学	ウーロンゴン大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース内容 : **General English**

スピーキング、リスニング、ふるーぷワーク、プレゼン

(レベルごとのクラス分けのためクラスにより授業内容が異なる)

クラス構成 : 1 クラス 14 人ほど

(日本人多数、サウジアラビア人、韓国人、レバノン人、インド人、ネパール人)

授業割 : 月一金 **8.30-12.30** (間 20 分休憩あり)

使用教科書 : 特になし

授業形式 : ゼミ形式、グループワークや個人でプレゼン準備など

環境 : 大学内の図書館で飲食可能かつディスカッションができるスペースや、完全自習のスペースがある。教室は **college** のため 15 人ほどの人数が入れるほどの広さ。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

ホームステイ : ホストマザーとホストシスターとの生活。

それぞれが仕事や学業で忙しいため夕食の突起に会話をすることが多い。

部屋は一人用で浴室・お手洗いは共用。

通学方法 : 徒歩 15 分

食事 : ホームステイ費に平日朝・夜、休日毎食分が含まれているため、平日は大学内のスーパーや食堂で購入することが多い。大学からフリーバスで 15 分ほど離れたところにモールがあり、そこで食事や買い物もできる。

休日 : 土曜日はモールに友人と買い物や食事に外出

日曜日は公共交通機関での交通費が一定で **2.8** ドルのため、シドニーに 1 時間半ほどかけて電車で行くことが多い。ほかにもホストファミリーと車で遠くの街に出かけることもある。

III. 留学で得た学習成果

スピーキングや、リスニング、ライティング、リーディングなど英語の四技能はもちろん、日本とは違う現地の文化も得られた。自分とは違う国籍の人と共通に言語で話すことが楽しく感じ改めて英語好きだと感じられた。英語以外にも、全く知らない環境で 0 から始めることで自分の考え方が変わったように思えた。現地でできた友人に言われた自分のことと日本の友人から言われた自分の様子が異なるため、そのように感じられた。また、この三か月を通して、将来自分が何をしたいかが明確にわかり、そのために何をすべきかも決められた。

IV. その他気づいたこと

college での学習だったため日本人が多く、ある程度予想していたが、過半数を超える人数とは思っていなかった。しかし、教員が日本人同士でも英語でしゃべるよう多くの機会を設けていた。

留学種別	TESS II
留学先大学	サザンクロス大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Australia Asia and the World,

履修は全てオンラインで行います。

クラスの人数は合計で 20 名ほどですがそこから二つの授業グループに分かれます。国籍についてですがあまりインターナショナルでは有りません。

Intensive Weeks があるので他の授業とは異なりますが、週に **Workshop** が 4 時間、**Lecture** が 2 時間です。

Communication in Organisation

Body movements を基に人間の行動がどの様に影響するかを学びます。それに付随して **NUFS** でいうところの **Academic Skills** 的要素もあります。

国籍は豊かですがアジア人の生徒が多い気がします。**Lecture** 形式の授業が週に 2 時間あります。

Language and Learning in your discipline

主に大学で必要な知識を学びますが、**How to** というよりかはより学術的な視点で教えられています (セオリーなど)。

アジア人がとても多いですが、ヨーロッパ人もいます。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

日本の大学と海外の大学の違いに気づきます。授業数も時間も断然に少ないですが、とても大変です。セルフマネジメント能力が上がりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	サザンクロス大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP 履修登録はなく、一科目のみだった。

クラスは 20 人程度で、日本人が自分含め 2 人、他はほぼ中国人、台湾人だった。

授業は確か朝 8:30 から 13:00 までで、1 日に 1 時間半の授業が二回、1 時間の授業が一回、それを週 5 日、10 週だった。

授業は講義形式。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部に行くには **EAP** の卒業テストで必要スコアに達して卒業しなければならず、そのテストは IELTS 形式だった。授業などでも練習問題をやってくれたり、授業外で勉強する場を設けてくれたり、また一回目でスコアを通らなかった人にも再試験があった。

Exchange なんか？のような名前のコースで、**CoE** 上では学部が決められていたが、実際は学校で開講されているどの学部の授業でも履修できた。

履修登録はインターネット上で、現地の留学生担当の先生がサポートしてくれて登録する機会があった。

四科目まで取れたので、2 時間か 3 時間程度の授業が一日一コマある程度で、授業がない日もあった。

授業は講義形式。グループディスカッションも多かった。

III. 留学で得た学習成果

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	サンシャインコースト大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名
EAP 2 (語学コース)
- ・授業科目名
EAP 2
- ・履修登録方法
インターネット申し込み
- ・クラス構成
クラスの人数は少数で 13 人ほどだと思います。国籍は日本、中国、香港、フィリピン、ネパール、フランス、ロシアと様々ですが、人数的に言うと、アジア圏の人たちが大半を占めていました。
- ・一週間の授業時間割
月・水・金では主にアカデミックイングリッシュについての授業そして、火・木では IELTS についての授業が行われていました。
8:40-10:40 授業
10:40-11:00 休憩
11:00-12:00 授業
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 授業
- ・授業形式
ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・語学から学部に移行時の手続き
手続きはないが、**week4** 頃に中間テスト (300 文字エッセイとリスニングとリーディング) と **1000 文字エッセイ**、そして、**week8-9** 頃に期末テスト (300 文字エッセイとリスニングとリーディング) と **1500 文字エッセイ**と **1500 文字**に関する **13-15 分プレゼン**の合計 **65 点**以上取れば無事学部授業に移行することができる。**65 点**以下の場合再テストあり。
- ・コース名
Study Abroad Program
- ・授業科目名
BUS104(Management), BUS105(Marketing), BUS106(Accounting)
- ・履修登録方法
大学のホームページから可能。
- ・クラス構成
大人数で国籍は多々。
- ・一週間の授業時間割
人によって違うと思うが、自分は月・火・木に **Lecture** (基本 2 時間) と **Tutorial** (基本 1 時間) を入れていた。
- ・授業形式

Lecture の講義形式と Tutorial の少人数によるゼミ形式が 1 科目にワンセット。

Ⅲ. 留学で得た学習成果

コロナウイルスによって留学プログラムを終えることができなくて悔しい気持ちでいっぱいだが、学習成果に関しては、語学コースを自分の満足する点数で完了することができて満足しています。しかし、今回の留学を通していくつか成長した点もありました。例えば、留学前に比べ自分の気持ちを積極的に言えるようになりました。さらに、日常生活でも英語に触れる機会（洋画を英語字幕で観たり、寝る前に英語のニュースを読んだりなど）を自分から積極的に作るようになりました。そして、今回のコロナウイルスの影響での帰国から学んだこともありました。それは、“やりたいことは先送りせず後悔のない毎日を過ごす”ことです。

Ⅳ. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	セントラルクイーンズランド大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP1.2

リーディング、リスニング、グラマー、スピーキング、ライティング
申し込み時に決まっていた

14 人(中国人、ベトナム人、インド人、パキスタン人、台湾人)

ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

英語 4 技能がレベルアップしました。特にスピーキングに力を入れていたので、とても伸びました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	タスマニア大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称：UTAS Access5,6,7

履修登録方法：自動的にクラスが振り分けられた。特に自分で履修登録をする必要はなかった。

クラス構成：10 人～18 人、中国・日本・ベトナム・韓国・スリランカ・台湾

一週間の授業時間割：午前に 2 時間、午後 2 時間の授業。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの授業をタイムスケジュールに沿って行った。時間割に規則性はない。

授業形式：少人数の授業であるため、どちらかというゼミ形式に近かった。グループでディスカッションをすることも多かった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニング力とライティング力がついた。

毎日現地の英語に触れることで、今まで一番苦手意識があったリスニングが今は得意になった。テストでは、4 つの技能の中でリスニングで一番いい点数を取れるようになり、留学を始めたばかりの頃より友達や先生や現地の人の英語を聞き取れるようになった。

エッセーを書くことが多く、数を重ねることで論理的な文章が書けるようになった。また、オーストラリアは盗作に厳しく、他の文献の参考の仕方を学ぶことができた。初めてレポートを書く意味、レポートの正しい書き方を理解できた。

自分の立場や意見を持っていれば、ディスカッションも苦に感じずできることが分かった。今までディスカッションにも苦手意識があったが、それは自分の意見をはっきりさせていないからだという事が分かり、苦手意識がなくなった。

IV. その他気づいたこと

英語力に関しての日本人と中国人やベトナム人との大きな差を感じた。

そもそも海外で勉強する目的が異なり、他の国の生徒は移住目的だという事を初めて知ったときは驚いた。その点で、日本という国は、国民が住みやすい場所なのだと思う。日本での生活が豊かで十分に成り立つため日本人がわざわざ英語を勉強しなくても、海外で勉強しなくてもいい理由が分かったし、その結果英語力に関しては海外と差が出るのだろうと思った。日本の良さを実感できた一方で日本はとても閉鎖的なのではないかとも感じた。

留学種別	TESS II
留学先大学	ニューカッスル大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

upper intermediate コース 5 週間

内容は **NUFS** で行っている英語の授業と同じ感じです。リーディング、スピーキング、ライティング、リーディングを学びました。人数は 15 人ほどいました。約 3 分の 1 ずつ中国人とサウジアラビア人、その他日本人 3 人とスイス人 1 人がいました。一日 4 時間で一週間 20 時間授業がありました。

EAP コース 10 週間

このクラスでは、大学に進学するためのコースで、テストに合格するための勉強法を学びながら英語を勉強します。人数は 15 から 20 人で香港人韓国人フィリピン人バングラディッシュ人と私以外全員中国人でした。その他 **upper intermediate** と変わりはありません。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

語学学校で学んだ内容は **NUFS** の英語の授業で習う内容とほとんど同じでした。現在世界で問題になっていることを通して英語を学びました。より深く学べたと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	西オーストラリア大学
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ General English Course
- ・ Writing, speaking, listening, reading
- ・ 語学学校なので履修登録は学校側が決める
- ・ タームによってクラスは変わりますが、人数は約 18 人、国籍は中国、フランス、韓国、トルコ、コロンビア、チリ、ブラジル、サウジアラビア、タイなど
- ・ 1 コマ 120 分の授業が一週間に 10 回
- ・ 教科書や先生が配布してくれたプリントをもとに授業を行った。授業スタイルは主にスピーキングをメインとし、ディスカッションが多かった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

語学学校だったので様々な国の生徒と交流することができ、日本人にはない発想や意見を交換することができた。また、それぞれの国の良い点、悪い点を知ることができ、他の国に対する関心がより深まった。さらに、他の国の人から見た日本のイメージを聞いたり、質問を受けることで、日本がどう思われているのか、また、日本人はもっとどうなるべきかということを考える機会が増え、日本を客観的に見ることができた。さらに、授業内では他の国の生徒の積極性に触発されて、自ら発言することが当たり前だと思うようになった。

生活面に関しては、周りの人に頼ることなく、と言いますか、頼りたくても頼れない状況だったため、必然的に自分で何とか解決しなければならなく、今まで日本でどれだけ周りの人に頼り、助けられてきたかということがよく分かった。

日本の常識、価値観が全て正しい、そして、そうしなくてはならないという考え方が 180 度変わった気がする。もっと自分のやりたいことを周りを気にすることなくトライしてもいいんだなと思うようになった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	西オーストラリア大学附属英語学校
留学先国・地域名	オーストラリア
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名は、**General English** コース。

授業は、学校に決められています。

クラスはヨーロッパやアジア圏が多く、**15 人前後**の人数で構成されています。

一日、**4 時間**の授業が**1 週間**あります。授業はゼミ形式でクラスメイトと話し合いをしながらすすめられています。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニング力とスピーキング力が向上しました。また、今まで単語の意味を日本語で調べていたのですが、単語の意味も英語で調べるようになり、より正確な意味がわかり、どのような時にどの単語を使うのか少しずつ理解できてきました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	キャピラノ大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

English Academic Purposes

Writing, Listening, Reading

レジスターオフィスにて履修してもらう

20 人ほど:イラン、中国、モンゴル、台湾

月曜:Reading,writing

火曜:Listening

水曜:Reading,Writing

木曜:Reading,Writing

金曜:Listening

Reading:Interactions2

Writing:Great writing 2

Listening:Contemporary topics2

ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

学校の授業を通して、英語の能力についても少しは身についたという実感はあるが、特に積極的に意見を言えるようになったことが 1 番の成長であると感じる。

IV. その他気づいたこと

日本とはまったく違い、海外の授業はみんな参加型の授業で、生徒の意見が飛び交う授業であることがわかった。

留学種別	TESSIV
留学先大学	セネカカレッジ
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ELI 英語コースで週 **5** であった 毎日同じ先生と同じメンバーで行うのでクラスの間みんなと仲良くなれていいと思った 授業は次の学期でとる専門コースのために、英語の **3** 技能を高めようという目的のもと行われる。また、週 **2** 回学校側によって選ばれた専門科目をうける。私は心理学に興味があったので良かったが、自分の興味のない分野の授業が選ばれている友達もいて大変そうだった。履修登録は学校側によって行われるため自分では何もしなかった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

FSO フライトの授業 自分はナフスからの留学生が一人だったということもあり履修登録は学科の先生にお世話になった その先生の配慮により自分が受けた **5** 個の授業全てフライトに関するものだった ふつうは **1** 期にうける授業が **5** 個決まっていた他の生徒は全員フライトの授業と英語の授業、地理の授業などを受けていた。全てのクラスが **20** 人弱で構成されており、レクチャーを聞くのがメインで課題としてプレゼンを行うことも多かった。テストは **iPad** を使って行う知識復習のためのテスト以外にもハンドインテストといってドアの開け方や救命胴衣の着方、アナウンスなどを実践するテストもあってとてもいい経験になった。先生たちが現役のフライトアテンダントで知識豊富でとても優しくていい人たちだった。

III. 留学で得た学習成果

リスニング力が格段に上がったと思う。また話す機会も多いのでスピーキングにも自信がつくと思う。カナダという国は多様性が重視されていて、物事の考え方や価値観に大きな影響を与えてくれたと思う。

IV. その他気づいたこと

緊急帰国となってしまったが、学校側の留学生へのサポートが手厚く不安なく帰国できたのでよかった。

留学種別	TESS II
留学先大学	ノースアイランドカレッジ
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

履修登録は自動でされていた。

ESL92-ライティング 8 人でベトナム、中国、日本人が占めていた 月～木 9:00 から 11:30 ゼミ式

ESL96-リスニング 8 人でベトナム、中国、日本人が占めていた 月～木 12:30～15:00 ゼミ式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

前学期にオンラインで履修登録をしておく。

ENG104-アカデミックライティング 20 人ほど インドからの留学生がほとんど 月、水 14:30～16:00 講義形式

HIS112-カナダ史 20 人ほど 現地の学生がほとんど 水 18:00～21:00 講義形式

CHN102-中国語入門 5 人 現地の学生と留学生 火木 14:30～16:00 ゼミ式

III. 留学で得た学習成果

英語で英語を学ぶ経験ができた。そのおかげで日本で勉強するよりも伸び幅が大きかったと感じた。

また、英語で論文を書いたり読んだりする中で、英語を勉強しなくても語彙力がついた。

IV. その他気づいたこと

宿題が多くて大変だった。他人のミスで成績に関わることなどに不備が起きるような事態があったとき、諦めずに話をしに行くことが大切だと学んだ。英語に自信がなくても、そのような経験をすることで自信ができるということを学んだ。

留学種別	TESS II
留学先大学	ノースアイランドカレッジ
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

English as Second Language の **Reading & Writing** のクラスはクラスメイトが自分を含める 3 人しかおらず、中国人 1 人、日本人 1 人でとても小規模のクラスでした。履修登録は **Student Service** に行って行いました。授業では、教科書 (**Pathways Reading, Writing, and Critical Thinking 2**) の **Reading** の解読や **Paragraph** の基本的な書き方、**Transactional letter** の書き方、知らない語彙が **Reading** の中で出てきた時の推測方法などを学習しました。月曜日から木曜日、毎日 2 時間半の授業がありました。火曜日の 1 時間半だけコンピューター室に途中で移り、先生に呼ばれて一人一人 **Writing** の評価を受け、その間は個人でパソコンに向かいボキャブラリークイズを解いていました。**English as Second Language** の **Listening & Speaking** のクラスはクラスメイトは自分を含める、中国人 2 人、日本人 4 人、ベトナム人 2 人の 8 人クラスでした。履修登録は **Student Service** に行って行いました。授業では教科書 (**Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 2**) の **Listening** の問題や **Discussion questions** での **Speaking** 練習を行ったり、**idioms** の使い方などを学習したりしました。月曜日から木曜日、毎日 2 時間半の授業があり、その内の 1 時間半はパソコン教室に移り、自分の **Speaking** を録音して、**Pronunciation** の上達を図りました。その他の時間は教室で参加型の講義授業でした。教室の設備は十分にあり、図書館の中に自習室があるため、勉強できる環境はきちんとありました。その他の時間は、教室で参加型の講義授業でした。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 期は語学コースを 1 つ。学部授業を 2 つ取りました。

(語学)**English as Second Language** の **College/University Prep Reading & Writing** は中国人 1 人、ベトナム人 1 人、韓国人 1 人、日本人 2 人でした。履修登録は **Student Service** に行って行いました。月曜日から木曜日の午前 9:00 から 11:30 までです。講義形式です。

(学部) **Humanities and Social Sciences** の **Culture, Communication & Global Citizenship** は約 10 人の半分がカナダ人、その他私以外がインド人でした。履修登録は **Student Service** に行って行いました。金曜日の夕方 3 時間の講義形式の授業でした。

(学部) **English** の **Foundations of Academic Writing** は約 20 人のほとんどがインド人の 5 人ほどのアジア人と 2 人の白人でした。履修登録は **Student Service** に行って行いました。月曜日の午後 1 時間半、水曜日の午後に 1 時間半の 1 週間に合計 3 時間の講義形式でした。

III. 留学で得た学習成果

English as Second Language や **English** の授業を取ったため、英語で文章を書くことに慣れました。**Essay** を今まで書いてこなかったのですが、**Essay** の書き方や、その中に **Citations** や **Reference** を含めることを覚えました。社会の授業では、人権や文化の違いについて考え、現代のグローバル化が進んでいる世の中で人類が共生していくにはどうすればいいかなどを生徒間で話し合い、個人の意見を共有しました。自分の持っている偏見を再確信することができ、今後気を付けていこうと思いました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	バンクーバーアイランド大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 : ESL (English as a second language)

授業科目名 : writing, speaking, reading, speaking

クラス構成 : 15 名、韓国・中国・日本・イラン・ロシア・タイ

一週間の授業時間割 : 月一金・ 8 : 30ー12 : 30

授業形式 : 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

コース名 : ESL (English as a second language)

授業科目名 : writing, speaking, reading, speaking

クラス構成 : 15 名、韓国・中国・日本・ブラジル

一週間の授業時間割 : 月一金・ 8 : 30ー12 : 30

授業形式 : 講義形式

III. 留学で得た学習成果

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ビクトリア大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Intensive English Program

クラスは日本人が 7 人、韓国人が 3 人、台湾人が 2 人、中国人が 1 人、ブラジル人が 1 人
1 日に授業が二つあり、それぞれ 2 時間、週に 5 日あった

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

英語をたくさん話す機会が日本の授業に比べて圧倒的に多いので英語を話すことの楽しさを学ぶことができた。スピーキング力も成長したと思うが、リスニング力が一番向上したと感じる。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ビクトリア大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 : ELPI

reading, writing, listening、選択科目 : idiom, discussion skills

選択科目はコースが始まってから授業中に案内と希望調査があります。

クラス構成 : 日本人、韓国人、中国人、メキシコ人。日本人の数が圧倒的に多い。

時間割 : 月曜日は選択科目 1 1 5 分 2 コマ、火曜日～金曜日は 1 2 0 分 2 コマ

授業は基本的にグループで問題を解いたり話し合ったり、ペアでの会話練習など。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

大学ではやらないような基本的な文法を改めて学習することができ、基礎を固めることができた。今まではあまり気にしていなかったけど **a** や **an** や **the** の冠詞の重要性を学ぶことができた。また、同意する際に使える **so do I**, **neither do I** はとても便利だしネイティブも使っているフレーズなのに日本の授業では一度も聞いたことがなかった。過去形や過去分詞系などもとても小さなミスでも先生は指摘して直してくれたので今までよりだいぶ身についたと思う。日常生活で使うことができる **Could you** や **Can I** のフレーズなどもどのような場面で使うのか何度も練習したので留学中もホストファミリーや買い物の時にたくさん使うことができた。**idiom** もはじめて聞くものばかりだったが興味を持って選んだ授業なので授業外で使ってみたりしていくつかは覚えることができた。

IV. その他気づいたこと

日本人が本当に多かったです。特に 9 月～12 月のコースはいつも日本人、韓国人が多いそうです。

留学種別	TESS II
留学先大学	フレーザーバレー大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

言語コース

リーディング、ライティング、スピーキング
自動で組まれる。

2 住人程度で国籍は様々。

月から木まで授業。

講義形式。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

リスニング能力の向上。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ESL の授業をとっていて、授業は **Reading&Writing**、**Listening&Speaking**、**Project** の 3 つに分かれていた。クラスによって授業の開始と終了時間が異なるが、私のクラスは、月・水曜日は 8 時～15 時（**R&W** 3 時間、**P** 1 時間、**L&S** 2 時間）、火・木曜日は 8 時～14 時（**L&S** 3 時間、**R&W** 2 時間）、金曜日は 8 時～11 時（**P** 3 時間）という時間割が組まれていた。クラスと時間割は、初日に行ったテストの結果をもとにポータルで発表された。クラスの構成もクラスによって全く異なるが、私のクラスには日本人が 17 人、中国人が 2 人、韓国人が 5 人いた。クラスは同じレベルの中での同じ学校同士で固められている印象があった。授業ではグループで話し合いながら進めることが多く、特に **Listening&Speaking** の授業ではディベートをすることが多かった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

授業ではディベートをすることが多かったため、前もって考えてきたことをただ話すというよりは、相手の意見を踏まえてその場で考えた自分の意見を相手に伝えるということが多かった。最初はディベートに難しさを感じていたが、授業の中で何回か練習していくうちに自分の意見を積極的に相手に伝えることができるようになっていった。また、グループプレゼンをすることも何回かあり、他の国からの留学生と一緒にプレゼンの準備をすることがあった。準備の段階で、自分の持っている英語力で自分の思っていることを相手が理解できるように説明することの難しさを改めて実感したが、どのように伝えたら相手が理解できるかを考えながら説明することができるようになった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・語学コース (Listening & Speaking, Reading & Writing, Project)
- ・最初にプレイスメンステストを受け、その結果によってレベル分けされて授業を受ける
- ・人数や国籍はクラスによって様々。自分のクラスは日本人が 12 人、韓国人が 6 人、中国人が 3 人、タイとベトナムと東アフリカのブルンディから各 1 人ずつの 24 人だった。9 月始まりのセメスターは日本人が多い。
- ・1 コマあたり 50 分の授業と 10 分間の休憩がセットになっている。1 週間で Listening & Speaking と Reading & Writing が 10 コマずつと、Project のクラスが 5 コマあった。授業開始時間と終了時間はクラスによって様々です。自分のクラスは 10 時か 11 時始まりの 17 時終わりでしたが、8 時始まりの 14 時終わりの人もいました。
- ・授業は会話重視のゼミ形式に近いと思います。Listening & Speaking では教科書での学習に加え、3 つの重要な課題(ナレーションやグループプレゼン)があった。Reading & Writing も同様に教科書以外に 3 つの重要な課題(3 種類の Essay) があった。テストは合計 3 回あり、Listening & Speaking と Reading & Writing の 2 つだけです。テストは多くが教科書に載っている vocabulary words や特定の文法事項についての問題が多かったです。Project の授業内容は主に英語を用いてグループプレゼンや 1000 字の essay などがあった。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・語学コース (COVID-19 の感染拡大により途中からオンラインに移行) ・授業内容は 1 期とほとんど同じです
- ・2 期目は Level5 を除いて前のセメスターのレベルをパスしたら自動的に上のレベルに進みます。
- ・最初は日本人 6 人と韓国人 6 人、中国人 4 人の 16 人だったが途中でプログラム終了時期が早い人が帰国して最終的に 11 人で受けた。1 月始まりのセメスターは韓国人が多かった。

III. 留学で得た学習成果

留学先では大学という教育機関に付属した ESL でも日本のような職員の手厚いサービスは自分から要求しない限り受けられませんでした。そのためホームステイの変更やクラスの変更など何か問題があったら自分で ESL のスタッフに解決するよう英語で説明することが何度もありました。そのおかげもあって話し相手がどんな人でも相手にわかりやすく説明する力は伸びたと感じています。語学面に関しては、留学前から期待していたペラペラレベルには程遠いですが相手の言っていることが理解しやすくなったり、自分の言いたいことが比較的伝えられるようになったと実感しています。

IV. その他気づいたこと

ホームステイ先の対応の差や変更が少し変だと思いました。1 軒目のステイ先でホストファザーが常にシンクを綺麗に保つよう毎回調理器具などを含む食器洗いなどをするよう言われたり、シャワーの時間やトイレトペーパーの使用量など少し神経質なところがありました。さらにファザーが用意してくれたランチ BOX とクラスメイトが持っているランチ BOX を比べると明らかに量や内容に差が出ていたり、1 人で夕食を食べることが多いことに違和感を感じ始めました。一緒に生活していくなかでストレスや息づらさを感じたのでホームステイコーディネ

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名: **ESLplus** (ESL の授業に加えて 1 つだけ学部授業が受講可能、レベル 5 の生徒のみ。)

授業科目: 英語 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法)、フランス語 (学部授業)

履修登録方法: 学期開始前のオリエンテーションで実力テストを受講しレベル別 (1~5)、そのレベル別内でさらに何クラスかに分けられます。その後クラスによって学校側から時間が知らされます。受ける科目はどのクラスも同じなので個人での履修登録は必要ありません。

クラス構成: クラスによって異なりますが、基本的には十数人です。私のクラスは 23 人と最多でした。国籍は韓国、中国、ベトナム、タイ、日本、ブルンディ (アフリカ) からの生徒がいました。中でも日本人と韓国人の生徒が多数でした。

授業時間割: 月) 10 時~13 時リスニング&スピーキング、13 時~14 時昼休み、14 時~16 時リーディング&ライティング、16 時~17 時文法 火) 11 時~13 時リスニング&スピーキング、13 時~14 時昼休み、14 時~17 時リーディング&ライティング 水) 10 時~13 時リスニング&スピーキング、13 時~14 時昼休み、14 時~16 時リーディング&ライティング、16 時~17 時文法 木) 11 時~13 時リスニング&スピーキング、13 時~14 時昼休み、14 時~17 時リーディング&ライティング、19 時~22 時フランス語 金) 11 時~14 時文法 *50 分ごとに 10 分間の休憩あり。

授業形式: 講義、プレゼンテーション、ディスカッション

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

二学期からは学部授業を受けました。語学コースから学部授業へいくためにはレベル 5 の学期末テストで合格する必要がありました。

コース名: **Exchange**

授業科目: フランス語、スペイン語、観光学

履修登録方法: 学生用のマイページ (外大でのポータルにあたる) から自分の希望する授業を選択し申請。

クラス構成: 人数は各授業によって全く異なります。レクチャーの場合は何百人単位、各授業から派生されているセミナーやチュートリアルでは 10 人程度。国籍は様々。

時間割: 月) 14 時~16 時観光学 (講義) 火) 17 時~19 時スペイン語 (講義)、21 時~22 時スペイン語 (チュートリアル) 水) 10 時~11 時観光学 (セミナー) 木) 19 時~22 時フランス語 (講義) 金) 休み

授業形式: 講義では教授の授業を聞いて板書やメモを取る。チュートリアルでは講義で学習したことの実践練習。セミナーではグループディスカッションやプレゼンテーション。

III. 留学で得た学習成果

今回の留学を終えて、語学はもちろんですが精神的に大きく成長できたと感じています。全体的に自分に自信が持てるようになりました。

1 学期では、英語を話す、英語で何かを伝えるということに今までは少し構えるところがありました。毎日の ESL の授業を通してそれらが当たり前になるようになりました。これまでは自分の感情を英語に乗せることが難しく歯がゆい思いをしてきましたが、授業でディスカッショ

ンやクラスメイトとの会話、プレゼンテーション等を繰り返し、感情のある話し方や物事のうまい伝える方法が身についたと思います。

2 学期の学部授業は正直結構大変でしたがその分本当に成長できました。1 学期では周りは皆英語を第二言語として勉強しているという同じ環境の中だったのである意味安心できる場所でしたが、学部授業になるとネイティブと同じ量の課題、同じ内容、同じ成果を求められます。初めは授業の中に入っていくことがとても怖かったです。特にディスカッションやプレゼンテーションをネイティブの前でするのはとても緊張しました。最初の頃は緊張して授業内での発言などはまったくできず座って話を聞いているだけの時間となってしまいましたが、繰り返し授業を受けていくうちにこのままではいけないと少しずつ授業内で自分から手を挙げて発言したり、何かわからない時があったらみんなの前で質問したりするようになっていきました。初めはネイティブの中で勉強していくという環境での孤独感から疎外感を勝手に感じてしまっていた私でしたが、自分から授業や友達の輪に入っていくことができるようになってからは、実際は他の生徒と私は特に大きな差はなく、考えていることや苦勞していることなど多くの共通点が見えてきて恐怖感や疎外感を感じなくなりました。自分から発言していくことによって周りがどんどん私に興味をもってくれたり理解しようとしてくれたりして自分から積極的にいくことが大事ってこういうことかと身に染みて感じました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称 IELP

授業科目名 Reading and Writing、Listening and Speaking Project

履修登録方法 特になし

クラス構成 クラス構成は 10 人から 15 人ぐらいのクラスで国籍は主に中国人、韓国人、日本人がメインだった。

1 週間の授業時間割 25 時間（授業科目名に含まれているすべての授業の合計時間数）

授業形式 講義形式だったがディスカッションが多かった

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

1 期と同様であったが途中からコロナの影響でオンライン授業に変更された

III. 留学で得た学習成果

学習成果としては留学前より英語を話すことに抵抗がなくなり自分の意見、考えを積極的に言えるようになったと思う。また単語、文法、リスニングの成長も感じられた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ブロック大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・プログラム名 Intensive English Language Program
- ・授業科目名 Listening&Speaking, Reading&Writing, Project
- ・クラス構成 24 人(日本人 17 人、韓国人 5 人、中国人 2 人)

時間割 (11:00～12:00 お昼休憩)

月 8:00～15:00(Listening&Speaking 2 時間 Reading&Writing 3 時間 Project 1 時間)

火 8:00～14:00(Listening&Speaking 3 時間 Reading&Writing 2 時間)

水 8:00～15:00(Listening&Speaking 2 時間 Reading&Writing 3 時間 Project 1 時間)

木 8:00～14:00(Listening&Speaking 3 時間 Reading&Writing 2 時間)

金 8:00～11:00(Project 3 時間)

- ・授業形式 グループ形式(グループディスカッション等)

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

日本での授業形式に比べて、学生一人ひとりが参加できる授業形式だったので、自分の意見を話す機会がより多くなり、積極的に話せるようになりました。そして、現地の人や、他の留学生と英語でコミュニケーションをとるうちに、文法学習などだけでは学ぶことの出来ない、**speaking** として重要な英語の会話フレーズなどを学ぶことができたと思います。授業中に、先生からの質問に対して、間違いを恐れることなく積極的に発言するように意識したことによって、自分に対して少し自信を持てるようになりました。また、友達との会話の場面でも、一言返して終わりではなく、自ら会話を増やしていくことが、より英語を伸ばすことに繋がったと思うし、充実したコミュニケーションをすることができたと思います。英語を上達させる上で、口で話すことを始めないと絶対成長には繋がらないと改めて感じました。そのため、今回学んだことを機に、積極的にたくさん英語を話すことを今後も続けていきたいと思っています。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	メディスンハット大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ EAP I 099
- ・ Grammar、Writing、Vocabulary、Reading、Conversation、Listening、Film Study
- ・ 履修登録はなく、あらかじめ授業が編成されている。
- ・ クラス約 20 人で、一つ下の 089 もそれに含まれている。日本人が約半数を占め、そのほかインドや韓国などから来た生徒がいる。
- ・ 月曜は 50 分授業を 5 コマ(Grammar、Vocabulary×2、Writing、Listening)で、火曜は 75 分のものを 4 コマ(Writing、Reading×2、Conversation)、水曜は午前 50 分のものを 3 コマ(Grammar、Vocabulary、Listening)と、Film Study を 110 分、木曜は午前午後それぞれ 75 分のものを一コマずつ(Writing、Conversation)、金曜は 50 分のものを 4 コマ Grammar、Reading、Vocabulary、Listening)、テストがある週は 5 コマ。
- ・ 授業はほぼ全て講義形式だった。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

この留学を通して、苦手としていた読解と文法が非常によく改善されたと感じた。Reading の授業では「Ender's Game」という小説を学期通して読んだ。話の内容や言い回しが非常に難しく感じたが、先生がこの小説に限らず話形式の本を読む上での重要な着眼点(protagonist と antagonist、plot など)を教えてくれたほか、理解を深めたクラスメイトからもじっくり教わったため、かなり読みやすくなった。事実、テストでは序盤から中盤にかけて芳しくない結果ではあったものの、ストーリーに対する理解を深めていくにつれ、段々と得点が上がっていった。文法は、特に留学開始以前では曖昧なままだった関係代名詞をほぼ完璧に仕上げることができた。関係代名詞を使った文においても動詞が名詞よりも先にくることが改善されたほか、それほど意識していなかった I wonder～の文を自信を持って使えるようになった。

この留学を通して面白いと感じたことは Writing の授業の In-class essay で、二週間かけて一つの議題(とある動物の殺害事件に関する判決)について考え、クラスメイトと議論してアイデアを交換し、テストのある週の最後の Writing の授業にて直接エッセイを書き込んで提出する、というものである。実用性はともかく、その場での工夫力やそれ以前の構成力が問われるエッセイだった。

IV. その他気づいたこと

Academic Purpose というからには堅い授業を想像して身構えていたが、実際はかなり落ち着いて受けることができるほど馴染みやすい環境が作られていて、集中して受けられたほか、授業が楽しいすら感じるようになった。

留学種別	TⅢ（2 か国目）
留学先大学	モントリオール大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

FRS1400-B Theorie

インターネット上でレベル別テストの結果を踏まえて選択

約 20 人（日本、韓国、コロンビア、フィリピン、中国、メキシコ、アメリカ、オーストラリア）

平日 9:00~12:00

講義形式

Theatre in Montreal

学科室に直接行き履修したい授業名を伝える

約 30 人（日本、中国、韓国、カナダ、アメリカ）

毎週木曜日 16:00~19:00

講義形式 約 2 週間に 1 回演劇を観に行く

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

フランス語の授業は基本的に講義形式でしたが、自分の意見を求められることも多かったので、自分の意見を考え、それをどう伝えるのかを常に考えていたので、毎回集中ソテ授業に挑むことができました。また、最初の学期は自分の表現力の乏しさに悩み、なかなか発言ができずにいましたが、現地で友人ができたり、話す時間を増やしたことにより、徐々に自分のフランス語に自信がついてきました。その結果、留学当初よりは発言する回数が増えたと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	モントリオール大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称：BLOC1→FRS1300、BLOC2→FRS1401（フランス語）

授業科目名：Langue, communication et culture, intensif

履修登録方法：クラス分けテスト後に自分の語学レベルにあった授業の名前と授業を登録するサイトの URL が添付してあるメールが送られてきます。そのサイトに自分を取りたい授業の名前を入力しました。

クラス構成：約 20 人。中東系の移民の方が多い。主に主婦。

一週間の授業時間割：月曜から金曜の 9 時から 12 時まで。週に 2 日、12 時半から 15 時まで。

授業形式：先生から配布されるテキストに従って問題を解いていきます。分からないところがあったらいつでも質問できます。

コース名称：ANG1380（英語）

授業科目名：Theatre in Montreal

履修登録方法：担当の先生に直接頼みに行きました。

クラス構成：約 20 人弱。日本、中国、韓国、カナダ。

一週間の授業時間割：木曜日の 16 時から 19 時。

授業形式：全 8 回演劇を見に行きました。演劇を見に行く前の週の授業で先生が見に行く演劇のストーリーを説明してくれます。見に行った次の週の授業で演劇内容をディスカッションするというものでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

到着した最初に比べるとリスニング力はかなりつきましたが、まだまだ自分の伝えたいことを伝えることができません。あと 1 年フランス留学する機会があるので頑張りたいと思います。また、語学力だけでなく留学を通して、人間的にも成長することができました。初めての海外での長期滞在、しかも 1 人で全く知らない土地に行き、友達も 1 から作り、初めての文化に触れるという日本にいたままではできない経験がたくさんできました。また、モントリオールの人々は日本人以上にやさしく、メトロやバスでお年寄りや小さい子供がいたらためらわずにすぐに自分の席を譲ったり、スーツケースを運ぶのを手伝ってくれたり、人のやさしさに触れることが出ました。この経験から私も思いやりの気持ちをもって人に接しようとおもいました。

IV. その他気づいたこと

モントリオールには日本に興味を持ってくれている人がたくさんいました。その人たちに日本のことを紹介するためにもまずは自分が日本の文化や習慣などの正しい知識をもつ必要があるなと思いました。

留学種別	認定
留学先大学	ランガラカレッジ
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

LEAP program (ESL)

クラス構成 14～16 人 日本、中国、タイ、韓国、イラン、ロシア、
毎日 2 時間×2 コマ
ゼミ形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

自己管理能力が身につく、また、自分から積極的に行動できるようになったと感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	レスブリッジ大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ EAP
- ・ Reading/Writing と Communication
- ・ 一斉にコンピュータ室で登録
- ・ 13 人（日本人 9 人、ウクライナ、エクアドル、韓国、台湾 1 人ずつ）
- ・ 月 なし 火・木 8-13:50 水・金 8-11:50
- ・ Reading/Writing のクラスでは Summary&Response や Cause&Effect Essay、Reading Facilitation をしました。Communication のクラスでは Group Discussion や生徒が主導する Student Lead Discussion に加えて、プレゼンテーションが主な内容です。Reading/Writing のクラスでは授業中は教科書を使用しませんでした。Communication のクラスでは TED talk の教科書使っていました。授業形式はペアやグループでディスカッションしたり、発表やプレゼンテーションも多く、日本に比べて参加型で生徒主導で進められていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

留学前に比べて、自信がついたと感じています。どちらのクラスも、ディスカッションやプレゼンテーションなど人前で話す機会が多く、日本にいた時よりも積極的になれたと思います。クラスが生徒主導で参加型だったので、クラスメイトから多くの刺激を受け、自然と英語に対してだけでなく自分自身についても自信をもてるようになったと思います。また、ホストファミリー、現地の学生と英語で会話する中で、以前よりも外国人とコミュニケーションをとることに躊躇わなくなったと思います。日本に比べて、人との距離が近いこともあり、知らない人と話すことも容易になったと感じています。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	レスブリッジ大学
留学先国・地域名	カナダ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

EAP(English Academic Purposes)の授業を受け、英語を中心に勉強していました。ここでは **Reading&Writing** と **Speaking&Listening** の 2 つに分けて授業を行っていました。

クラス構成としては 20 人中 19 人が日本人、残りの 1 人はインド人と多国籍ではありませんでした。

時間割としては、週に 2 日は 12 時から 18 時前まで、残りの 2 日は 13 時から 17 時までと少し短めでした。

Reading の授業はディスカッションやその場で先生が出した問題を自分で解くといった形式で、**Speaking** のクラスではプレゼンテーションを主に行っていました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

語学コースから学部授業への切れ替わりで、事前に **IELTS** のスコアの獲得が必要でした。

心理学、宗教、**Critical Thinking** の 3 つの授業を取っていて、登録方法は自分のパソコンから大学の **moodle** にいって行うといったものでした。

クラス構成としては 3 つの授業とも大人数で訳 200 人ほどいました。

時間割は心理学は週に 2 回の 75 分授業、宗教と **Critical Thinking** は週に 3 回の 50 分授業でした。

講義形式が主で、**Assignment** の提出もありました。

III. 留学で得た学習成果

1 期の授業では **Writing** の能力がとても身に付いたと実感しました。**Writing** のテーマがイスラム教や社会事情についてだったり今まで書いたことのないようなもので初めはとてもハードに感じましたが、現地の友達や先生の力も借りて自分でも納得のいくエッセイを書くことができたのではないかと思います。

2 期の授業では自分の思っている以上に学部授業は難しく、毎日図書館に通い詰めでした。復習ももちろん大切ですが、予習をしていかに授業前に自分で各講義の内容について把握し理解しているかがかぎとなることを実感しました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ニュルティンゲン＝ゲイスリンゲン大学
留学先国・地域名	ドイツ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

中間報告書記載済みです。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 期目始業前の帰国となったため、作成いたしません。

III. 留学で得た学習成果

私の本来の計画では、1 期目に英語を学ぶ科目を中心に履修し、2 期目に学部科目を中心に考えていたが、早期帰国となってしまったため、現地の学部授業をあまり多く履修することができなかった。しかし、たった半年間の留学でも学んだことは多くあったし、自分自身変わることができたと感じている。その中でも特に成果が出ていると感じたことを書く。

留学目的だった、「日本語ではない言語で、日本人ではない先生から学びたい」というものは大変興味深い経験となった。アメリカの文化や歴史についてアメリカ人の先生から学ぶ授業があり、高校生の世界史で学んだ内容を先生から詳しく、また先生の意見と一緒に学ぶことができた。特にアメリカの選挙・連邦制度のパートでは、それらの仕組みだけでなく現状についても教えていただき、日本ではあまり報じられないアメリカ人の生の意見を聞くことができた。

また、前述と同じアメリカ人の先生の授業で、たまたま英文法仮定法の時その先生が例文で、「もし日本が真珠湾攻撃をしなかったら、太平洋戦争は起きなかったのに。」というものを作った。私はこれを聞いてすぐに「それについては本当に申し訳に思ってる。」と言うと先生は、「まだあなたは生まれてもなかったでしょ。あなたの責任ではないよ。」と言った。日本の授業では第二次世界大戦について負・ネガティブなイメージで教えられ、私も海外にいる友達と話していてこの話題になると勝手に肩身が狭くなっていた。これは日本人は皆、第二次世界大戦で日本人が行ったことに対して恥の意識を持っているからだと考える。なので、戦争について話すときは自然とまじめな雰囲気になるし、ましてやジョークにしようとはあまり思わないだろう。しかし、アメリカ出身の先生や、ドイツ人学生と話していても、ジョークで戦争の話題を振られることが多くあった。国によって過去に起きた戦争との向き合い方が違うということを知り、興味深かったのと共にさらに詳しく学んでみたいと思っている。

IV. その他気づいたこと

他の外大の協定校と比べたことがないので、何とも言えないが、**NGU** ではビジネスを学びたい学生にとってはとても良い大学だと感じた。留学生向けの開講科目も多く、他国からの留学生も多い。**International Office** からのサポートもしっかりしており、大学生活で不自由なことがなかった。

私は元々はビジネス専攻の学生ではないが、ドイツ国内の子の大学を選んで良かったと心から思っている。

留学種別	TESS II
留学先大学	マールブルク大学
留学先国・地域名	ドイツ
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ドイツ語の会話の授業、文法の授業
 十数名
 週 5 日 9 時から 1 時まで
 英語開講科目 3 つの文学科目履修
 講義式ー 70 名ほど
 セミナー式ー 10 名ほど
 全ての授業が 1 授業 90 分
 各科目でチューター制度があり 90 分のチューターとの授業あり。
 授業の補足。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

ドイツ語の会話の授業、文法の授業
 十数名
 週 5 日 9 時から 1 時まで
 (COVID-19 のため英語開講科目の受講前に帰国。)

III. 留学で得た学習成果

ドイツ語が聞き取れるようになり、そして少し話せるようにもなった。
 英語で授業も受けれたので英語のスピーキング力の向上、そしてエッセイを書かなければいけなかったためライティング力の向上にもつながった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	マールブルク大学
留学先国・地域名	ドイツ
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

IUSP という留学プログラムで、大学の学部授業が始まるまでの約 1 ヶ月間は同じプログラムの学生とドイツ語の授業と文化の授業を受けた。ドイツ語の授業は平日の 9 時から 12 時 30 分まで。私のクラスは 8 人で私以外全員アメリカ人だった。9 月中旬から午後 2 時から 4 時にドイツの文化の授業が始まった。同じプログラムの生徒 46 人全員で受講した。街のガイドツアーや教会へ行くなど課外授業が多かった。10 月の初めに 3 泊 4 日のベルリントリップがあった。10 月の中旬から学部授業が始まった。履修登録は 8 月のオリエンテーションで用紙を提出して 10 月の初めに時間割が確定した。月曜日の 10 時から 12 時に **Gender and Migration** というゼミ形式の授業を受けた。約 20 人のクラスでヨーロッパや中東、アジアなど学生の国籍はさまざまだった。12 時 30 分から **Introduction to the economies of the Middle East** の tutorial があった。火曜は 9 時から 12 時に **Gender and Migration** の tutorial。12 時から 14 時にドイツ語の会話の授業。14 時から 16 時に講義形式で **Introduction to the economies of the Middle East** を受講した。クラスは約 80 人で学生の国籍もさまざまだった。水曜日は 14 時から 16 時でドイツ語の会話の授業を受けた。クラスは 9 月に受けたドイツ語の授業と同じだった。11 月 8、9、15、16 日に **Women in Prison** というゼミ形式の授業を受けた。約 30 人のクラスだった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

授業でドイツ語を学び、日本ではあまり鍛えることができなかったスピーキングやリスニングの力を向上させることができた。同じ留学プログラムの学生のほとんどがアメリカ人であったため、会話は英語が中心で語学力の向上ができた。ゼミ形式の授業では活発な討論に参加できて刺激になった。レポート課題も多く、学術的で苦労したが、形式や構成の仕方を学んだ。中東の経済の授業では、データを収集し、エクセルでグラフなど資料を作成した。レポートの論点の根拠となる資料のため、見やすい資料になるように工夫した。

IV. その他気づいたこと

学部授業で扱う内容は専門的なことも多いため、日本で受けた授業と関連する授業を受ける方がいいと思った。日本で学んだ知識を活かしながら授業を受けることができた。文化の授業や学部授業ではレポート課題が多いため、形式などを日本にいるうちから学べるといいと思った。

留学種別	TESS II
留学先大学	マッセイ大学
留学先国・地域名	ニュージーランド
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

DEEP と呼ばれる語学コースに通いました。主に学部授業を受講する際に必要になる技能の習得を目指し、プレゼンテーションの手順、エッセイの書き方、講義中のノートの取り方などを学びました。履修科目は既に決まっており、オリエンテーション時にオンラインで一斉に行いました。私のクラスは 16/17 人が中国国籍でした。毎日 2 時間の講義を 2 科目受講しました。基本的にゼミ形式の話し合い、ペアワークを取り入れた授業で質問等もしやすい環境でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

学部コースへの変更時、語学コース卒業のための単位がとることができた場合、特段別のテストが課されることはありませんでした。私は 4 つの科目を受講しました。（Creative Writing: ポエムや短編小説を読んだり書いたりします・NZ history: 歴史について学びます・Academic writing: 非ネイティブ向けにエッセイの書き方等を教授する授業です・Introduction to English studies: ポエムや短編小説の読解に取り組む授業です）履修登録はオンラインで行いました。Academic Writing を除く 3 つの講義は 30 人強、ワークショップやチュートリアルは 15 人程度で開講されます。Academic writing は講義、ワークショップともに 10 人程度でした。ただ 5 週目からオンラインに移行したため講義はすべて録画されたビデオを見る形になりました。講義は各 2 時間、ワークショップはゼミ形式で 1 時間で開講されます。多い日で 3 科目、少ない日で 1 科目受けました。

III. 留学で得た学習成果

特にリスニングとスピーキングは鍛えられたと成長を感じます。学部コースに入ってからネイティブ向けのスピード感にはまだ慣れませんが、確実に聞ける量は増えたように感じます。語学コースでの学びは外大での基礎科目類を復習、強化するようなもので、学部コースで最低限必要なスキルが培われたと感じています。留學生活全体を通して日本人の学生との授業関連の交流がほぼなかったので質問をするにも英語でないといけないという状況で大変なこともあったけれど自分の考えをアウトプットする力が鍛えられたと思います。

IV. その他気づいたこと

授業開始時はコースが何をするものなのかすら把握しきれず焦りましたが、先生方のサポートもあり今は分からないところが有りながらもついて行けます。分からないことを早めに伝え、協力をお願いすることが大切だと感じました。

留学種別	TESS II
留学先大学	マッセイ大学
留学先国・地域名	ニュージーランド
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- Certificate in Intensive English course/Intensive English Language Studies program
- Intermediate Reading and Writing, Listening and Speaking (前半 8 週間) and Skills and Strategies for Intermediate Reading and Writing, Listening and Speaking (後半 8 週間) このコースは 8 週間の区切りだった。8 週間目にテストがあった。
- 留学前にオンラインテストを受け、その結果からレベル分けされた。留学中に、タイミングと意思が合えば、上のレベルに行くことも可能。1 期の語学コースの履修登録に関しては留学前に登録した **offer of place** があるので、指示に従えば難しいことはなかった。
- 英語の実力によって 4 つのレベルに分けられていたが、下 2 つと上 2 つでまとまり同じ授業を受けていた。そのため教室は 2 つだった。時期によってクラスメートの人数は大きく違い、多いときは 20 人以上、少ないときは 6 人以下だった。中国・韓国・タイ・ベトナム・日本からの留学生がいた。割合的には圧倒的に中国からの留学生が多かった。
- 毎日同じ時間割だった。

9:00-10:40

11:00-12:50 only Wednesday 11:00-12:00

1:30-2:30 必須ではなく自由参加 履修登録も不必要 IELTS の対策など

水曜日以外は毎日 水曜日だけは正午に終わる

- ゼミ形式に近かったように思う。人数も多くはなかったため、先生方もコミュニケーションを大事にしているようだった。分からないことがあれば、その場で気軽に質問ができるような環境ではあった。前半後半の 8 週間で、授業科目の名前は変わったが内容も先生も変わったことはなかった。先生たちは基本固定であったが、違う先生がくることもあった。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- 2 期の学部に登録するには IELTS が Overall で 6、各々のセクションで 5.5 取る必要があった。前期の英語コースでは先生方が IELTS 対策をしてくれた。IELTS の採点をしていた先生方から直接テストのコツを学べた。

- Certificate of Proficiency (student exchange) COP

- Creative Writing1/ Introduction to Language Studies/ Academic Writing in English for speakers of other languages

- NUFS とは違い、それぞれのパソコンから履修登録ができた。期間内であれば変更も可能。シラバスも大学のホームページから確認ができた。

履修登録とは別に、今期の **offer of place** を再度、**accept** する必要がありましたが、COP プログラムの説明と共に現地の方のサポートがあった。(日本人の方)

- 科目によって異なるが、多いものは 40 名程度、少ないクラスは 3 人。

少なかったクラスは、開講場所がパーマストノースではなくオークランドであったため、スクリーンに映されるライブ動画を受講していた。オークランドには多くの生徒がいましたが、パーマストノースには 3 人だけだった。マイクで繋がっていたため、こちらから直接質問することも可能だった。1 つの授業は、英語を母国語としない人向けの授業であったため、国籍は多かったように思うが、院生や長いこと英語圏の国に長年住んでいる人も多かった。

- 月曜 4 : 00-5:00 lecture (creative writing)

水曜 2:00-4:00 lecture (academic writing)

木曜 8:00-10:00 lecture (intro to language)

11:00-1:00 workshop (creative writing)

2:00-3:00 tutorial (academic writing)

金曜 12:00-1:00 tutorial (intro to language)

- ・講義形式と補習がセットで週 3 時間が各々の授業で必須。

Lecture は講義形式で、**Tutorial** では練習問題の話し合いや、テストの課題について予行練習をした。**Workshop** では個人で作った **poem** の評価などをした。**Lecture** の場合でも、質疑応答も多かった。意見を求められる場面も多かった。

III. 留学で得た学習成果

前期の英語コースにいる間は、英語が母国語ではない留学生の友人を沢山作ることができた。よって語学だけではなく、文化や価値観の違いを楽しく見つけることができた。キャンパス内も多くの国籍者が多く、ニュージーランドで学ぶ 1 つの利点であるように思う。

留学前に 2019 年 3 月の IELTS よりは全てのセクションで点数は上がった。英語を話すことに関しての抵抗が減ったように思う。意思疎通をするには英語しかないと、文法などを気にする前に、伝えようとする意志が大切だと改めて感じた。英語が母国語でない人達との会話は、互いに流暢ではなく、難しい場面もあったが意思疎通が取れた場合は楽しかった。

IV. その他気づいたこと

なんとか楽しく生きていける。

留学種別	TESS II
留学先大学	アンジェ西部カトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

全員必修科目として **Langue** の授業があり、その他自分で選択できる授業として、**Compréhension orale, France au quotidien, Phonétique** を受講していました。

Langue, Compréhension orale, Phonétique の授業は比較的少人数の約 20 人で演習がメインの授業で、**France au quotidien** は大人数で講義形式でした。

国籍は私のクラスは中国人や、ベトナム人が多かったですが、大人数で受ける授業では、アメリカ人やロシア人などアジア圏以外の学生もたくさんいました。履修登録方法は、1 週間授業を試せる期間があり、その後 **Langue** の時間に先生から履修登録用の紙が配布されるのでそれを提出して完了です。

時間割は受講する授業によりますが、私の場合は、水、木、金曜は午前中までで終わりでした。（金曜は全員午前まで）

1 限目は 8 時から始まります。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

全員必修科目として **Langue** の授業があり、その他自分で選択できる授業として、**Compréhension orale, français du tourisme, traduction anglais, expression orale** を受講していました。

Langue, Compréhension orale, traduction anglais 約 20 人の演習がメインの授業、**français du tourisme** は約 30～40 人の講義形式の授業、**expression orale** は 10 人でペンをほとんど使わない会話中心の授業でした。

国籍は中国人、ベトナム人、韓国人、アメリカ人が多かったです。

履修登録は 1 期と同じ方法です。

時間割は私の場合、水曜と金曜が午前までで月曜、火曜、木曜は午前から午後までありました。

III. 留学で得た学習成果

今まで知識としてフランス語を学び蓄えたものをフランス語を今回の留学でより実践的に使えるようになったと思います。

また、フランス人が普段口癖のように使う言葉や、口頭でしか使わない表現もたくさん学ぶことができました。

留学生活をする上では、日本にいる時よりも人に頼ることができないので、度胸もついたように思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	エクスマルセイユ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称；名外大の留学生は、ALLSH という文系学部の授業ならなんでも授業を取ることができる。

授業科目名；traduction Japonais-français / langue française / islamologie, texte fondateur / civilisation Arabo-musulmans

履修登録方法；GIGUE というサイトで授業参加を申し込み、授業が始まってから一か月以内に正式に履修登録をする。なのでその期間中は、授業を実際に受けて、授業を取りやめたり増やしたりすることができる。

クラス構造；授業によって人数は異なる。学部授業のためクラスの国籍は9割フランス人一週間の授業時間割；10時間/週

授業形式；講義形式。日本の大学の授業とは違って、教授が話すだけで生徒はそれをメモするという授業が多い印象である。黒板やホワイトボードに詳しく書いたり、プリントを配られたりなどはされなかった。授業中、聞き取るのに精いっぱいで大変難しい

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

コース名称；同上

授業科目名；langue française / Anglais / islamologie, pensée musulmane classique / l'islam politique / langue du monde / traduction japonais-français

履修登録方法；同上

クラス構成；同上

一週間の授業時間割；15時間/週

授業形式；英語のクラスでは授業中はすべて英語で行われている。その他同上。

III. 留学で得た学習成果

私が受講しているほとんどのクラスではプレゼンテーションが必須だったため、フランス語でのプレゼンテーション力向上、分析力、読解力の向上、また、自分の考えを人に伝える力も身についた。フランス人と授業を受けていて、勉学への姿勢が成長した。

IV. その他気づいたこと

フランスでの授業時間数を NUFS の授業へ単位交換するための授業時間数が書かれている資料がないため、それを手に入れるのに苦戦している。

留学種別	TESS II
留学先大学	グルノーブルアルプ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私はグルノーブルアルプ大学に留学していました。留学先大学では学部開講科目を履修することになっており、主に言語学についての授業を履修しました。授業の内容は専門的な内容のため、大変難しい授業でした。また、学部開講なので、現地の学生と授業を受ける必要があり、周りの理解力の高さに驚く場面が多く、刺激的な授業でした。

私は5つの授業を履修しました。統語論の授業では、教員が作成した教材を使用しました。講義形式の授業でしたが、発言する機会が多く、予習、復習をしていかなければついていくのが大変だったと思います。主にフランス語の文章にある各品詞を分析し、それらの文の中での役割（どの部分を修飾しているか、イディオムの成り立ちなど）を明確にしていくなど、文法に焦点を当てた授業でした。わからないところがあると、同じ授業を履修している現地の学生や教員に質問するなどの積極性が必要でした。質問があれば、快く教えていただけるので、発言力が非常に重要だと思いました。

他にも地域言語学（フランスにある方言についての授業）や言語学概論（音声や言語の伝達法など幅広い内容）を履修しました。これらの授業は教員との距離が遠く、教員がひたすら開設をしていく形式であったので、すべて理解することが大変難しく録音することも許可されていなかったもので、復習を十分にすることができませんでした。この大学に留学するには **B2** レベルのフランス力が必要だと感じました。

また、留学生向けの授業を2つ履修しました。

1 つ目は、**Initiation aux méthodes d'analyse littéraire**（文学解析法入門）という授業で、フランスの文学作品を取り上げ、その中で使用されている表現方法や著者の読者に対して求めている解釈について学習しました。留学生向けの授業でしたが、非常に難解な文が多く、この授業で読解力が向上したと思います。

2 つ目に、**Textes et Images**（文章と絵）という授業で、主にフランスの漫画のコマやせりふ、宗教画に付随している解説文を理解する授業でした。こちらはほかの授業と比べて易しい内容だったので、気楽に授業を受けることができました。

そして、この大学では履修登録の前に1週間のフランス語の集中授業が留学生にはあるのでそれも履修しました。出願手続きを済ませた後に、ウェブテストがあり、その結果に応じてクラス分けされました。私は **B1** のクラスに振り分けられましたが、すでに名古屋外国語大学の授業で習ったことを学習していたので、良い復習になりました。こちらは、様々な国籍の人と同じ授業を受けるので、のびのびとした雰囲気でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

この留学で私は様々な気づきを得ることができました。学習面では、日本では教員と距離を置き、わからない部分を放置してしまうなど、消極的な行動をしてしまっていたのですが、言語が違う国で学んでいることを自覚することで、危機感を持ちながら学習することができたのでより積極的に勉学に励むことができました。

また、文化の違いによる困難を乗り越えたことで、帰国してから日本のありがたみに深く感謝することができました。フランス人の友人もでき、遊びや会話を通して価値観の違いや、日本人とはまた違うユーモアを持つ人々と接することができたのは、この留学のおかげです。これらの

ことはなかなか日本でフランス語を勉強するだけでは得られないものではないかと思います。

そして学部留学の難しい点として、フランス語力そのものを上げる環境はなく、あくまでも専門分野を勉強しに来ているので、フランス語力の伸びを実感することは残念ながらあまりありませんでした。この留学先は、フランス語力に関しては日本で十分に学習したという方向けであると思うので、中途半端な気持ちで臨むことはあまりお勧めできません。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ジャンムランリヨン第3大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019年度2期 から 1年

学習成果報告書

I. 1学期目の学習状況

授業は留学生必須の **FLE** と **Culture francaise**,そして日本語学科の **Version** と **Theme**、**approfondissement langue litteratures et cultures**, **histoire culture moderne**, **litterature moderne**, **Methodologie et competence en langue** などを取りました。**FLE** では今までやった事があるものばかりでしたが、接続語や関係代名詞、直接・間接目的語などをやりました。宿題も多いので帰宅後すぐ行いました。**culture francaise** ではパワポを先生が説明しますが、何言ってるか1学期の間はわかりませんでした。パワポを訳して覚えておけばテストは選択なので大丈夫です。日本語学科の科目は他n留学生の人がやさしいので、心配しなくて大丈夫です。1学期は自分の想像よりもできることが少なく、ストレスも感じますが、友達に助けてもらいながらもなんとか乗り越えられました。授業は **TD** と **CM** があり、**TD** の授業は20人ほどで、**CM** は30人から40人、とる科目によって50人のクラスもありました。英語の授業も受けましたが、よほど英語が堪能かフランス語ができる人でないとさっぱりわかりませんでした。

II. 2学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

授業は留学生必須の **FLE** と **Culture francaise**,そして日本語学科の **Version** と2年生と3年生の **Theme**、**approfondissement langue litteratures et cultures**, **histoire culture moderne**, **litterature moderne**, **Methodologie et competence en langue** などを取りました。1学期とほとんど変わらなかったです。授業は早いもの勝ちなので早めにとったほうがいいです。2学期も1学期の復習のような感じでしたが、エラスムス生徒がいきなり減り、アジア圏の生徒ばかりでした。日本語学科も授業では特に **Version** の授業が特徴的で、生徒にアンケートを取り、ライトノベルの仏訳をしました。とても難しかったです。語彙力がとても伸びました。

III. 留学で得た学習成果

留学を通して、まずはっきりと物事を主張しないと生きていけなかったんで、いまでははっきり言えるようになりました。また、1学期には全然聞き散れなかった単語やフレーズがしっかり聞こえるようになったので良かったです。3か月たったあたりから留学に向いてなかったと感じ、フランス語を見に付けられずに帰る恐怖と戦っていましたが、心配なかったです。留学の終わりのころには心配症の自分にも気持ちや言語についても自信が出てきました、留学の目標の言語の上達以上に精神的な向上が望めたと思います。

IV. その他気づいたこと

宗教観についても変わりました。友達に無宗教の人がほとんどで、日本では神道と仏教が混ざり合い、本人たちもどれがなんの宗教かわからないことも多いですが、フランスも日本と近いところがあって驚きました。キリスト教やイスラム教などが混ざり合い、大変な面、宗教と政治についても日本では興味もなかったことを異国の地で考えさせられました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ジャンムランリヨン第3大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019年度2期 から 1年

学習成果報告書

I. 1学期目の学習状況

- ・必修科目...**FLE**(レベル別、外国人向け)
フランスの文化(講義形式)
- ・選択科目...日本語文法(3年生、講義形式)
日本社会と言語(2年生、講義形式)
日本文学(2年生、講義形式)
日本文学(3年生、講義形式)

履修登録は期間内に自分のパソコンやスマホから登録しました。

必修の2科目以外は全て自分で選択できます。

FLE は外国人向けのフランス語文法の授業で、この授業のクラスは、最初の方にあるガイダンスの際にテストを受け、その結果でクラス分けされます。クラスには日本人だけでなくいろんな国からの留学生がおり、学期に1度プレゼンをします。

II. 2学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

- ・必修科目...**FLE**
フランスの文化
- ・選択科目...日本語文法(3年生、講義形式)
日本社会と言語(2年生、講義形式)
翻訳(2年生、日仏、仏日)
翻訳(3年生、日仏、仏日)

必修は一学期目と同じです。

翻訳はそれぞれ **thème** と **version** にわかれており、**thème** が仏日、**version** が日仏となっています。2年生と3年生どちらも受講しましたが、3年生になると扱うテキストのテーマも難しくなっていました。

III. 留学で得た学習成果

授業が全てフランス語の授業もあるので、聞く力がかなり伸びたと実感しています。

初めは授業の半分も理解できませんでしたが、回数が進むにつれ聞き取れるようになっていきました。

また、**FLE** でのプレゼンは細かいルールがあり準備や暗記に苦労しました。ですがその分話す練習になりました。

日本語学科の学生は日本の文化や歴史に興味を持っている人が多く、日本語のレベルも高い刺激になりました。それだけでなく、困ったときに助けてくれたり、普段一緒に過ごすことができ文化理解になりました。

リヨン第3の授業のレベルは私にとっては高いと感じましたが、その分力がついたと思います。

IV. その他気づいたこと

履修登録は、後から削除できるので早めにするをお勧めします。一学期目の科目を慎重に考えていたところ、取りたい授業がほとんど満員でした。

留学種別	認定
留学先大学	ストラスブール大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称 IIEF

授業科目名 : Langue Française

履修登録方法 : レベル別クラスによってあらかじめ規定の時間割

クラス構成 : a1 a2 b1 b2 c1 c2 レベルに応じたクラス、その中でさらに 3 つほどのクラスに分かれる

国籍 : 韓国、ベトナム、マレーシア、台湾、トルコ、シリア、イラン ガーナ、イギリス、アメリカ、ロシア、ジョージア、メキシコ、ブラジルなど。

月曜日 3 時間

火曜日 3 時間

水曜日 4 時間

木曜日 5 時間

金曜日 2 時間

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 期目は成績不振ではない限り、一つ上のクラスになる

2 期から選択授業が週に 2 日、少人数制の会話のクラスが週に 1 回

授業科目名 : Langue Française、la gastronomie、literature thématique、société française sociale、société française actualités

クラス構成 : 韓国、中国、イラン、シリア、チリ、ジョージア、スーダンなど。

火曜日 2 時間

水曜日 6 時間

木曜日 5 時間

金曜日 2 時間

授業形式 : 講義式

III. 留学で得た学習成果

この語学学校に入ってよかったと思うことは、比較的少人数のクラスだったため授業に置いていかれるということではなかった。クラスメイトは発言力が高く、静かな授業ではなくコミュニケーションのあるクラスだった。会話重視の授業が多く、フランスで生活する中で使う機会が多くあった。実践できるため身につきやすかった。成長したと思う点は、コミュニケーションを取る時に聞きながら一言加えたり会話らしい会話ができるようになった

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	トゥールーズカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

留学生用フランス語コースを履修していた。月曜から金曜の午前に授業があったが、一限、二限と授業が分けられているわけではなかった。レベル別のクラスで担当の先生が毎日今日はなにをするのか決定していて、朝から昼までの授業はずっと同じ教室、同じ先生と行っていた。大学のシステムで、何月でも月初めには入学できるので、一か月ごとに新入生がきたり、帰国する人がいた。なのでクラスの構成はその月によって異なったが、私を含めた長期間在籍するメンバーは一学期の間はクラスは変わることなく、一か月ごとにクラス単位でレベルを上げていくというものだった。授業は少人数制でゼミ形式に近かった。先生が一方的に話す、説明する、といった授業はほとんど記憶にはなく、発言することをもっとも求められていたと思う。クラスは多国籍だったが、アジア圏が多かった。その他、ヨーロッパ、南米等、様々な国から多くの学生が通っていた。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

一月から二学期が始まり、授業形態や授業時間、時間割り等は一学期と同じであったが、例によってクラス構成は毎月変わっていった。三月半ばからウイルスにより大学に行けなくなったので、三月中は担当の先生より毎日メールで課題が送られていたのでそれをこなしていた。四月に入ると、大学は授業をオンラインでも開講しないと決定したため、課題もなくなった。

III. 留学で得た学習成果

授業の中で、自分から発言していくことがとても重要視されていたので、とにかく間違っても発言することを最優先にした結果、会話のスキルがとても伸びたと感じる。クラスメートとも授業中はもちろん、授業外でもフランス語で会話していたので、日常で使うフランス語が身についたと思う。

また、フランスに行ってから知った単語をすべて小さなノートに書き、自分だけの単語帳を作ったことで、語彙力も伸ばすことができたと感じる。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	トゥールーズジャンジョレス大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ジャンジョレス大学の外国人コースで DEFLE というコースに所属していました。

授業は、**grammaire, phonétique, expression écrite et orale, civilisation, FOS(フランスビジネス), Compréhension orale et écrite**, を受講していました。文法は、一週間に 3 回、他の科目は週に一回です。2 期にも基本的に受講する授業が変わりません。

授業形式は、基本的に先生が解説をし答えたり、練習問題や長文読解を行いました。授業中のディスカッションもかなり多かったです。口頭の授業では、自分の考えを論理的に述べたりと PUT の授業のようでした。

えてもらいました。自ら、受ける科目を選び、担当の先生にチェックをしてもらい受講します。自分のレベルによって、受けることのできる授業が変わります。外国人コースの授業に加えて、レベルが満たされていれば、正規の学生の授業を受けることも可能です。その場合、担当の先生と相談で受けることができます。英語の授業や日本語学科の授業も受講可能です。

クラス構成は、基本的に三つのクラスに振り分けられ約 40～50 人程度です。文法や **expression écrite et orale** はこのグループで受講します。また、三つのクラスから、各 20 人程度の二つのグループに別れます。上記以外の授業はこの少人数です。

国籍は様々で、台湾や中国、ベトナム、マレーシア、ロシア、シリア、エジプト、イギリス、イタリア、コロンビア、アメリカ、エルサルバドル、など様々でした。アラビア語圏やスペイン語圏の生徒が多かったです。

履修の登録方法は、入学時に構内のパソコンで **ELAO** というテストを受け、レベル分けをされます。その後、説明会等をオリエンテーション期間中に受け履修の登録方法を教えてもらいました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

住居の手続きや銀行開設、**CAF** の申請等全て自分で行ったので生活する上で必要最低限のフランス語を身に付けることが出来た。また、住んでいた場所がアパートの間借りだったので家の住人とのコミュにーケーションを取ることで、自ら積極的にフランス語学習を自然に行うことができた。

フランス語の上達を感じることができたし、また、今回の留学によって自分の価値観や考え方を大きく変えることができたと思う。様々な人種のクラスメイトや友達を作ること、日本にいただけでは考え付かないようなアイデアをたくさん吸収でき、将来への展望ができた。語学習得はもちろんだが、それ以上に、違う価値観や考え方を共有し、話すことで今までにはできなかった事を多く経験出来た。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	トゥールーズジャンジョレス大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Département d'études du français langue étrangère に所属していました。
 文法、仏作、会話表現、発音、トゥールーズやフランスの文化的背景などの授業を受けました。
 授業は週 4 回でほとんどが午前中で終わりです。
 クラスの人数は 30 人ほどで、国籍は様々でした。日本人は 5 人でした。
 教科書はなく、テキストが配布されます。
 履修登録の方法は、オリエンテーション期間中にレベル別テストを行い、テスト結果用紙を元に
 クラスアドバイザーと相談しながら、クラスを決めます。その後自分の履修したい授業を用紙に
 記入し、クラスアドバイザーにサインをもらいます。その用紙を指定の場所で登録してもらうと
 履修登録完了です。
 授業形式は授業によって異なります。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

留学を通して音声学の重要性について気づきました。フランスに来て初めて感じたのは、フランス語は、正しく発音しないと本当に伝わらないということです。音声学を学ぶことで、より自由にフランス語を話せるようになりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	トゥールーズジャンジョレス大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コースは **Département d'études du Français Langue Étrangère (DEFLE)** に所属していました。授業は週 4 日、1 日約 2 コマで、ほとんど午前だけです。学年が 3 グループに分けられて、1 グループ 30 人くらいです。同じグループでも半数で受ける授業もあります。様々な国籍の人がいますが、スペイン語圏の人と日本人が多い様に感じます。担当の先生によって使う冊子はグループごとに違うこともあります。教科書はなくプリントが配布されます。授業は文法、会話、フランス語作文やトゥールーズとフランスの文化的背景の授業があります。フランス語以外の語学（英語等）、体育系、音楽系や日本語学科の授業も先生との交渉で受けることができます。授業形式は授業や先生ごとに変わります。履修登録は、オリエンテーション期間中にレベル別テストを受け、その結果をもとにクラスアドバイザーと相談しながら自分のクラスが決まります。その後履修したい授業を履修用紙に記入しクラスアドバイザーのサインをもらいます。そして、サインをもらった履修用紙を指定の場所に持っていき登録してもらうことで履修登録が完了します。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

私は今回の留学を通じてフランス語で、フランス語の勉強をすることの重要性について学びました。日本で勉強をすると日本語でフランス語や文化等について勉強することがほとんどになりますが、留学先では様々な国籍の人たちと一緒に授業を受けるので共通言語がフランス語になります。そのため、自分が質問したい時や授業中の発言は全てフランス語でしなくてはなりません。その結果、フランス語の使用頻度が高くなりフランス語で発言することに抵抗がなくなりました。文法用語もフランス語で学ぶことになるので最初はとても戸惑い、難しいと感じていましたが、すぐにフランス語で学ぶことに慣れそちらの方が簡単だと思うようになりました。フランス人からフランス語を学ぶことで日本人では気づかない視点や日本にはない授業形式から学ぶことでより深く理解することができました。これらのことから私は今回の留学で大きく成長できたと思います。これは、留学しなければ気づかなかったことだと思うので、帰国が早くなりましたが大学生の間に留学できて良かったです。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	トゥールーズジャンジョレス大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

外国人向けの授業をレベル分けテストをを基に履修していました。
科目としては、文法や長文読解、リスニング、文化に関して、発音記号の読み方、会話の授業です。
履修方法は、始めにオリエンテーションがありのその時に説明を受けます。履修登録用の紙をもらいその紙に記載し指定の教室に期限以内に持っていくと言うものです。履修登録の期限は1、2 週間程度ありました。
クラス構成としては、人数は20から30人程度で国籍は様々でした。私のクラスは、日本人が多かった為、クラス内での会話は基本的に日本語になっていました。
一週間の時間数は週一回は休みがあり、他は2、3コマ程度でした。
授業は外大での授業と変わらない感じで行われていましたが、外大よりも宿題が多く出ることや自分自身の意見を述べなければならない事が多く、少し大変でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

二期目も一期と変わらず基本的に同じ学生と同じ科目のレベルが少し上がったものを受けると言う形でした。ですが、一期に履修していた、文化に関しての授業は、そのまま文化を履修しても良いし、もしくはフランスでの就職するための授業、どちらかを選ぶ事が出来ました。

III. 留学で得た学習成果

留学先の授業内で得たことは、自信がないからと言って話さないことや小声になってしまうという事が一学期のうちはよくあり自分が成長していないようにすごく感じていましたが、二期になり話すように努力をし始めたら、出来ない事がよくないのではなく挑戦しない事がよくないというのを実感しました。頭でわかっていてもなかなか実感し実行できていなかったのもその点が一番成長したと感じました。また、わからないことやなぜと疑問に思った事は臆せず聞く事が大切でその上、自分の意見が述べる事がとてもフランスでは大切なんだという事がわかりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	パリ第4大学（ソルボンヌ）フランス文明コース
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019年度2期 から 1年

学習成果報告書

I. 1学期目の学習状況

言語の授業として文法と音声の授業の2つ、そして文明講座の授業を3つ受けました。履修登録はなく、文法と音声の授業はレベルにあったクラスにすでに登録されていて、文明講座の授業は自由参加で登録する必要はありません。

文法の授業のクラス人数は30人弱ほどです。

クラス内に日本人は私だけで、韓国人や中国人などもいましたが一番多いのはフランス周辺のヨーロッパ国籍の方でした。

他にもアメリカ人やロシア人なども少数いて、多様な国籍の方が集まっていました。

音声の授業のクラス人数は15人ほどです。

文法の授業とは違い、母国語の特徴に従ってアクセントを矯正する授業なので東アジアの方が多く、日本、韓国、中国の方がいました。ブラジル、シンガポール人も1人ずついました。

文明講座の授業として、「ヴェルサイユ宮殿の歴史」、「パリの文化・歴史」、「フランス文化」という3つの授業を受けました。

参加人数は時間によって変わりますが、50人ほどが入れる教室が多くの授業でいっぱいになっていました。

遅い時間に開講される授業は10名以下の人数の時もありました。

授業形式は全て講義形式で、文法・音声の授業は発表など発言する機会がありますが、文明講座では質問するときを除いて発表することはありませんでした。

1週間の時間割は午前中に全ての授業が終わる日が1日ありましたが、それ以外の日は午後まで授業がありました。

II. 2学期目以降の学習状況（1年以上の留学の場合）

1期が始まる前にクラス分けテストがあり、2期にもテストのメールが届きましたが、2期では受ける必要ないようでした。

1期と同じく、文法と音声、文明講座を3つ履修しました。

授業形態は1期と同じで、文法の授業では人数や国籍の構成もほとんど変わりませんでした。

音声の授業も形態は一緒ですが、人数、国籍の構成については少し変化がありました。

1期の音声の授業ではほとんどがアジア人でしたが、2期では私を含めて2名で、そのほかはヨーロッパやアメリカ出身の方でした。人数も少し増え、20人程になりました。

2期では文明講座の授業として、「フランス服飾の歴史」、「フランスの伝統・習慣」、「フランス芸術」を履修しました。このうち、「フランス芸術」は学校閉鎖後オンライン授業を開講しなかったためテストを受けることができませんでした。

「フランス芸術」以外の授業は文法音声含めて緊急帰国後もオンライン授業を開講していたので履修を継続しました。

1週間の時間割、授業形式などは1期と同じです。

III. 留学で得た学習成果

フランス語のレベルは確実に上がりました。特に、発音は特化した授業があったため留学前と比べて格段に成長したと感じております。

他にも、フランス人から見たフランスの文化や習慣を教わることができたのは貴重な経験になり、知識も増えました。
異なる国々から来た友人も多くでき、国際的なコミュニケーションをする上で大切なことも身につきました。
留学を現地で終えられなかったのは非常に残念でしたが知識やコミュニケーションなどを向上させることができ、大変有意義な留学体験でした。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	パリ第 7 大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ FLE (外国人向けのフランス語)、履修登録についてはオンラインテストを受けて結果を LANSAD という部門に提出して登録、人数は 10~20 人程度 (アジア、中東、ヨーロッパ人が中心)、週一 2 時間(授業を二つ取れる ex: 文法とオーラル)、講義形式、
- ・ Histoire Littéraire、LSH の部門に行って登録、200 人程度ほとんどフランス人、週一で 1 時間半、講義形式
- ・ Compréhension de l'écrit anglais、LANSAD にて登録、30 人程度全員フランス人、週一で 1 時間、講義形式
- ・ Initiation à l'écrit universitaire、LSH にて登録、50 人程度ほとんどフランス人、週一で 2 時間、講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

- ・ Techniques d'expression、LSH にて登録、50 人程度ほとんどフランス人、週一で 2 時間、講義形式
- ・ Histoire littéraire、LSH にて登録、200 人程度ほとんどフランス人、週一で 1 時間半、講義形式
- ・ Lecture du roman、LSH にて登録、50 人程度ほとんどフランス人、週一で 3 時間、講義形式
- ・ Lecture du conte、LSH にて登録、50 人程度ほとんどフランス人、週一で 2 時間、講義形式
- ・ FLE (外国人向けのフランス語)、オンラインで登録、10~20 人程度上記と同様、週一 2 時間 (2 授業取れる)、講義形式

III. 留学で得た学習成果

リスニング能力、ライティング能力については、授業や授業の課題を通して身についた。しかし、講義形式の授業が多いため、スピーキング能力についてはどれほど伸びたかはわからない。

IV. その他気づいたこと

かなりレベルが高いので、自信のある方にこの大学を勧めたい。

留学種別	TESS II
留学先大学	ボルドーモンテーニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私はボルドー・モンテーニュ大学内の DEFLE で外国人留学生向けの授業を受けていました。留学前に受けるネット上のテストでクラス分けされ、私は DUEF3 でした。使用している教科書から察するに、B1 あたりのようです。履修登録をするというより、学期始めの集会で時間割が配られるので、それに沿って授業を受けていました。

文法・綴り・語彙の授業（週 1 時間 30 分×1+2 時間×1=3 時間 30 分）では、文字通り文法や動詞の活用などを学びました。文章理解の授業（週 1 時間 30 分×1）では新聞など紙の資料の読み取り、口語理解（週 1 時間 30 分×1）の授業ではニュースやインタビューなどの聞き取りや書き取り、筆記の授業（週 1 時間 30 分×1）では出されたお題に沿った作文をしました。音声・綴り（週 1 時間×1）と音声学（週 1 時間×1）の授業では発音方法や、その規則性、発音記号などを学びました。口語・会話の授業（週 1 時間 30 分×1）ではプレゼンテーションや 2, 3 人のグループでの議論をしました。文化の授業（週 1 時間 30 分）では、ボルドーについて学んだ後身近な観光地についてのグループビデオ撮影をしたり、選挙の仕組みや学校の仕組みについて学びました。

これらに加えて 1 時間 30 分の選択科目を 2 種取ることができたので、私はフランス文学入門の授業とフランスのシャンソンの授業を取りました。

前期の週の授業時間の合計は、16 時間でした。全ての授業において、中間と期末テストがありましたが、筆記形式のものやプレゼンテーション、ビデオなど形式は授業によって異なりました。

クラスメンバーは常にほとんど同じで、20 人ほど。同世代の学生さんから社会人の人や子持ちのママさんまで年齢層は日本ではあまりみられないほど広いです。国籍は、中国、台湾、韓国、ベトナム、シリア、イラン、トルコ、アルバニア、オーストラリア、スペイン、ガーナ、アメリカ、ウクライナ、ロシア、コロンビア等々皆さん色んな所から来ているようです。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

私はボルドー・モンテーニュ大学内の DEFLE で外国人留学生向けの授業を受けていました。昨年の結果を受けて、1 つ上のレベルの DUEF4 というクラスで授業を受けました。使用している教科書から察するに、B1~2 あたりのようです。昨年同様学期始めの集会で時間割が配られるので、それに沿って授業を受けていました。

文法・綴り・語彙の授業（週 2 時間×1）では、文字通り文法や動詞の活用などを学びました。文章理解の授業（週 1 時間 30 分×1）では新聞など紙の資料の読み取り、口語理解（週 1 時間 30 分×1）の授業ではニュースやインタビューなどの聞き取りや書き取り、筆記の授業（週 2 時間×1）では出されたお題に沿った作文をしました。音声・綴り（週 1 時間×1）と音声学（週 1 時間×1）の授業では発音方法や、その規則性、発音記号などを学びました。口語・会話の授業（週 1 時間 30 分×1）ではプレゼンテーションや 2, 3 人のグループでの議論をしました。文化の授業（週 2 時間×1）では、ボルドーについて学んだ後身近な観光地についてのグループビデオ撮影をしたり、選挙の仕組みや学校の仕組みについて学びました。

これらに加えて 2 時間の選択科目を 2 種取ることができたので、私は現代フランス文学の授業と演劇実践の授業を取りました。

前期の週の授業時間の合計は、17.5 時間でした。全ての授業において、中間と期末テストがありましたが、筆記形式のものやプレゼンテーション、ビデオなど形式は授業によって異なりました。

クラスメンバーは常にほとんど同じで、20 人ほど。同世代の学生さんから社会人の人や子持ちのママさんまで年齢層は日本ではあまりみられないほど広いです。国籍は、中国、台湾、韓国、ベトナム、シリア、イラン、トルコ、アルバニア、オーストラリア、スペイン、ガーナ、アメリカ、ウクライナ、ロシア、コロンビア等々皆さん色々な所から来ているようです。

Ⅲ. 留学で得た学習成果

まず、文法について復習することができました。時制から理由等を時の表現など。日本で学んだ時よりも、うまく説明できませんがニュアンスが分かりやすく理解しやすいことが多々ありました。

無駄なプライドに邪魔されて間違えたり質問することが恥ずかしいと感じることもありました。先生に近く毎回座ってなるべく自分が質問しやすい状態で授業を受けたりして、1 人でもなんとかやっていけるようにしていました。近くの席のクラスメイトに質問したりして少し会話につなげることも私なりに頑張ったことだと思います。

最初はわからないことだらけで根詰めていたので、出かけても頭の隅に常に宿題や復習の心配事があって落ち着かなかったのですが、いい意味で諦めることを覚えました。

Ⅳ. その他気づいたこと

初めは自分より優秀な人たちに気圧されて授業中に質問できず、わからないことも多くて日々泣きそうになりながら勉強していましたが、英語圏や西語圏の人達は同義語を、例え意味が異なるとしても母国語から引用してフランス語の語彙を予想しているように思えたので、一種の逃げと思われるかもしれませんが、「彼らの母国語はフランス語に似ているから語彙量が増えやすいのであって、あのようなアプローチの仕方は少なくとも私はできない、焦っても仕方ない。」と自分が焦りそうになった時は唱えていました。

留学種別	TESS II
留学先大学	ボルドーモンテーニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

外国人用のレベル別のクラスで学習をした。
 授業科目は、長文読解、文法、リスニング、会話、長文を書く、フランスの文化（地理、特色）の授業があった。
 時間割はすでに決められてあったものをもらったので、自分で授業を選べない。
 クラスは 20 人ほどで、日本人、韓国人、ベトナム人、台湾、中国、ガーナ、ウクライナ、トルコ、コロンビア人がいた。
 週に 1 度全休があり、午前中に終わることが多かった。
 授業形式は教科書か配られたプリントを使っていた。全員参加型の授業だった。よくペアワークをした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

2 学期も 1 学期とほぼ同じだった。
 レベルが上がり少し難しくなった。

III. 留学で得た学習成果

リスニングと会話の能力が上がったと感じた。あとは授業で先生がよくシノニムを教えてくれたので語彙力も付いた。
 外国人用のクラスなので、フランスの生活の上で知っていておいた方がいい単語もよく教えてくれた。例えば CAF や CEVEC や病院に行く方法など。あとは天気のこと、料理、フランスに対して他の国が持っているステレオタイプについての授業は面白かった。
 フランス語のネイティブと話すよりも難しい時もあったが、共に切磋琢磨している雰囲気が良かった。

IV. その他気づいたこと

協定校の欄に英語が受けられるかもしれないと書いてあったが、実際いつ、どこであるのか分からなかった。国際交流部に行ったら夜間のクラスならお金を払えば行けると言われた。（交換留学生でも）それでよく分からなくて語学学校の事務に行って聞いたら、正規の授業は大学に聞いてと言われたので、大学と語学学校の連携があまりちゃんとされていない印象を受けた。

留学種別	TESS II
留学先大学	ボルドーモンテーニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

ボルドーモンテーニュ大学の中で留学生などがフランス語を勉強するところが DEFLE と呼ばれています。

compréhension orale, production orale, grammaire orthographe, compréhension des écrits, écriture textes simples, codes culture/interculture, connaissance culturelles object の授業がありました。

学期が始まる前にインターネットでテストが行われて、クラス分けされるみたいです。1 週間授業を受けてみて、レベルが合わなければ先生に相談すると変更してもらえます。

レベルが DUEF1 から 5 まであって私は 2 でした。2 の中でも niveau1 と 2 で分かれていて、1 学期は DUEF2 の niveau1 で勉強しました。このレベルは時間割があらかじめ決まっていて履修登録はなかったです。

クラスは 20 人で国籍は日本、中国、韓国、台湾、ベトナム、トルコ、ガーナ、コロンビア、スペイン、アメリカなどでした。月曜日が全休、1 コマ 1 時間から 2 時間の授業が 1 日に 3,4 コマありました。講義形式ですが、プレゼンの課題があったり、グループワークもありました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

1 期からレベルが上がり DUEF2 の niveau2 で勉強しました。2 期目になると前期の授業の成績でクラス分けがされるみたいです。レベルが変わらない人もいれば、2 つ上がっている人もいました。時間割も決められていたので履修登録はありませんでした。授業の科目名や授業形式は変わらず、クラスメイトや先生だけ変わった感じです。

III. 留学で得た学習成果

語学力に関しては、正直に、フランス語が話せるようになった！という実感は湧いていませんが留学をする前より少しはうまくできるようになったと思います。

いろんな国籍のクラスメイトたちがみんな積極的に質問したり授業に参加したりしていて、はじめはその雰囲気についていけず、勇気も出せなくてあまり発言できませんでした。積極的に話す、参加することの大切さを改めて実感しました。また、クラスメイトがいろんな国の文化を教えてくれたり、いろんな年齢の人、仕事をしている人と関わり、さまざまなことを知ることができたので私にとってプラスの経験になりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ボルドーモンテーニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

Cours de jour

Compréhension dialogue, interaction oral , compréhension/production écrite , discrimination phonétique, prod mono

事前にテストがありテスト結果で授業が自動で割り振られる

15 人ほど チリ、韓国、台湾、香港、ガーナ、カンボジア、コロンビア

週 4 日 16 時間

ナフスのネイティブの先生のクラス形式と同じ

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

文法を細かくやったのでナフスでできていなかった点もできるようになった。

復習になった。

また時間をかけわかるまで説明してくれたのでわからないところがわかるようになった。

正しい文法を使うよう心がけ、発音も気をつけてするようになり、発音、文法共に成長したと思う。

話すことが楽しいと思えるようになった。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	ボルドーモンテニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 DUEF レベル 2

口頭表現、文章読解、文法、カルチャー、地理

履修方法 自動登録

クラスは 14 人で、韓国、中国、日本、ベトナム、ガーナ、コロンビア、トルコ人。日本人はうち 3 人。

月曜日は夕方のみ 2 時間。火曜日、水曜日木曜日は、昼ご飯を挟み朝から 1 日授業。金曜日は全休。

基本的にゼミ形式。発言する機会が必ずある。口頭表現の授業ではグループワークやグループで行うプレゼンテーションなどプロジェクトがある。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

自分の意志を伝えることの大切さ、またそれを恥じる気持ちが全くなくなった点が成長した。日本の授業では、あまり自分の意見を言わず、黙って授業を聞いていることが多かったが、現地では自分の意見を言わなければならないものようになってしまったため、毎授業で発言をするようにしていた。

そうしたことから、意見を主張することに抵抗がなくなった。

また、単語力が大いにあがった。日常的に耳にするものから、現地の学生が使う生きたフランス語を身に着けることができた。

IV. その他気づいたこと

語学学校でさえ、周りの学生についていくことが大変だったため、学部留学生はとても高いレベルが要求されるのだなと思った。

留学種別	認定
留学先大学	ボルドーモンテーニュ大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 DUEF2N2

- ・口頭表現、文章理解、文章作成、文法、フランス文化、地理
- ・履修方法 - 自動登録
- ・クラス 18 人（韓国 5 人、コロンビア 3 人、ベトナム 3 人、ガーナ 2 人、日本 2 人、ボリビア 1 人
モンゴル 1 人、台湾 1 人）
- ・月曜日 5 時間、火曜日 3 時間半、水曜日全休、木曜日 3 時間半、金曜日 4 時間
- ・ゼミ形式、少人数クラス
- ・授業はホワイトボード、スクリーンを使って行われる。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

日本とは違い他国の留学生は自分の意見や疑問をすぐ発言する子が多く、自分も言葉に出して伝えていかないと何も意見がないとみなされるし授業についていけなくなる。そのため日本にいた時よりも発言することが多くなった。また話す機会が増えるので初めは伝えられなかったことも自然と伝えられるようになった。

IV. その他気づいたこと

同じレベルのクラスの子でも口頭表現が苦手な人や文法が苦手な人など様ざまだった。

留学種別	認定
留学先大学	モンペリエ第 3 大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コースの名前は 2 期生もしくは 1 期制が選べる **Diplomat** コースに通っています。この学校は **DELF, DALF** に基づいてレベル分けされており私は **A2** のクラスに所属していました。授業は 3 つの授業があり **Langue Francais**、**Comprehension orale**、**Phonetique** に分かれています。履修登録は特にする必要がありませんでしたが、学校が始まる前に 2 週間ほど学校に直接書類を提出する期間(**inscriptiion**)があり、その期間の間に 3 日間レベル分けテストがありました。3 日間テストをするのではなく、書類を提出した後と同時に 1 日だけテストをする日を決められます。そのテストの結果によってクラスが振り分けられます。もともと **DELF**、**DALF** の資格を持っている場合は、書類提出のとき公式の結果表を提出すればテストはなく、その結果のレベルの一つ上のレベルのクラスに配属されます。クラスは一クラス大体 18 人程度で様々な国籍の人々がいます。年齢に関してもかなりの層の人々が集まっており、学生はもちろん働いている人や主婦の人もいます。時間割は全クラス同じ時間割でクラスによって時間数が多少異なってきます。そしてクラスによって 1 日休みの日があったりなかったりします。自分で時間割を決めることは基本出来ないようになっています。授業形式は **Langue Francais** のときは、ゼミ形式でグループワークなどを行います。**Comprehension orale** のときはパソコンを使い動画などを見て聞いたりし、**Phonetique** の授業のときはヘッドフォンのついた録音のできる機会先生と機械越しに発音練習したり、自分の発音を確認できたりします。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

2 期からは一つレベルが上がり **B1** のクラスになりました。試験などは特になかったのですが、1 期目の最終テストで受ければ自動的に一つ上のクラスに上がるようになっています。授業は 1 期とあまり変わりませんでしたが、**B1** からはオプションの授業が 2 つ増えることになりました。オプションの授業は 4 つありその中から 2 つ選べるようになっています。クラス構成はあまり変わりませんが 1 期目とはクラスの人々がらりと変わり初対面の人や 1 期目のクラスメートと同じになったりします。一週間の時間割としてはあまり変わりません。授業も特に変わることはないですが、オプションの授業では講義形式となっており席が近い人と意見交換したりなどします。

III. 留学で得た学習成果

私は留学直後基礎がしっかりとできていなかったのもフランス語をしゃべるとき相手にも伝えることができず聞いてもすべた理解できずという状態でした。もう一度基礎から学ぼうと日本から持ってきた参考書をひたすら行いました。ついたころはユースホステルに泊っていたので周りはフランス人ばかりでした。こんな状況でしたが周りの人に一緒に話そうよと誘われたりご飯を食べたりしました。その中でまったくついていけない私にゆっくりでいいからあきらめず私たちに伝えてみてといわれました。そこでチャレンジするように変えていくようにしました。わからない単語や聞き取れなかったところを書いてもらい調べてニュアンスなどを学んでいきました。その後ユースホステルを出た後も学校や日常会話のなかでこういったことを続けていくうちにだんだんと言葉が理解できるようになりました。まだまだたくさん知らない言葉があり会話をするときも伝えきれないことがあったり、理解できないことがあります。到着当時と比べて伝えると読み取る能力は格段に上がりました。学習はもちろん生活の中でこの言葉の通り恥ずかしがらずにチャレンジする大切さと学び続けることの大切さを学んだ留学でした。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	モンペリエ第 3 大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

モンペリエ第 3 大学内語学学校 IEFÉ

Grammaire, Comprehension écrit/oral, Production écrit/oral, Phonétique

入学前に学校独自のテストを受け、レベルごとのグループ発表の際時間割が連絡される

20 人クラス 11 か国籍

月～木 朝 08 : 30 前後開始 13 : 00 前後終了 金曜休み

テキスト 2 冊と適宜配布されるプリントを使用、CO はパソコン室にて指定された素材を聞き質問に答える。

テキストの練習問題を解き答え合わせをし、わからないことを話し合ったり、学んだ文法を使って実践をする授業など様々だった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

1 学期末テストがすべて合格だったため B1 クラスに昇格

Grammaire, Comprehension écrit/oral, Production écrit/oral, Phonétique は変わらないが、**Phonétique** だけ期末試験なし。これに加え B1 からは社会学、文学、演劇、観光学、文化・建築学のなかから 2 つ選択必修。第 1 週目にすべてがお試し受講可で、Moodle にて履修登録

22 人クラス 12 か国籍

月～木 13 : 00 前後開始 17 : 00 前後終了 金曜休み

1 期と変わらず。より話す時間が長くなった。

III. 留学で得た学習成果

理解度は確実に上がったと感じられる。授業では少しレベルの高い問題に取り組むためわからない単語も多いが、そのおかげで新聞や雑誌を読むときにわかることが多くなった。また、政治や宗教的な話題が多く出たため、それにかかわる言葉や日本との比較についても考えるようになった。日常会話表現をより多く身に着け、お店などではスムーズにことが進むようになったのも成果の一つだと感じている。また、ホームステイを通して、冗談や皮肉、ことわざにも触れる機会があり、フランス的な会話センスについても触れた。

IV. その他気づいたこと

フランス語は特に鼻母音や母音の細やかな違いが言葉の意味を左右することがあるため、外大でもより集中的な **Phonétique** の授業を取り入れることが、言語習得の手助けになると考えます。実際、留学先で徹底的な発音矯正をうけ、意識が変わったと感じています。

留学種別	TESS II
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

リヨン・カトリック大学の語学学校である ILCF (Institut de Langue et de Culture Francaises) の仏語集中コース (Programme Intensif) の授業を受けました。具体的な授業名はありません。授業は自動的に登録され、クラス分けテスト後に割り当てられたクラスが授業直前にメールで通知されました。内容は主に語学試験 (DELFI) 対策で、CO(Compréhension Orale)、CE(Compréhension Écrite)、PO(Production Orale)、PE(Production Écrite)を強化しました。前期は午後授業でしたので、14:00～18:00 まで、月曜日から金曜日、水曜日を除き毎日 4 時間フランス語の授業を受けました。

クラスの人数は多くなく、20 人ほどでした。クラスメイトの国籍は韓国人 3 人、ベトナム人とコロンビア人が 2 人ずつ、イラン人、中国人、日本人、マレーシア人、台湾人、香港人、ガーナ人、チリ人、ナイジェリア人が 1 人ずつでした。

後に先生から聞くと、B2-のクラスであった様です。授業では主にディスカッションとリーディングが多かったと思います。ディスカッションはグループでも行いましたが、クラス単位で意見や考えを交換することも多々ありました。違う文化圏の事情をたくさん知れて、とても見識が広がりました。宿題ではライティングがよく出ました。先生はとても親切で、提出した紙が真っ赤になるほど添削をしてくれました。自分の仏語の不十分さを思い知るとともに、反面、とてもよく学べた実感があります。

水曜日の選択授業はメールが送られてきて、そこで、受ける授業は二つですが第四希望まで選択しました。

前期は「仏大学院進学者向授業 (Français sur objectifs universitaires)」と「フランス歴史 (L'histoire de France vue en images)」を選択しました。どの授業も 2 時間で、水曜日も計 4 時間授業を受けます。クラスの人数は、20～30 人でした。どちらもディスカッションが重視されていて、グループワークも多かったです。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

現在、履修中。

III. 留学で得た学習成果

学期の始まりに自分で試しに B2 レベルの問題を解いたことがあったのですが、その時に感じた難しさはやる気が減入るほどでした。問題文も解き方もわからず、とりあえずでたらめ書くものの、ほぼ問題集を開いて閉じただけの状態でした。

授業で文法など以外にも語学試験での問題の解き方や重要になるポイントなども学べたので、学期末に、もう一度その問題を探して解いてみると、全く違って見えました。ムスカ大佐になった気分でした。自分自身でもここまで感じ方が変わらなかつたので、成長を実感しました。また、仏文を読むことやかくことへの抵抗がなくなったと感じます。

また、留学中に積極的に現地で知り合ったフランス人とコミュニケーションを取る様に心がけたので、フランス語の話す能力が以前よりはるかに高まったと思います。まだ時々話す途中で詰まることはありますが、よりナチュラルになり、留学前に感じていたもどかしさの様なものはほぼ無くなりました。

IV. その他気づいたこと

留学生向けの学科にいたので、クラス内でも学生の国籍はバラバラでした。そこで、今まであまり接する機会がなかった地域や文化圏出身のクラスメイトと仲良くなり、話す中でとても視野が広がりました。自分の知らなかった世界をたくさん聞きましたし、自分の他国に関する知識の不十分さも実感しました。

それと同時に、背景や育った環境が違う人々でも、共通の言語があるだけでここまで話し合えるのだなと感じました。

そこに（本学学長がよく強調される）共感力（エンパシー）があれば、人々はより分かり合えるのだなと強く感じました。

留学種別	TESS II
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

インテンシブコース

初回クラス分けテストによって 1 期の時間割が決まる。1 クラス 20 にぐらい（国籍はバラバラで日本人が多いクラスもあれば少ないクラスもある）

月火木金 1 日 4 時間の通常授業（対話方式） 水 2 時間×2 の選択授業

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

今まで何となく読んでいたフランス語の文をちゃんと意味を理解しながら読むようになった。特に長い文章に慣れた。また、語彙力もかなりついたと思う。授業では意見を言うことを求められるので、内容はともかく自分の意見を言う時の典型文を身につけたように感じる。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名 : **INTENSIVE PROGRAM**

授業科目名 : **Le français, S1 Français du tourisme, S1 Renforcement oral 2**

履修登録方法 : インターネットで

クラス構成 : (人数、国籍) : どのクラスも 20 人程度。ベトナム、韓国、台湾、中国、エジプト、シリア、ラオス、メキシコ、コロンビアなどさまざま。

一週間の時間割 : 水曜日以外はクラスが午前か午後のいずれかに分けられ、午前クラスは 9 時～13 時、午後はクラスは 14 時～18 時に毎日フランス語の授業をする (自身は午後クラス)。また水曜日は選択授業。

授業形式 : 人数は基本的に少ないのでゼミ形式。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

コース名 : **INTENSIVE PROGRAM**

授業科目名 : **Le français, S1 Phonétique 2**

以下上記に同じ

III. 留学で得た学習成果

フランス語の会話、作文、リスニングはもちろんだが、特にフランス語圏以外の外国人と話す機会も多かったのもそれぞれの多様な文化や背景を自然に学んでいたと感じる。韓国語やベトナム語、スペイン語もほんの少しだが、彼らから教えてもらうことができた。

IV. その他気づいたこと

先輩方の今までのこれらの報告書を留学前に知りたかった。

留学種別	認定
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

フランス語の **grammar, ecouter, ecrire, oral** を毎週月、火、木、金の午前中か午後クラスに分かれて授業を受けます。クラスの振り分けは事前テストで大学側が分けてくれます。20 人弱のいろんな国籍のだいたい同じ年ぐらいの人たちで編成されてます。水曜日は自分で選択できます。送られてくるメールから履修登録します。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

日本にいる時よりも自分で話したり聞いたりしないといけない状況にあるので、自然とフランス語の能力が身についてきます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	リヨンカトリック大学
留学先国・地域名	フランス
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・ 20h/週 5 のコース
- ・ production écrit, oral / compréhension écrit, oral
- ・ 基本的な勉強は自動的に決められたが、選択可能な科目は授業内容などを見てネット上で決めた
- ・ 20～25 人程度、中国、スペイン、コロンビア、韓国、ベトナム、シリア、台湾、日本
- ・ 固定授業は月、火、木、金は 14 時～18 時までの四時間で 20 分休憩を間に挟む。水曜は選択科目で食文化、口語の勉強をした。
- ・ 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

- ・ 1 期と同様だが、水曜日は映画と旅行をフランス語を用いながら勉強した。
- ・ クラス人数は 26 人で、アメリカ、韓国、ベトナム、ロシア、中国、コロンビア、ガーナ、ブラジル、ギリシャ、日本

III. 留学で得た学習成果

文法、リスニング、作文など多くの分野の勉強をしたことで総合的に学べた。また先生の生徒に対する補助が手厚かったため、授業後に質問できたりと授業内で分からなかった部分の勉強も補えた。特に、作文においては日本ではあまりやらなかったため、勉強することで実践的なフランス語の使い方を学び身につけることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESSⅢ
留学先大学	ブリュッセル自由大学
留学先国・地域名	ベルギー
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

授業科目

ロシア語（初級）

EU にみる組織構造

古代ローマ・ギリシャ美術

多文化理解

履修方法

DEHOL からコースを選択し履修用紙に科目名、コードを記入の上学科のオフィスに提出
クラス構成

留学生が多い印象を受けた

一週間の時間割

月曜日、水曜日、木曜日 ロシア語

月曜日 多文化理解

火曜日 古代ローマ・ギリシャ美術

金曜日 EU にみる組織構造

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

オンラインを通して、授業の復習をする習慣

各分野における深い理解

クラス内における積極性

IV. その他気づいたこと

学科のオフィスやヘルプデスクに行かなければわからなかったことが多かった。

留学生のグループチャットがあったが、いろんな学科のミーティングなどの情報があり、自分がどのミーティングに行けばよいのかが錯乱してしまうことがあった。

留学種別	TESS II
留学先大学	リエージュ大学
留学先国・地域名	ベルギー
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

english language

週 3 時間で国籍は様々。1 時間の授業を週に 3 回なので人数もその授業によりけり。

english linguistics

週 2 時間で国籍は様々。人数は 50 人程度。

international relation organizations

週 2 時間で交換留学生のための授業。人数は 40 人程度。

english levelA

隔週で 3 時間。英語の基礎的な授業なので英語が話せない国籍の人が多い。20 人程度

french

週 2 回で一日 2 時間。レベル分けテストがあるので同じレベルの生徒で受講。20 人程度
履修登録方法は決められた期限までに現地の日本人コーディネーターの先生に受講するクラスをメールする。

1 週間の時間割について、私は 3 日間に集中していたので、月火水は学校で木金は休みでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

留学で一番成長した点はフランス語だと思います。日本で生活している限り、フランス語を日常で使うことはまずないのでなかなか成長できない科目でしたが、留学して生活していてほとんどがフランス語なので最初はとても苦労しましたが、リスニング力など成長したと思います。さらに自己解決能力も成長したと思います。大学に日本人コーディネーターがいましたが、問題が起きたときは基本自分で解決しなければならないので、自分自身で行動して解決する能力が身に付きました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	ロシア国立高等経済大学
留学先国・地域名	ロシア
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

1. International Criminal Law (国際刑事法)

クラスは週一回のレクチャー(講義形式)と、セミナー(ディスカッション形式)で編成されている。クラス人数は 20 人ほどで、ロシア人学生が 8 割、残りの 2 割がヨーロッパからの留学生で、アジア人は私だけであった。ベースとなる教科書を 1 冊(もしくは 2 冊)購入し、それを用いて予習をする。加えて、授業後に教授からのメールで、授業テーマに関する動画やニュース記事、関連する条約や判例などの資料が送られてくるので、それらを参照しながら次週の授業の準備をする。成績評価は **NUFS** とあまり変わらず、授業での発言や、中間レポート、最終レポート、最終筆記試験によって決められる。

2. Introduction to International Law (国際法入門)

クラスは、週一回のセミナーのみである。国際法の中のほとんど全分野を網羅する内容となっている。クラス人数は 30 人ほどで、ロシア人学生が 8 割、ヨーロッパからの留学生が 2 割ほどで、これもアジア人は私だけであった。使用教科書は、シラバスに書かれている **Main Readings** の中から、1 冊選んで購入する。加えて、授業の前日/前々日に送られてくるメールの案内に従いながら、電子書籍も読んだりする。セミナーであるため、国際法の知識がある(もしくは予習をしてくる)前提で、教授からの講義はなく、自由に週ごとのテーマについて議論し、それに対して教授がコメントを付するという感じに進行されていく。

3. International Law in Action: the arbitration of international disputes (実践国際法：国際紛争の仲裁手続)

この授業はオンラインコースである。**HSE** には、**Coursera** を用いたオンラインコースが多々ある。登録した後は、ウェブ上での案内に従って講義動画を視聴し、**Required Readings** を読み、小テストを受けるという流れになっている。それらを終えた後に、**HSE** のテスト期間にオンラインコースで学んだことについての筆記試験がある(かなり難易度が高い)。オンラインコースでの単位が **NUFS** の単位と交換できるかは所属学科の担当教員との相談が必要だと思うが、オンラインコースには興味深いものが多く、単位に関係なく履修するのもおすすめ。

4. Russian Language Course

ロシア語の語学コースは、レベル 1 (zero-level) からレベル 6 (Advanced) のクラスがあり、**LMS** システム(**NUFS** で言うポータルや Moodle のようなもの)でのプレイスメントテストで振り分けられる。各レベル、概ね 20 人ほどで、国籍もヨーロッパからの留学生が多いものの、様々である。私がいたレベル 3 では、購入した教科書を使って先生がロシア語で説明をしていく形式であった。授業は週に 5 コマほどである。基本的にはすべて教室で行うが、中間口頭試験は先生と公園に出かけ、そこで出された課題をクリアするという形のものもあった。

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	上海外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

基本的に授業は選択できない。

それ以外に留学生向けの **All English** の授業や、太極拳、書道などの授業は選択して受けることができる。

クラスは、クラス分けのテストによって決められた。同じようなレベルの留学生たちと受ける。ひとクラス **15-20** にん。

国籍は ロシア 韓国 日本 フランス インドネシアなど。

基本的に 1 日 2 個の授業があり、1、2 時間目にある。

授業形式は **nufs** とほぼ一緒です。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

中国語の読む力、話す力、理解力、作文書く力が上がりました。そして、授業で他の留学生の影響を受け積極的に発言することができた。

授業の文章やみんなでの討論で、中国についてや他の国についても知ることができた。

IV. その他気づいたこと

私がいたクラスは、韓国、ロシア、フランス、インドネシアなどから来た留学生たちは、どの留学生も積極的に発言し、自分の意見を間違いを恐れずに話していました。授業中でわからないことがあったら、先生に聞き、理解しようと努力していました。

留学種別	認定
留学先大学	北京外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

コース名称: 中文学部

科目名: 口語 漢語 読写

履修登録: クラス分けテストで割り振られたクラスの必修科目を受ける。その他に選択科目を受けたい人は各々申し込んで受ける。

クラス構成: 17 人。様々な国の人がいましたが特に多かったのはロシア人と日本人。

時間割: 1 週間に各科目 3 回ずつ。

月～木 10:10～12:00 13:00～14:50

金 10:10～12:00

授業形式: 講義形式

II. 2 学期目以降の学習状況 (1 年以上の留学の場合)

III. 留学で得た学習成果

実際に、中国で暮らすことで、授業でまなばない日常会話をする機会が多く、中国語力が伸びたと思う。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	北京外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

授業科目は必須が 3 つで、口語、読写、汉语

履修登録方法はクラス分けされた時点で時間割が決まっておりこちらが特にすることはなかった

クラス構成は私のクラスは 20 人弱で韓国、フィリピン、タイ、スウェーデン、ロシアなど基本的に 1 日に 2 つの授業を受け、遅くても 3 時には帰宅する

授業は講義形式で 1 講義 100 分で 50 分経つと一度 10 分の休憩があった

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

日本で受ける授業とは違って全てが中国語で行われるのではじめの方はついていくのに少し苦労したが、段々と文脈で理解できるようになり自分から進んで発言できるようになった。また授業で使うような固い表現ではなく日常生活で使うような少しくだけた表現もたくさん学ぶことができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	天津外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

中国語専攻

精読.聴力.閲読.口語

1 週間の体験期間を得てクラスを決める

クラスによってばらばらで私のクラスは 40 人ほどいて後に 2 クラスに分かれました。国籍もばらばらですが日本と韓国が多いです。

週に精読 3 コマ、閲読と口語が 2 コマ、聴力が 1 コマです。

講義形式です

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

全ての授業を中国語で聞くのでリスニングの向上、文章力の向上も感じます。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	天津外国語大学
留学先国・地域名	中国
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私のクラスは中級三班で週に精読三回、閲読二回、口語二回、聴力一回の合計 8 コマ授業があります。授業形式は講義形式です。

自分が希望するクラスに行って先生に自分の名前を言ったら履修登録完了です。

中級三班は初めの時に人数多かったので 2 クラスに分けられました。私のクラスは 30 人ほどです。国籍は日本、韓国、ロシア、アルメニア、アメリカ、ドイツ、ポーランド、スロバキア、キルギス、など様々でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

当たり前ですが授業は中国語、さらに日本人以外の人と喋る時も中国語なので中国語能力やコミュニケーション力も伸びたと思います。他国の人と話すことによってその人の国の文化や土地について深く知ることができました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TⅢ（2 か国目）
留学先大学	国立台湾大学
留学先国・地域名	台湾
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

留学生用のコースはなく、どの学部学科の授業でも履修できる形でした。基礎中国語クラスを 2 つ(国際生華語、国際生實用華語)、中文学科のクラスを 4 つ(探索台灣、商務華語、歴史故事、生活成語)履修しました。履修登録はネットでの抽選になります。抽選はとても外れやすいと聞いたので多めに選択しておかないと単位が不足するかもしれません。1 週目の授業で席に空きがあればその場で追加をしてもらえます。クラスは大人数から少人数まであります。留学生用の中国語の授業では 7~8 割ほどが日本人です。基礎中国語は週 5 日 8:10 から授業です。中文系の授業は月曜日と水曜日に 2 コマずつでした。授業形式は日本とほとんど変わらず、講義形式で、教科書を使いながら問題を解いていく形です。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

中国大陆とは違った方言や漢字を使うため、台湾に留学ができたことはとても良い経験になったと感じます。台湾人学生たちのレベルも高く、とても刺激を受ける環境でした。2 カ国留学を選択したおかげで、簡体字・繁体字の両方を勉強できました。また、今期の留学中には台湾総統選挙があったため、政治面で学ぶこともたくさんあり、現地でしか感じ取れないことに多く触れたと感じます。

IV. その他気づいたこと

台湾大学は他大学に比べ、履修登録やその他手続きなどが複雑なので、とても苦労しました。もし過去に台湾大学へ留学した先輩などに連絡が取れるような手段があると良いのではないかと思います。

留学種別	TⅢ（2 か国目）
留学先大学	文藻外語大学
留学先国・地域名	台湾
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私が履修していた授業は華語中心の授業（週に 750 分）、日中翻訳（週に一コマ）、中国古文（週に一コマ）、英語聴力と会話（週に一コマ）です。私の 1 週間の授業の時間割は、月曜から金曜まで午前中は全て授業が入っていました。午後は火曜日と木曜日だけ授業がありました。華語の授業のクラス構成はベトナム人 3 人、インドネシア人 1 人、ドイツ人 3 人、日本人 2 人の合計 9 人でした。少人数なので発言する機会がとても多いです。特にこの大学では各自プレゼンテーションをする機会がとて多いです。毎回自分で話す機会があるので話す力を伸ばすことができると思います。また、履修登録はガイダンスが行われた日に登録方法について説明され、その後の 2 週間の履修登録期間の間に各自パソコンで履修登録するという流れでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

自分自身がこの大学での留学を通して成長した点は話す力です。この大学では本文のテーマに出てきた内容について、自分の国ではどうなのかを各自プレゼンテーションします。毎回 1 つの文章が終わるたびにプレゼンがあるので 1,2 週間に一回は自分でクラスメート全体に向けて発表する機会があります。最初は何か言いたいことがあっても単語が出てこなかったり、文章にして話せないことがありました。しかし、この大学は少人数のクラスなので言い間違えても大丈夫な雰囲気が強いです。先生方も言葉が詰まると助けてくれるので話せない時も何とか内容を伝えることができます。まだまだ完璧に話せるようになったとは思えない時が多いですが、以前より中国語で人に物事を説明する力がついたと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TESS II
留学先大学	文藻外語大学
留学先国・地域名	台湾
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

授業科目：English6, Introduction to Linguistics, Introduction to Business of system, Introduction of marketing, Government development and change in Southeast Asia, English tests analysis and practice, Intercultural communication, Japanese management system, English listening & conversation, Chinese for exchange students

履修登録方法；留学生向けの授業はオンラインで、それ以外は直接供してで授業を受けてから先生のサインをいただいて現地の交流部に提出

クラス構成；だいたいほとんどが 20～30 人のクラスで英語の授業や日本語の授業は台湾人ほとんど。大学院の授業は 9 人ほどでヨーロッパ籍が多い。留学生向けの授業は、台湾、日本、韓国、ドイツ、イタリア、フランスの学生が多かった。

一週間の時間割；

月 8:00～10:00 ライティング、13:00～15:00 リスニング、15:00～17:00 中国語、18:30～20:10 マネジメント

火 9:00～12:00 東南アジア研究、15:00～17:00 中国語

水 8:00～10:00 多文化コミュニケーション、10:00～12:00 リーディング、13:00～15:00 TOEIC、15:00～17:00 中国語

木 8:00～10:00 言語学入門、13:00～15:00 日本式経営、15:00～17:00 中国語

金 8:00～9:00 言語学入門、13:00～15:00 マーケティング、15:00～17:00 中国語

授業形式；使用教科書は英語のものばかりです。中国語は一切ないです。中国語の授業も英語の教材です。日本語の授業のみ日本語の教材を使っていました。授業は講義形式がほとんどですが、大学院の授業はゼミ形式です。授業もグループワークやプレゼンがほとんどです。大学内の図書館は広く静かで清潔で勉強の環境にはいいと感じました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

ほとんどオンライン授業や授業延期で受けられていないです。

III. 留学で得た学習成果

台湾という複雑な文化や歴史を持つ国で、様々な国籍の人と互いの意見を交換することが多かった。台湾はもちろん日本や東南アジアなど国について勉強することがあり、自国も他国も客観的視点から見れるような、国際的な知識を政治面でも、経済面でもつけることができた。国際的な国だからこそデリケートな部分や大切にしている伝統もあり、異文化理解ということの重要性を改めて深く考えることができた。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TⅢ（2 か国目）
留学先大学	銘伝大学
留学先国・地域名	台湾
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

留学生コースはなく、学部生と同じ授業を受けました。留学生のが受けられる中国語の授業はかなり基礎的な授業でした。中級中国語という授業もありましたが、既に日本で習った内容だったので取りませんでした。履修登録方法はオンラインで登録します。速い者順で、人数オーバーすると順番待ちができますが、人気の授業は順番が回ってこないことが多いので気になる授業は早めの履修をお勧めします。クラス構成はほとんど台湾人で、数人学部生の外国人や留学生がいます。私が受けていた授業には韓国人、マレーシア人、日本人、ベトナム人がいましたが、友達のクラスにはアメリカ人など他の国籍の人もありました。同じ授業は取っていませんでしたが、友達にタイ人、インドネシア人、モンゴル人もいます。人数は授業にもよりますが、いちばん少ない授業で 20 人弱、多いと 40 人ほどいました。一週間に 700 分授業を取りました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

学部生と同じ授業を受けていたので、ネイティブの友達ことができました。正しい発音や速いスピードの中国語を身近で聞くことができたのはとても良かったです。特に、銘伝大学には日本語学科があったので、一緒に勉強をして、わからないところを教え合いできたことが大きかったと思います。

IV. その他気づいたこと

留学種別	TⅢ（2か国目）
留学先大学	銘伝大学
留学先国・地域名	台湾
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

留学生のコースはなく、学部授業を受けました。

私は、ビジネス英語、語用学、中日翻訳、英語のリーディング、ライティング、簡体字の授業を取りました。

履修登録方法はネットからできます。

クラス構成は、殆どが現地の台湾人です。

人数は授業によってちがいます。60 人以上の大人数のクラスもあれば、20 人ほどの少人数のものもありました。

私は、月曜日の午前中にビジネス英語の授業

火曜日の午前中に語用学、水曜日の午前中に中日翻訳の授業、午後に英語のリーディング、ライティングの授業、

木曜日の午前中に簡体字の授業を受けました。

授業形式は、ほとんど講義を聞く形式でした。

英語の授業は英語のプレゼンもありました。

中日翻訳の授業では、校外学習として士林夜市へ行ったりもしました。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

現地の学生に混じって勉強をしたので、

自分にとってはハードルが高かったですが、

授業を受けるにつれて、どんどんリスニング力などがあがっていったように思います。

また、特に英語の授業は周りのレベルが高く、

要求のレベルも高いので、英語のプレゼンなどをしていくなかで

自分の英語能力や、プレゼンの力もつけることができたと思います。

IV. その他気づいたこと

銘伝大学では、華教学部を専攻することになっていますが、

中国語の文法などを学ぶ授業は少なかったように思います。

少しあってないのではないかと思います。

留学種別	認定
留学先大学	又松大学校
留学先国・地域名	韓国
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

2019 年秋学期のソルブリッジ国際大学での学生生活では 6 つの授業を履修しました。私の時間割は次の通りです。月・水①Business Communication ②Korean Intermediate ③Chinese Beginner 1 火・木 ① Highlights of Asian History ② Practice of Application of Verbal Communication ③Writing and Presentation Skills です。授業は一週間に一授業 180 分行われますが、基本的に 90 分の授業を週に二回行う形になります。国際大学なので国籍は多様ですが、クラスによって偏りなどをとくに見られませんでした。履修登録は期間中に個人のパソコンから可能ですが完全に早い者勝ちなので前もって準備しておくことは必須で、ネットワーク状態があまり良く無い場合はネットカフェに行く人も多かったです。私はここまで激しい争いだとは思っていなかったのも波に乗り遅れてしまい、思うような履修登録ができませんでした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

様々な国の人が学びに来るこの学校での学生生活を一番実感しているのは考えの幅が留学前と比べて明らかに広がったことです。クラス内でのディスカッションで、またクラスメイトの発言やプレゼンテーションを聞いて今まで通り学んでいたらたりつけなかったような考えを多く聞くことができ、とても刺激的でした。そして授業に対しての積極性が高く、ほとんどの人がそれぞれに共感したり反対したり質問の数も多くてとてもいい環境だと感じていました。それに加えどの授業でも多国籍であることを踏まえているため、珍しい意見が当たり前だったことが私の積極性にもつながり、伝えることができたのでいい学びができたと思っています。それに関連して、みんなが自分たちには国籍が違うということをととても自然に意識にあって接しているのにそれを受け入れるというよりそれを超えてあたりまえのように一緒に学び話し食事をしたり生活をしていたので、いかにも共生という感じの生活がうれしく、そのことが私にとって貴重な体験となりました。

IV. その他気づいたこと

留学種別	認定
留学先大学	国民大学校
留学先国・地域名	韓国
留学期間	2019 年度 2 期 から 1 年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

私は、学部開放授業を受講しました。受講したのは、Movie Listening in English, Issues on Contemporary Japan, Korean Society and Culture, Korean Language and Literature, Korean3 です。各英語、日本語、英語、韓国語、韓国語で受。講しました。履修方法は、韓国の時刻基準で、決められた時間に一斉に履修登録をし、抽選ではなく、先着順という形です。表示などが韓国語のため、韓国語がわからない方にとっては難しいと思います。クラス構成は授業によってバラバラなのですが、英語での授業は 50 人以上で、アメリカ人やロシア人、中国人など多国籍でした。日本語での授業は、日本人と韓国人で 15 人ほどでした。韓国語の授業は、中国人、モンゴル人、ロシア人などで 20 人ほどで授業を受けました。英語での授業のみ、講義形式でした。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

国民大学に留学して、英語を聞く力、韓国語で話す、聞く力、日本のことを考える力が成長したと感じています。特に韓国を英語で学ぶ授業では、韓国のことを知らない人同士が、実際に文化に触れながら英語で話し合ったり、グループを作りプレゼンテーションを行うことで、お互いの文化の違いや、自分の英語力の物足りなさを実感しました。そう感じてから、空き時間に英語の勉強に取り組んだり、自ら何か行動に移すという点が一番成長したのではないかと感じます。勉強ではなく、その他の手続きの場面でも、出会った友達に助けてもらう事はありませんでしたが、最終的には自分で解決しなければいけないことがほとんどなので、人間面でも成長できたのではないかと思います。

IV. その他気づいたこと

入寮時に、必ず TB テストという検査の結果を提出することが必要です。TB テストは結核の検査だと思いますが、証明書を持参しなかったため、韓国の病院で受診しました。

留学種別	認定
留学先大学	釜山外国語大学校
留学先国・地域名	韓国
留学期間	2019 年度 2 期 から 半年

学習成果報告書

I. 1 学期目の学習状況

- ・コース名称：영일중대학, 영어학부 (英日中学部、英語学科)
- ・授 業 科 目 名 :
영어작문 3, 디지털관광영어, 일본어한국어 tandem 학습 2, 영어회화 2, 영어주제와말하기 2 (英語作文 3、デジタル観光英語、日本語韓国語タンデム学習 2、英語会話 2、英語主題と会話 2)
- ・履修登録方法：釜山外国語大学の国際交流部の方に希望する授業を提出し、国際交流部の方が履修登録を行ってくれた。
- ・クラス構成：クラス人数は少ないもので 10 人ほど、多いもので 30 人ほど。国籍は基本的には韓国、中国、日本、ロシア。
- ・1 週間の授業時間割：どの授業も 50 分×3 で編成されていた。
- ・授業形式：どの授業も学生が積極的に参加できるようなものであり、話すことに特化した授業が多かった。

II. 2 学期目以降の学習状況（1 年以上の留学の場合）

III. 留学で得た学習成果

釜山外国語大学では学部授業を受けていたので、周りの人たちの国籍はほとんどの場合韓国だった。そのため日本語はもちろん通じない状況だったので、英語や韓国語を使って積極的に会話をすることができた。また、私は会話の授業を多く履修していたため、英語で自分の考えを述べたり討論する機会が多くあり、母国語以外で自分の意見を述べたり討論することの難しさを実感した。また、最初の方は自分の意見を持つことも難しかった。しかし、授業の回数を重ねるごとに自分の意見を持てるようになり、さらに留学開始時に比べ英語や韓国語でその意見を述べることに抵抗がなくなり、積極的に会話に参加できるようになった。

IV. その他気づいたこと

授業の雰囲気は日本の大学と似ているけれど、授業に対する参加態度は韓国の方が積極的であると感じた。

